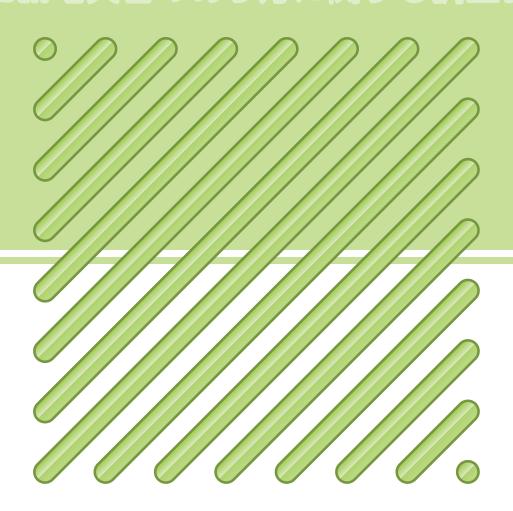
#### 平成21年度 「地域保健総合推進事業」事業

# 保健師教育における新カリキュラムに対応した臨地実習のあり方に関する調査研究



研究期間 平成21年4月~22年3月 研究代表者 森岡 幸子



#### 研究要旨:

平成21年度に改正された保健師助産師看護師養成所指定規則に対応した保健師教育における臨地実習のあり方を検討するため、実習施設の実習指導者、ならびに教育機関の教員にヒアリング調査を行い、旧カリキュラムで実施されている現行の臨地実習における課題を検討した。その上で、実践で求められる保健師としての資質を確保し、現場で活用できる臨地実習の実習計画モデルを作成した。

その結果から、臨地実習で学生が学ぶべき実習体験項目や、保健師教育における臨地実習を看護師教育課程の積み上げとして行う必要性や、実習施設および教員の指導体制など、実習計画を遂行するにあたっての条件について考察した。

#### 研究担当者

#### 代表者

森岡 幸子 大阪府健康医療部保健医療室地域保健感染症課参事

#### 分担者

松井 通子 千葉県立野田看護専門学校副校長

鎌田 久美子 福岡県保健医療介護部医療指導課課長技術補佐兼看護指導係長

佐藤 美佐子 北海道胆振保健福祉事務所苫小牧地域保健部企画総務課主査

岡島 さおり 札幌市北区役所保健福祉部保健福祉課保健支援係長

松本 珠実 大阪市健康福祉局健康推進部担当係長

藤山 明美 神戸市東灘区保健福祉部健康福祉課主幹

岡本 里美 豊中市健康支援室健康づくり推進課主幹

野口 久美子 福岡県遠賀郡水巻町役場健康課長

多田 敏子 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授

佐伯 和子 北海道大学大学院保健科学研究教授

藤丸 知子 長崎県立大学大学院教授

横山 美江 大阪市立大学大学院看護学研究科教授

# 目 次

Ι	緒言	1
П	方法······	1
	1 実習に関する意見の調査	1
	1) 調査対象およびデータ収集方法	1
	2) 調査内容	2
	3) データ分析方法	2
	4) 倫理的配慮	2
	2 臨地実習計画の作成	2
	1) 方法	2
Ш	結果	2
	1 インタビュー結果の概要······	2
	2 実習計画の立案	13
	1) 前提条件	14
	(1) 教育機関に関して	14
	(2) 学生に関して	14
	(3) 実習施設の条件	14
	2) 実習目的	14
	3) 実習目標	14
	(1) 公衆衛生看護学実習 1	14
	<公衆衛生看護基礎実習 1単位>	
	(2) 公衆衛生看護学実習 2	14
	<地域保健活動実習 3単位>	
	4) 実習場所および方法	15
	5) 実習での必修体験項目	15
	6) 教員と実習指導者の役割	15
	(1) 教員の役割	15
	(2) 実習指導者の役割	15
	7) 実習項目	16
IV	考察	17
V	結論······	20

# 資 料

資料I	インタビューガイド	23
資料Ⅱ	インタビュー結果	27
資料Ⅲ	4単位での実習計画案	66
資料Ⅳ	理想的な実習計画案	78
資料V	発表抄録・資料	94

# I 緒言

近年、保健所や市町村保健センターに従事する保健師は、地域住民と協働したヘルスプロモーションの展開や地域ケアシステムの構築、高齢者虐待や児童虐待、自殺防止など複雑化した健康課題、新型インフルエンザ等健康危機管理などへの対応を行っており、より高度な専門能力や行政能力が求められてきている。

そういった中で、看護師および保健師の国家試験受験資格を卒業要件とする看護系大学が急増し、 それに伴い、地域で保健師が指導を担当する実習生の人数や期間が急増し、実習受け入れ側の指導 体制の検討が急務となってきた。

これまで、全国保健師長会では、平成19年度から保健師教育における臨地実習について会員との意見交換を重ね、平成20年度には地域保健総合推進事業として「保健師教育における臨地実習のあり方に関する調査研究」(研究代表者 松井通子)を行い、臨地実習における学生の実習体験の少なさや実習生を教育する上での施設側・教育機関側双方の体制上の問題などを明らかにしてきた。

一方、保健師教育については、平成19年に設置された全国保健師教育機関協議会保健師教育検討委員会において、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を踏まえて「卒業時に修得すべき技術項目」が選定され、その検討結果を基に、平成20年9月19日付けで厚生労働省から都道府県の衛生部(局)あて「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」が通知された。しかしながら、平成20年に保健師教育機関を対象に行われた調査によれば、保健師教育の到達目標の達成度が低かったことが報告されており、保健師の質を確保するための保健師教育の充実が急がれている。平成20年度の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正により、保健師教育課程における地域看護学実習については、3単位から4単位に増加しており、4単位の中でどのような地域看護学実習を行うのかを早急に検討する必要性が生じている。

そこで本研究では、旧カリキュラムでの保健師教育における3単位の臨地実習がどのように展開されているのか、その内容を把握し、4単位での臨地実習計画の具体化や、実習施設と教育機関の役割分担、実習における到達度などを分析して、今後の臨地実習のあり方を考察することを目的とした。

### Ⅱ 方法

#### 1 実習に関する意見の調査

#### 1)調査対象およびデータ収集方法

#### (1) 調査対象

実習施設として都道府県保健所 5 施設、市町村保健センター 11 施設、中核市 1 施設、ならびに 政令指定都市 3 施設の計 20 施設を対象とした。また、教育機関として、看護系大学 11 校、および 保健師養成所 2 校の計 13 校を対象とした。

#### (2) 調査方法および期間

研究協力者が分担して、インタビューガイドに基づき実習施設指導者、教育機関教員にヒアリング調査を行った。一部メールによる調査も行った。また、教育機関には、地域看護学実習要綱の提供を求め参考とした。調査期間は平成21年8月から10月である。

#### 2) 調査内容

調査内容は、新規採用時時点で保健師に必要な能力・力量・態度・価値観、地域看護学実習のあり方、各種保健事業の実習実施状況と課題、効果的な実習を行うために必要な事前準備・事後の教育・実習中の学ばせ方(家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、地区組織活動、グループ支援、関係機関・関係職種との連携、地域診断、その他)実習指導者、教員に求められること等である(末尾のインタビューガイド参照)。

#### 3) データ分析方法

データ収集者が、個々にインタビューした内容を記述したデータをもとに、インタビューガイドに沿った項目について「現状」、「これからも発展させたいこと」、「現状では難しいこと」について、記述内容に変更をきたさないように集約した。インタビュー結果を反映し、4単位の臨地実習計画として具体化した。インタビュー内容については「」で示す。

#### 4) 倫理的配慮

倫理的配慮として、研究の趣旨を説明し、対象施設の同意を得た。また、対象施設が特定される ことのないよう配慮し、分析を行った。

#### 2 臨地実習計画の作成

#### 1) 方法

インタビュー結果を基に、新規採用時点における保健師に必要とされる能力を基準に実習計画立 案の方向性を検討した。

研究班立ち上げ後平成21年7月に、保健師助産師看護師法の一部改正をふまえ、実習計画は、 ①実習計画展開の前提となる条件、②実習目的・目標、③実習方法、④実習指導者と教員の役割、 ⑤実習項目、⑤計画遂行における課題が明確になるように作成した。

#### Ⅲ 結果

#### 1 インタビュー結果の概要

インタビュー結果から、今回対象とした教育機関は、家庭訪問の同伴訪問実施率が100%、単独訪問実施率が25%であり、平成20年度「地域保健総合推進事業」保健師教育における臨地実習のあり方に関する調査研究で報告されている家庭訪問の同伴訪問実施率68.7%、単独訪問実施率13.2%の全国平均と比較して実習体験が多いという特徴があった。また、対象とした実習施設につ

いても、同調査研究結果と比較して、同伴訪問実施率 95%、単独訪問実施率が 20% であるなど、 全国平均と比較して、多くの体験実習を実施させていた。

#### 1) 新規採用時点での保健師に必要な能力・力量・態度・価値観

新規採用時点での保健師に必要な能力・力量・態度・価値観としては、教育機関と実習施設に共通していたことは、「基本的な地区活動ができ、またその必要性を理解できる能力」、「対人関係能力」、「保健師の役割や活動能力を理解し、職業観を持てていること」が挙げられ、実習施設ではそれ以外に「社会人としての自覚」が挙げられた。また、「基本的な地区活動」として、教育機関では「地区把握から地区活動への展開」や「健康教育や家庭訪問、健康相談などの活動」が挙げられ、実習施設では「予防の視点」や「グループ支援が展開できる援助技術」を習得する必要があることが指摘されていた。態度や価値観としては、いずれも、「保健師活動は地域住民のための活動」としており、責任感や探究心や向上心を持ち、人を尊重する態度が必要であることが挙げられた。

#### 2) 実践能力を備えるための保健師教育、地域看護学実習のあり方

前述したような能力を備えるためには、地域看護学実習における実習指導者の指導力について、教育機関からは「実務経験を 5 年以上有していること」、「実践をふまえての理論と実践の統合を学習支援できる能力があること」が期待されていた。実習施設からは、実習指導者は、複数の学生を受け持ち、日々の業務と並行して指導を行なっているため、「業務や配置の関係上指導に専念できない」現状が挙げられ、「実習指導者 1 人あたり  $1\sim 2$  人の担当が適当」であり、現状では困難であるが「実習指導者が指導に専念できるような業務体制」や「実習指導者のレベルを基準化する」必要性が挙げられた。

教員については、実習施設から「教員1人あたりの学生数が多い」、「地域看護の経験がない」現状が挙げられ、教員には「地域看護の経験を有する者」、「大学では講師以上」など一定のレベルを期待していた。実習場面においては「健康教育場面やカンファレンスなどへの積極的な参加」、「学生のプロフィールや普段の状況を把握した上で指導する」、「実習に同行し、スタッフの説明内容と学生の学びをつなげる」、「カンファレンスやデモストレーションの補足に関わり、地域看護実習後の学内での教育につなげて欲しい」ことが指摘された。また、「教員と実習指導者の役割の明確化」、「実習指導者と教員の連携」の必要性が挙げられた。

実習期間については、いずれも「現在の実習期間では十分な学びを得られていない」ことが指摘されていた。教育機関からは「学内演習・事前・事後学習の時間が確保できない」現状が挙げられ、「前期・後期制にし、前半は地域診断、後半は健康問題、健康教育に取り組むなど」の工夫が挙げられた。実習施設からも「前期・後期制の実習にし、事前実習1週間、学内演習2週間などと実習期間を分ける方が効果的がある」という意見がみられた。

授業や学内演習については、教育機関からは、「看護師教育の各分野と保健師教育の各分野の関連づけができる授業内容が必要」であることや「学内演習の充実の必要性」が挙げられた。実習施設からは、「グループワークやディスカッションを行って、学生個々人が自分の思考パターンや苦手な部分を自覚できる」、「ロールプレイを取り入れた学内演習」、「事業全体の位置づけ・ねらいなど、事業に関しての基礎学習」、「十分な地区踏査・地域診断」など教育内容の充実に関する期待が挙げられた。

実習内容については、教育機関からは、「各事業の見学実習が主になっている」、「継続訪問事例を持つことができない」、「訪問回数が少ない」、「カンファレンスを毎日実施できていない」現状が

挙げられ、「各領域の様々な事業見学をすることで、ヘルスケアニーズを把握する」、「実習中の各種事業の参加を通じて地域診断に反映させる」、「毎日カンファレンスを行い学内で得た学びと実習で得た学びを結びつける」必要性が挙げられていた。また、現在では難しいこととして、「家庭訪問などの個別支援とともに、住民に対する集団支援を学び、地域診断、計画、活動、評価、保健師の事業の一連の流れを理解する地区活動を系統的に学ぶ実習」、「健康教育(アセスメント、計画、実施、評価の一連のプロセスを体験し、予演会は最低2回必要)の実施」、「家庭訪問、健康相談などの個別支援の充実(直接支援する機会があること。事例数の増加8事例程度)」、「個別支援能力を強化するために、継続事例を受け持つ」など体験実習の充実の必要性が挙げられた。実習施設からは、「住民と関わる機会を持つ」ことの必要性、および家庭訪問に関して「継続訪問する」、「回数を増やす」、「単独訪問する」ことの必要性が指摘された。また、「事業の体験」や「健康教育の体験」への期待が挙げられた。

#### 3) 今後の地域看護学実習を充実させるための取り組みについて

今後の地域看護学実習を充実させるための取り組みについて、教育機関からは、「見学中心の実習になっている」現状に対し、これからは「地域において主体的に公衆衛生看護活動を展開できる基本的能力」、ならびに「保健師の専門性の理解」を養う必要性が指摘されていた。現状としては、短い実習期間と見学実習中心であるため、「保健師の行う保健指導・相談・教育技術についての基本的技術の習得」、「コミュニティエンパワーメントと組織的なヘルスプロモーション活動についての理解」、ならびに「地域のアセスメントニーズと各事業とを関連づけ」などが難しいこととして挙げられた。

実習施設からは、「実習期間が短いため、十分な実習内容にならない」、「全ての学生が保健師志望ではないため、モチベーションが低い」という現状が挙げられた。一方、これからも発展させたいこととしては、「地域において主体的に公衆衛生看護活動を展開できる基本的能力を養うこと」、「保健師の専門性の理解について学びを深めること」、「保健事業の法的根拠についての理解を深めること」、「地域住民の力について知ること」が挙げられた。「住民のニーズに対する事業化、施策化の過程への取り組み」や「ヘルスプロモーションについての学びを深めること」が現状ではできていないこととして指摘されていた。

教育機関からは、保健師教育に必要な実習期間を確保し、保健師教育を高度専門職業人教育と位置付けるには「教育を大学院で行うこと」が挙げられた。

#### 4) 家庭訪問について

現在の実習における家庭訪問の実施状況は、家庭訪問の事例数は、教育機関も実習施設も「1~2例」が多く、訪問回数は「1回以上」が多かった。実習施設には「訪問可能な事例がない」という施設もあった。訪問形態は、「見学訪問のみ」が最も多く、教育機関では「同行訪問で見学が主であるが計測など学生が実施できる部分は実施」、「同行訪問 1 例と主体訪問 1 例」、「主体訪問を学生単独または学生ペア訪問」という回答があった。訪問事例は、新生児が最も多く、高齢者、母子、精神、成人が挙げられた。教育機関では、事前学習として、「訪問計画の立案、ロールプレイ、学内演習による技術の習得、eラーニングの活用」などが実施されていたが、「事前の学内での演習・準備は現実的に難しいため、講義で行っている」という回答もあった。実習内容では、実習施設から「記録用紙を実習施設と書式を揃える」、「訪問後は、大学教員は理論と実践の統合をする」ことが必要であることが指摘された。

現状では難しいこととして、教育機関からは、「1事例に2回以上訪問する継続訪問実習を行う」ことが挙げられ、今後に向けては、「3事例程度(母子、成人、高齢者、その他)について看護過程を展開して実施すること」、「1事例は2回以上の継続訪問」、「1事例以上の単独訪問」、「その他疾病を持つ事例1事例(結核、精神、難病など)」の家庭訪問を行うことの必要性が指摘されていた。そのために、「看護師教育課程での病院実習が終了し、基本的な看護技術が実施できる時期に実習を行うこと」、「実習期間の延長」、「保健師教育を大学院での教育にする」ことが望まれる。

さらに、現状では難しいこととして、実習施設からは「現在の実習期間で、学生の技術、知識が 浅いので単独訪問はできない」、「家庭訪問はプライバシーの問題のため、保健師であっても受け入 れが難しく、本当に必要なケースに学生を同伴させることが難しい」という課題が挙げられた。今 後に向けては、教育機関と同様に「家庭訪問計画を立案し、単独訪問ができる」、「単独訪問」、「継 続訪問」、「様々なライフステージ、分野のケースを体験させる」などが挙げられた。また、そのた めには「すべての病院実習が終了し、基礎知識がある4年次での実習」、「実習期間の延長」、「家庭 訪問に合わせた実習スケジュールの調整を行う」などの前提条件や解決方法が挙げられた。

#### 5)健康相談について

健康相談の実施状況は、教育機関からは、主として「母子健康手帳交付時の健康相談、老人クラブの健康相談などでの見学」が挙げられ、実習施設からは「機会がない」が3施設認められた。今後の取り組みでは、教育機関からは、「学内での面接技術演習や健康相談演習、それに関する講義が必要」、「学生が何度か実施できるような体制づくりが必要」が挙げられた。実習施設からは、「ただの見学になっており保健事業につながるということが学べていない」、「現在の学生の知識では臨機応変な返答が必要な個別の健康相談は難しい」ことが指摘され、今後、「事前事後のロールプレイの実施」、「健康相談ができるような基礎学力、看護技術の習得に学内でレベルを上げてから実習に望む」など事前学習の充実を求める意見もみられた。また、「健康相談(特定保健指導など)は外部委託になっている事業も多く事例が少ない」という課題が挙げられた。

#### 6)健康診査について

健康診査の実施状況については、「誘導や計測を実施し、問診や保健指導は見学」という回答が多かった。実習施設からは、「機会がない」が2施設あった。教育機関からは、「実習期間が短く健診を実施していない期間に当たる場合がある」、「健診を外部委託しているため事業自体が少ない」という課題が挙げられた。今後は「身体計測、血圧測定、一般的な保健指導については一人で実施できる程度のレベルまでの事前学習が必要」、「各発達段階に応じた対応の事前学習」、「地域のアセスメントデータから健診事業の企画、場面の実施、その後のフォローアップや評価を含めての学習」、「保健師の指導を得ながら問診や保健指導を実施させるため実習先のカルテに基づいた学内演習」、「自分の保健指導を振り返ることの必要性」などが挙げられた。

実習施設からは、「すべての病院実習終了後に基本的な技術、知識をつけてからでないと参加は難しい」、「短い実習期間の中で、健診が実施されない期間もあるため、実習期間の延長または、期間の調整が必要である」、「記録が感想文になっている」という課題が挙げられた。今後の取り組みとしては、「記録の充実」、「見学のみでなく、問診や計測の実施」、「健診に参加するのみでなく、事前の計画から当日の準備、実施、事後カンファレンス、評価までの一連の過程を学ぶ」、「健康診査と保健事業の関連を学ぶ」ことが挙げられた。

#### 7)健康教育について

健康教育の実施状況について、教育機関からは、「学生主体の健康教育を実施している」が多く、「保健師が行う健康教育の一部を担う形で10~15分を学生が担当する」と回答した機関もあった。しかし、「見学のみ」と答えた教育機関もあった。実習施設からは、「実施できていない」が2施設あった。

教育機関からは、事前学習として、「健康教育を企画・指導案作成・発表を体験し評価している」、「自治会と協力して開催しているため、事前に役員から教員が地域の生活ぶりや健康問題を聞いておく」、「実習施設の指導を受けながら、予演会、リハーサルを通じて本番に臨んでいる」が挙げられた。事後学習として、「カンファレンスによる学生間、実習指導者、教員の間での評価」、「アンケートなどを活用した参加者からの評価」を行っているところがあった。今後の取り組みとしては、「地域のアセスメントを行い、そのうえで学生が健康教育の企画から一連の過程を行うことが望ましい」、「事前に授業の中で指導案を立て、演習として短時間の健康教育を実施、学生間で評価して指導案をより良いものにしていく」、「現在の実習日数では準備を十分行うことができず断念しているが、今後1か月以上の実習期間が実現すれば是非実践させたい」などが挙げられた。

実習施設からは、「テーマの選定を実習先が決定している」が8施設あり、「事業を挙げて学生側が選択している」が6施設あった。「実習前に施設を訪問し、対象者とふれ合い対象者を知り、ニーズを把握し、テーマを設定している」が2施設あった。今後の取り組みについては、「単なるプレゼンテーション技術ではなく、看護の視点を持って、わかりやすく伝えることを学んできてほしい」、「地域診断と健康教育のテーマを結びつけ、学生がテーマを設定し、事前準備から実施までできるよう助言」、「事前の学内演習が重要」という意見が挙げられた。また、今後の学ばせ方としては、「保健師志望者には見学ではなく実践を必須としたい」、「実習期間内に対象者の地域に出向かせて、住民がその後どうなったかを自分で評価させたい」という意見が挙げられ、「保健師志望者のみに絞って実習を受入れ、期間中に自分でテーマを決め、準備してから実践、事後観察まで一人で通して体験させたい」という到達度に関する意見が挙げられた。

#### 8) 地区組織活動について

地区組織活動については、「学ばせたいが、活動の有無や時間の関係でできない場合がある」という課題が挙げられた。実施内容については、教育機関の半数は、「推進員・民生委員・自治会役員などへの面接」や「民生委員の活動、セルフヘルプグループの集会に出席するなどの見学、参加」での機会があり、実習施設からは、「実習先での保健師からの説明」が13施設と多かった。今後の取り組みとして、教育機関からは「学内では面接技術演習、地区組織活動論に関する講義の必要性」、「場面の参加だけでなく、保健師の意図や役割の説明の必要性」、「事前、事後で学習の確認のためのカンファレンス等の必要性」、および「実践が終わってから指導者からの助言、教員の指導の必要性」が指摘された。特に、事後学習として、「地区組織活動の意義や保健師の役割、コミュニティエンパワーメントと組織的なヘルスプロモーション活動について確認する」必要性が挙げられた。また、現状では難しいこととして、「学生が主体的に地区組織の代表者と連絡をとり、面接・見学の日程を調整し、指導者へ連絡しながら、一緒に活動に参加し、継続した関わりを持ちながら、自分たちでインタビューできる程度のレベルが望ましい」、「修士課程であれば継続的に地区組織活動に参加し、介入評価につながる活動展開が実習中に可能」という意見が挙げられた。

実習施設からは、「実習項目に入れていない大学があるため、保健師志望者には必須としてほしい」、「管内の断酒会、○○(以下AA)、思春期を考える会などの地区組織活動から個別支援との

つながりを見ることもできるが、夜間や土日の開催のため学生の参加が困難」、「多くのことを経験してほしいと思うが、学生の意思を尊重して希望があれば参加させてほしいというのが教育機関の考えのようなので、保健師になりたい学生ばかりではないため積極的に勧めることはできず、学生の気持ち次第という実習に疑問を感じる」という課題が挙げられた。事前学習として「グループインタビュー、ロールプレイについての学習」、「地区アセスメントの学習では活用できる組織や団体にも重点を置く」ことが期待として挙げられた。今後の取り組みとしては、「地域の健康課題を明らかにし、キーパーソンを見つけて地域を動かしていくプロセスを学ばせたい」、「まちづくり部門や食生活改善推進事業など他部門や職種と保健師がどのように連携しているか見せたい」という意見がみられた。

#### 9) グループ支援について

グループ支援の現状は、「実習先での保健師からの説明(組織の目的や活動の経緯、保健師が果たしている役割など)」、「グループ活動への参加」、「当事者または地区組織の代表者へのインタビュー、意見交換などの面接」、「患者会・家族会の見学」などが挙げられたが、教育機関からは「支援があれば体験するが、なければ学べず、体験できる学生とそうでない学生がいる」という課題も挙げられた。事前学習については、「事前準備はあまりできていない。グループ支援の方法にまで目が向いていないかもしれない」という現状が挙げられた。今後の取り組みとして、「グループ支援の特徴、意義、支援技術を理解するために、保健師と一緒に参加し、体験することが必要」、現状では難しいこととして、「グループ支援は一人で実施できる程度のレベルを学生に望むのは難しい」という意見が挙げられた。

実習施設からは、今後の取り組みとして「グループ支援の意義や期待できる効果などを事前に学内で学習することの必要性」、「インタビューの事前準備として聴く力や感じ取る力、コミュニケーション力が必要性」が指摘された。また、「グループの成熟度や構成・性質などによる支援の仕方や度合いが異なってくることへの学び」、「訪問とグループ支援のつながりがわかる実習」、「巡回指導で学生の経験を学内での学びと統合させ理解を深めるような指導」への期待が挙げられた。

#### 10) 関係機関・関係職種との連携

関係機関・関係職種との連携の実施状況については、教育機関、実習施設ともに「実習先での説明」が多く、「関係機関連絡会などの会議や施設の見学」、「受け持ち事例を通してどのような人と連携しているかを学ぶ」、「関係職種のもとへ伺い、話を聞く」などが挙げられた。

難しいこととして、教育機関からは、「体験できる部分が少なく、保健師の説明によるところが多くなる」という課題が挙げられた。今後の取り組みとして、「体験できなくても保健師が連携していることを学べるよう講義では例をあげて理解を深めておくこと」、「ケア会議や家庭訪問事例や事業を通じて、関係機関との連携の場面を捉えて意識的に学生と関わっていき、カンファレンス等でその意味づけをしていくこと」などの意見が挙げられた。また、「家庭訪問や各種保健事業で関わった事例について必要な場合は、関係機関との連携について判断し、指導保健師の指導のもと実施させたい」という意見が挙げられた。

実習施設からは、「一場面しか見ることができていない」という現状も挙げられ、今後の取り組みとして、「事前、事後に学習していくことが必要」、「単発でその場を見せるだけではなく、訪問や地区組織活動のプログラムと関連性を持たせて見学できるようにしたい」、「学生自身から疑問や支援方法を引き出してどのような機関にどのような目的で連絡し、どのような連携をめざすのかを

考えさせる実習にしたい」という意見が挙げられた。難しいこととして、「関係機関との実際の連携の場まで経験することは難しい」、「実習期間が延長すれば、地域ケア会議、事例検討会、協議会等への参加や連携の場面の見学も考えられる」という意見が挙げられた。

#### 11)地域診断について

地域診断の実施状況については、全ての教育機関が「学内演習として分析、健康問題を抽出。実習を通して修正し、まとめ、報告する」ことを挙げていた。実習施設からは「実習施設から事前に提供する既存資料と学生自身が集めたデータをもとに、学内で地域診断を行い、実習前半の日程で地域診断結果を発表させ、教員と実習担当保健師が助言する。そこから導き出された健康課題について、実習中どのように学びたいか発表させ、見学内容や訪問事例の選択などに可能な範囲で反映させている」施設もあったが、2 施設は「地域診断までは実習中に行きつかない」と回答していた。

今後の取り組みとして教育機関からは、「地区での活動と施策化のつながりの理解を深めたい」、「統計データだけではなく、日常活動から得られる質的なデータを地域診断に活用することを学ばせたい」、「理論が実習での地区活動体験ではどう結びついたのか、自分の言葉で語れるようにしたい」、「地域診断結果を実習後の授業等で評価する機会があると、さらに学びは深まる」など学習の充実の必要性が挙げられた。また、「学生が分析した課題を住民に提示するような機会があれば'住民の方とともに活動する'こと、様々な立場や視点に気づくこと、協働することなど、効果的な学びができると思う」という意見も聞かれた。難しいこととして、到達度については「地域診断が一人で実施できる程度のレベルであることが望ましい」ということが挙げられた。

実習施設からは「地域診断は学内である程度すませ、最後の報告会も学内に戻ってからしてほしい」、「地区特性の把握だけでなく、データや資料を客観的に読み込んで複数の要素を関連付け、そこから健康課題を見つけて施策に活かすものだということを学んできてほしい」、「複数の学生で分担作業するのではなく、重点的なテーマを決めて、1人1人の学生が最初から最後まで通してやってみた方がよい」、「実習グループ内で領域別に分担したとしても、最終的にはアセスメントは全体に統合される必要がある」、「地区踏査の時間が必要」などが挙げられた。また、教育機関と同様に、「実習後にもう一度地域診断をし、実習開始前と比較して地区の捉え方がどう変化するか見てほしい」という学習の重要性に関する意見が挙げられた。

#### 12) 実習で学ばせたいこと、必要なこと

カリキュラムに関して、教育機関からは、「4年生のカリキュラムの中で、保健師教育をするのは無理」、「講義と演習と実習を関連させた授業展開が必要。現状では、演習も実習も時間的には不十分」、「少なくとも1か月の実習は必要」、「積み上げの教育課程(積み上げの教育課程、または修士課程)」という意見がある一方、実習施設からは「市町村レベルはゼネラルな対応ができるレベルなので、4年間の教育でよいと思う」という意見もあった。

実習体制に関しては、教育機関から「保健所実習は座学が多く、学生にとって保健師活動がつかみにくい現状があり、市町村実習の後にしてはどうか」、「実習施設と教育機関の調整の必要性」が挙げられた。実習指導者の力量としては、「地域全体が捉えられている」、「教育課程と大学のカリキュラムを理解している」、「学生のレベルを理解し、教育的にかかわれる力量」、「指導者が日常的に演習や講義などで大学の教育に参加していること」、「住民から評価される活動をしていること」が求められていた。教員に求められるものとして、「専門の教員の3人以上の配置」、「研究や現場へのコンサルテーションなどを通して、実践している」、「保健師の経験があり、実践感覚を持った教員

であること」などが挙げられ、「看護系大学教員の質を担保するための研修の必要性」が挙げられた。 実習施設には「(保健師の動きが見えるところで)学生の居場所の確保」、「教育機能をもった実習 施設の指導体制を整備」することを求める意見が挙げられた。

実習施設からは、「保健師教育は、現状の大学 4 年では難しいと思う」、「保健師になりたい学生にはもっと実践レベルの実習をしてほしいが、3 年生での地域実習では限界がある」、「病院実習で退院患者の継続実習をしていれば臨地実習がより理解が深められる」、「看護師基礎教育および病院での実習終了後の実習が望ましい」「質の高い保健師を養成する観点から保健師を希望する学生の選定をお願いしたい」という意見が多く挙げられた。指導体制に関して、「指導者 1 人に学生 2 人」、「グループの効果を考えると 4 人ぐらいが最適」、理想としては「保健師志望者には、学生 1 人に保健師 1 人が付くような指導体制で、ひとつの地区を継続的に見る」という意見が挙げられた。実習施設と教育機関の調整の必要性については、「実習目的を確認し、実習受入れ担当者間での意思統一を図り、実習計画を策定する」、実習指導者には、「指導者の役割、学生への関わり方、実習計画の立案、地域診断の手法、コーチング等の実習指導者研修の体系化」、「実習施設側に実習専任保健師がいることが望ましい」とう意見が挙げられた。学生に求められるものとして「保健師への関心を持つ」、「地域看護学実習に対する目的が明確であること」、「学生のやる気と自覚」が挙げられた。

#### 13) まとめ

教育機関からは、現状の地域看護学実習は、演習と実習いずれの時間も不足していることが指摘されていた。また、事業や事例のある時期に実習を計画すること、関係機関との連携や地区組織活動などについて事前学習や事後学習で補い学ぶ機会を確保すること、到達目標として地域診断、家庭訪問などについてひとりでできるレベルにするためには、一定以上の回数を重ねる体験が必要であるとことが報告された。また、その解決方法として、上乗せ教育についての意見もみられた。

実習施設からは、現状の地域看護学実習は、見学実習が多く、実践能力を養えていないことが課題であり、家庭訪問における継続訪問や単独訪問等で培われる個別支援能力や、地域に責任を持ち地域を看護する公衆衛生看護の視点など、保健師のコアとなる部分の実習が不足していることが挙げられた。それらに対応するために地域診断に基づく健康課題を見出し、施策化に向けた地域活動について主体的に実習することの必要性が指摘された。また、保健師を志望する学生に限定した実習受入れ、実習期間の延長、看護師としての基礎的学習を終えていること、1 グループの人数を 4 人程度に減らすことが求められ、実習指導者の力量を向上させ、教員の指導を充実させることが必要であるとされた。加えて、保健所と市町村では学べる内容に違いがあることが指摘されていた。

これらの結果から、地域看護学実習で育成したい保健師像を、「対人関係能力が高く、保健師として地区活動の必要性の理解と基本的な活動ができ、社会で働く職業人としての自覚と保健師としてのアイデンティティを持ち、将来の地域保健福祉活動の推進者となり得る発展性を備えた人材」とした。

望ましい保健師を育成するための実習計画の立案にあたり、本調査結果を項目別に表1-1~表1-6に要約した。

#### 表1-1 教育機関に関する内容

#### 教育機関に関すること

#### 【教員の資質】

- ・地域看護の経験を有する者
- ・研究や現場へのコンサルテーションなどを通して、実践している
- ・保健師の経験があり、現場の状況が理解できている

#### 【教育展開】

- ・看護師教育の各分野と保健師教育の各分野の関連づけができる授業内容が必要
- ・学内演習の充実が必要
- ・グループワークやディスカッションを行い、学生個々人が自分の思考パターンや苦手な部分 への気づきを促す
- ・事業全体の位置づけ・ねらいなど、事業に関しての基礎学習が必要
- ・講義と演習と実習を関連させた授業展開が必要

#### 【実習施設との調整】

- 教員と実習指導者の役割の明確化
- ・ (実習指導者が) 教育課程と大学のカリキュラムを理解している
- ・実習目的を確認し、実習受入れ担当者間での意思統一を図り、実習計画を策定する

#### 【教員の役割】

- ・健康教育場面やカンファレンスなどへの積極的な参加
- ・学生のプロフィールや普段の状況を把握した上で指導する
- ・実習に同行し、スタッフの説明内容と学生の学びをつなげる
- ・カンファレンスやデモ実習の補足に関わり、地域看護実習後の学内での教育につなげて欲しい。
- ・大学教員は理論と実践の統合をする

#### 表1-2 学生に関する内容

#### 学生に関すること

#### 【到達度】

- ・看護師教育課程での病院実習が終了し、基本的な看護技術が実施できる時期に実習を行う
- ・すべての病院実習が終了し、基礎知識がある4年次での実習
- ・看護師基礎教育及び主なる疾患別の病院での実習終了後の実習が望ましい (病院実習終了後に基本的な技術、知識をつけてからでないと参加は難しい)
- ・保健師になりたい学生にはもっと実践レベルの実習をしてほしい
- ・現在の実習期間で、学生の技術、知識が浅いので単独訪問はできない
- ・現在の学生の知識では臨機応変な返答が必要な個別の健康相談は難しい
- ・健康相談ができるような基礎学力、看護技術の習得に学内でレベルを上げてから実習に 臨む
- ・病院実習で退院患者の継続実習をしていれば臨地実習がより理解が深められる
- ・4年生のカリキュラムの中で、保健師教育をするのは無理
- ・保健師の教育は、現状の大学4年では難しいと思う

#### 【モチベーション】

- ・質の高い保健師を養成する観点から保健師を希望する学生の選定をお願いしたい
- ・全ての学生が保健師志望ではないため、モチベーションが低い
- ・実習施設としては、多くのことを見たり経験してほしいと思うが、学生の意思を尊重して希望があれば参加させてほしいというのが教育機関の考えのようなので、保健師になりたい学生ばかりではないため積極的に勧めることはできないし、学生の気持ち次第というのも疑問を感じる
- ・社会人としての自覚
- ・保健師の役割や活動能力を理解し、職業観を持てていること
- ・保健師への関心を持つ
- ・地域看護学実習に対する目的が明確であること
- ・学生のやる気と自覚

#### 【事前学習】

- ・身体計測、血圧測定、一般的な保健指導については一人で実施できる程度のレベルまで 事前学習が必要
- ・各発達段階に応じた対応の事前学習
- ・保健師の指導を得ながら問診や保健指導を実施させるため実習先のカルテに基づいた学 内演習が必要
- ・グループインタビュー、ロールプレイについての学習
- ・グループ支援の意義や期待できる効果などを事前に学内で学習してきてほしい
- ・インタビューの事前準備として聴く力や感じ取る力、コミュニケーション力が必要

#### 表1-3 実習施設に関する内容

#### 実習施設に関すること

#### 【実習指導者】

- ・保健師の実務経験を5年以上有していること
- ・実践をふまえての理論と実践の統合を学習支援できる能力があること
- ・地域全体が捉えられている
- ・学生のレベルを理解し、教育的にかかわれる力量
- ・指導者が日常的に演習や講義などで大学の教育に参加している
- ・指導者の役割、学生への関わり方、実習計画の立案、地域診断の手法、コーチング等の実 習指導者研修の体系化

#### 【指導体制】

- ・業務や配置の関係上指導に専念できない
- ・実習指導者が指導に専念できるような業務体制が望ましい
- ・実習施設側に実習専任保健師がいることが望ましい
- ・記録用紙を実習施設と書式を揃える

#### 【活動状況】

- ・地区組織活動は、学ばせたいが、活動の有無や時間の関係でできない場合がある
- ・地域の健康課題を明らかにし、キーパーソンを見つけて地域を動かしていくプロセスを 学ばせたい
- ・まちづくり部門や食生活改善推進事業など他部門や職種と保健師がどのように連携して いるか見せたい
- ・グループ支援は、(支援場面が) あれば体験するが、なければ学べず、体験できる学生 とそうでない学生がいる
- ・住民から評価される活動をしている

#### 【実習受入れ体制】

- ・ (保健師の動きが見えるところで) 学生の居場所の確保
- ・教育機能をもった実習施設の指導体制を整備

#### 表1-4 実習体系

#### 実習体系に関すること

#### 【実習期間】

- ・前期、後期制にし、前半は地域診断、後半は健康問題、健康教育に取り組むなど
- ・前期、後期制の実習にし、事前実習1週間、学内演習2週間などと実習期間を分ける方が 効果的ではないか

#### 表1-5 健康教育のあり方

#### 健康教育のあり方に関すること

- ・自治会と協力して開催しているため、事前に役員から教員が地域の生活ぶりや健康問題 を聞いておく必要がある
- ・地域のアセスメントを行い、そのうえで学生が健康教育の企画から一連の過程を行うことが望ましい
- ・地域診断と健康教育のテーマを結びつけ、学生がテーマを設定し、事前準備から実施までできるようにする

#### 表1-6 理想的な実習のあり方

#### 実習体制および内容に関すること

#### 【実習体制】

・保健師志望者には、学生1人に保健師1人が付くような指導体制で、ひとつの地区を継続的に見る

#### 【健康教育】

- ・実習期間内に対象者の地域に出向かせて、住民がその後どうなったかを学生に自分で評価 させたい
- ・保健師志望者のみに絞って実習を受入れ、期間中に自分でテーマを決め、準備から実践、 事後観察まで一人で体験させたい

#### 【地区組織活動】

- ・学生が主体的に地区組織の代表者と連絡をとり、面接・見学の日程を調整し、指導者へ連絡しながら、一緒に活動に参加し、継続した関わりを持ちながら、自分たちでインタビューすることが望ましい
- ・修士課程では継続的に地区組織活動に参加し、介入評価につながる活動展開をが実習中に 行う
- ・管内の断酒会、AA、思春期を考える会などの地区組織活動から個別支援とのつながりを 見る
- ・地区組織活動の意義や保健師の役割、コミュニティエンパワーメントと組織的なヘルスプロモーション活動について確認する

#### 【グループ支援】

- ・グループ支援の特徴、意義、支援技術を理解するために、保健師と一緒に参加し、体験する
- ・グループの成熟度や構成・性質などにより支援の仕方や度合いが異なってくることを学ぶ
- ・訪問とグループ支援のつながりを理解する

#### 【関係機関との連携】

- ・家庭訪問や各種保健事業で関わった事例について連携目的や必要な関係機関連携について 判断し、指導保健師の指導のもと連携する
- ・地域ケア会議、事例検討会、協議会等への参加や連携の場面の見学する

#### 【地域診断】

- ・学生が分析した課題を住民に提示する機会を設け'住民の方とともに活動する'こと、様々な立場や視点に気づくこと、協働する
- ・複数の学生で分担作業するのではなく、重点的なテーマを決めて、1人1人の学生が最初から最後まで通してやってみた方がよい
- ・実習後にもう一度地域診断をし、実習開始前と比較して地区の捉え方がどう変化するか見る
- ・地区特性の把握だけでなく、データや資料を客観的に読み込んで複数の要素を関連付け、 そこから健康課題を見つけて施策に活かすものだということを学んできてほしい

#### 2 実習計画の立案

本調査結果から、対人関係能力が高く、保健師として地区活動の必要性の理解と基本的な活動ができ、社会で働く職業人としての自覚と保健師としてのアイデンティティを持ち、将来の地域保健福祉活動の推進者として発展性を備えた人材」を目指し、育成するための地域看護学実習のあり方を検討した。

教科目名は、「公衆衛生看護学実習」(以下実習)とした。

#### 1) 前提条件

- (1) 教育機関に関して
  - ①公衆衛生看護学領域の理念や援助に関する技術を教授していること
  - ②授業科目は講義、演習、学内実習等、実践能力習得につながる多彩な方法で展開している こと
  - ③実習要綱を作成し、実習目的・目標・項目について具体的に提示できること
  - ④教員は、公衆衛生看護について精通し、指導できること (職位は問わない)
  - ⑤教員は各保健所および市町村を分担し、指導体制を充実すること

#### (2) 学生に関して

- ①看護師国家試験に必要な各領域の臨地実習で全ての科目に合格していること
- ②公衆衛生看護学実習前に履修する関連科目に全て合格していること
- ③公衆衛生看護学実習関連の事前学習内容が学内の評価基準に達していること
- ④公衆衛生看護学実習への目的が明確であること
- ⑤将来も含め保健師になりたいという強い希望があり、自覚を持っていること
- ⑥事前学習を実施したうえで、実習に臨むこと

#### (3) 実習施設の条件

- ①学生の実習を受け入れる組織が明確に定められていること
- ②公衆衛生看護活動が積極的に行われ、業務に関する指針や諸記録等が整備されていること
- ③保健師の実習指導者が定められ、公衆衛生看護活動に関する経験を有していること

#### 2) 実習目的

地域で生活している個人・家族の生活背景、家族関係、社会的立場を含めて人々を理解し、支援 するために必要な基本的知識・技術を習得する。また、集団(産業、学校分野を含む)や地域を対 象として行われる公衆衛生看護活動に対する理解を深め、自ら実践できる能力を養う。

#### 3) 実習目標

- (1) 公衆衛生看護学実習 1《公衆衛生看護基礎実習 1 単位》
  - ①保健所・保健センターの役割と機能(組織・予算を含む)を理解することができる。
  - ②地域診断に必要な情報を収集し、地域の状況を捉えることができる。
  - ③家庭訪問の目的ならびに方法論を理解する。
- (2) 公衆衛生看護学実習 2《地域保健活動実習 3単位》
  - ①保健師が行う公衆衛生看護活動の実際を学ぶとともに地域の健康課題を明らかにし、実践 することができる。
  - ②地域のあるべき姿(ビジョン)を明確にするとともに、効果的な保健事業を計画・立案、実施、評価する過程、および施策化に必要な根拠とプロセスを理解し、自らも企画立案できる能力を養う。
  - ③継続的に家庭訪問を行い、単独訪問ができる能力を身につける。
  - ④地域の人々が自己決定をするために必要な情報提供や支援に対して理解を深めるとともに、 人々の尊厳と権利、プライバシーを守ることができる。

- ⑤地域の健康課題や住民のニーズから健康教育の課題を見いだし、その課題に基づいて健康 教育の企画・立案・実施・評価ができる。
- ⑥健康政策や地域の健康課題をもとに実施されている各種保健事業の実際を理解し、地域保 健活動の理解を深める。
- ⑦地域における関係機関および関係職種の活動を把握し、さまざまな場面を通して必要な情報の共有や共通の活動目的を見出すことにより、ネットワークが構築される過程を理解する。
- ⑧グループでなければ解決できないグループダイナミクスを理解し、当事者グループの活動、 ならびに地区組織活動に対する理解を深める。
- ⑨健康危機管理の実際を理解する。

#### 4) 実習場所および方法

保健所で1~2週間、市町村で2~3週間、計4週間以上とする。

#### 5) 実習での必修体験項目

(1) 地域診断(地域アセスメント) 実習の自治体を単位とし、地区踏査、統計データ(既存資料)と住民の声を用いて行う。

#### (2) 家庭訪問

母子、成人、高齢者等の異なる特性を有する3事例以上を対象に行い、そのうち1事例は 継続訪問を2回以上行う。1事例以上について、家庭訪問計画を立案し、単独訪問を実践する。

(3)健康教育

地域アセスメントに基づく計画立案から実践、評価までの一連の過程として1回以上実施する。

(4) 健康相談

母子、成人、高齢者等の異なる特性を有する3事例以上を対象に行う。

(5) 地区組織活動

地域の組織活動に期間をおいて2回以上参加する。

#### 6) 教員と実習指導者の役割

- (1) 教員の役割
  - ① 実習施設に毎日出向き、学生の学習状況の把握、評価を行う。
  - ② 学生個々人の到達度を見極め、随時必要に応じた実習内容の調整を図る。
  - ③ 学生個々人の実習の評価を行う。

#### (2) 実習指導者の役割

- ①事前に学校の実習目的、実習目標、到達度などを確認し、効果的な実習内容や対象者の選 定を行えるよう準備する。
- ②施設の代表者は学生の受け入れ準備および体制づくりを行う。 (施設職員への周知、協力依頼、学生控え室など居場所の確保)
- ③カンファレンスの設定



表2-1のように保健所および市町村保健センターにおける実習項目をあげた。

#### 表2-1 実習項目例

#### 内 容

# 保健所での実習

- ・オリエンテーション:保健所管内の概要、事業(保健医療計画等)
- ・家庭訪問事例の選択・計画・準備・訪問・評価
- ・地域診断 (地域踏査・住民へのインタビュー・既存資料の分析・社会資源のマッピング等)
- · 健診事業参加
- 精神保健福祉相談及び支援体制
- ・健康危機管理体制の説明(感染予防・防護服の着用等)
- ・地区組織・グループ活動(精神・難病家族会等)
- · 多問題家庭訪問事例検討
- ・事業の施策化(企画、・実施・評価)の説明
- · 健康相談等事業参加
- ・保健所実習まとめカンファレンス

# 市町村保健センターでの実習

- ・オリエンテーション:地域の概況、保健事業の施策化に関する内容・事業・健康 危機管理等
- ・地域診断 (地域踏査・地域住民へのインタビュー・既存資料の分析・社会資源のマッピング等)
- ・健康教育の計画立案・実施・評価
- ・健康相談の計画立案・実施・評価
- ・地区組織・グループ活動支援
- ・地域支援事業(地域包括支援センター訪問)
- ・家庭訪問事例の選択・計画・準備・訪問・評価
- ・家庭訪問事例にかかる関係機関連絡・社会資源見学訪問
- ・健康づくり協議会会議等に参加
- ·介護保険·障害者自立支援事業
- ・まちづくり等他部門との連携
- ・保健事業についての評価
- ・住民へインタビュー結果のまとめ及び発表
- ・市町村実習まとめカンファレンス

## 全体

・実習の学び発表および意見交換

# Ⅳ 考察

#### 1 実践者養成における実習の重要性

保健師教育課程の目的は、保健師としての実践者養成である。本研究結果からも、新規採用時点での保健師に必要な能力・力量・態度・価値観として、基本的な地区活動ができ、またその必要性を理解できる能力、対人関係能力、社会人としての自覚、保健師の役割や活動能力を理解し、職業観を持てていることが挙げられていた。

これらの能力は実際の体験を通して育成されるものである。保健師活動の理念や価値観は、抽象的であり、机上学習だけでは理解が困難である。学生は実習における体験を通して感性を磨き、保健師活動の現場を理解することができる。そして、その体験をもとに、学内での理論学習と現場での実践力が統合できるのである。保健師と同様に教職員や社会福祉職など、対人関係を基礎とする他の職種においても、教育課程における実習が重視されている。例えば、教員養成は専門職大学院で実施され始めているが、その大学院教育では、45単位の卒業要件のうち10単位以上が実習である。学生の評価としても、実習をすることで授業の意味が分かった、という教育評価の研究報告が多数あり、実習は実践者養成における教育方法として重要である。

#### 2 必須体験項目の設定

保健師助産師看護師学校養成所指定規則によると、助産師養成における助産学実習では、1人につき10回程度の分べんを行うことが定められている。一方、保健師養成にかかわる地域看護学実習では必修体験としての規定は、保健所市町村での実習を行うという実習施設と「継続した訪問指導」に関する項目のみが定められているものの、専門の知識技術に関する規定はない。

そこで、本調査結果をふまえ、公衆衛生看護学実習における必須体験項目を5つ設定した。先ず、地域診断については、地区での活動と施策化のつながりの理解を深めるために重要であり、統計データだけではなく、実習中に得られる質的なデータを地域診断に活用するよう学ばせることが必要であることが指摘されていた。そのため、地域診断の方法としては、統計データの分析、地区踏査、グループインタビューなどにより住民の声を聞くことにより、地域診断を実施する必要がある。統計データの分析には地区間、男女間、年齢階級などの手順が必要であり、実習に臨む前の2週間程度の演習が必要であるとの意見も多くみられた。なお、理論と実践を結びつけるための事後学習の重要性についても指摘されていた。

「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」では、「訪問・相談による支援を行う」ことについては「ひとりでできる」レベルが求められている。家庭訪問や健康相談に関して、本調査における実習施設からの意見では、ライフステージに応じた経験が必要であると指摘されており、「母子」、「成人」、「高齢者」の3事例を必須体験とした。家庭訪問に関する先行研究(興水めぐみ、佐久間清美、古田佳代子他、地域看護学実習の家庭訪問における学生の学び-家庭訪問の対象種別による学びについて-、愛知県立看護大学紀要2008;14:93-104)によると、「母子」の家庭訪問では対象者との関係性を築く効果的な保健指導方法や生活の場における保健指導の有効性に関する学び、「高齢者」では地域で暮らす高齢者の生活実態や価値観を新たに知り、かつ対象者の思いを汲みつつ支援する保健指導に関する学びを深めていたと報告されている。また、健康レベルの異なる事例の経験

が必要であり、特に「生活習慣病」、「結核等感染症」、「難病」、「精神疾患」など疾患の種別における分類はしなかったが、実習施設での活動実態に応じて社会資源との連携が学べるような事例を体験することも必要であると考えられた。

現状の実習では、実施が困難と指摘されていた継続訪問は、学生自身が行った保健指導に対する評価の機会であるとともに、対象者の観察から具体的な訪問計画の立案、媒体づくり等指導方法に対する工夫の機会を与えるものである。対象者との信頼関係の形成や、次回訪問までの間に必要性を判断して、関係機関からの情報収集や関係者への働きかけなどの実習に発展させることができる重要な実習項目である。継続訪問の間隔は、その間に対象者自身が保健行動を変え「実施できる」という自信を持ったり、生活の中に取り入れられるかどうかを試してみたりする期間が必要であり、学生に提示できる程度に落ち着いた事例であれば、最低1か月程度の期間を空けることが通常で、そのことを考慮した実習計画の立案が必要であろう。

平成20年度地域保健総合推進事業「保健師教育における臨地実習のあり方に関する調査研究」において、平成20年受入れ施設1,506か所の項目別体験状況では「必ず体験している」は、単独訪問が13.2%、継続訪問(同伴による)が7.1%、健康相談が33.4%と、限られた状況にあることが判明している。これらを必須体験とするためには、実習の前提条件として、「看護師国家試験に必要な各領域の臨地実習で全ての科目に合格していること」、「実習前に履修する関連科目に全て合格していること」、「事前学習内容が学内の評価基準に達していること」が必要である。

一方、健康教育は上記研究において、「必ず体験している」は 57.3% で他の事業より多く体験している項目であった。しかし、現状では実習期間が短いため、実習期間中にすでに計画されている健康教育や、保健師の行う健康教育の中の 10~15分を担当している状況があることも本研究結果から明らかとなった。保健師が行う健康教育の目的は知識の普及だけではなく、地域住民が自分の生活を振り返り、実践できるようにすることであり、地域や対象集団へのアセスメントが不可欠である。これらのことより、本研究では「地域アセスメントに基づく計画立案から実践、評価までの一連の過程として1回以上実施する」ことを必須体験項目とした。また、健康教育方法としても、講義よりもグループワークなどの手法が多く使われるようになってきており、学生の事前学習が必要である。

現状の実習では、健康相談は見学が中心となっており、実習においての体験を深めるためには、 学内での講義や演習の充実が望まれていることも判明した。健康相談は、面接技術を基本において、 カウンセリングやコーチングの技術を取り入れて行われるため、高い応用能力が求められる学習内 容である。一方、生活習慣病対策では、動機づけ支援、積極的支援など保健師が行う保健指導が社 会から期待されており、かつ母子保健では、一人ひとりへの育児相談や健康相談は育児不安の軽減 につながっている。このような、幅人い対象への健康相談は、予防と健康増進を理念とする保健師 の活動を理解するために必須であり、今後実習において学生に多くの体験ができるような体制がと られることが望まれる。

この他、保健師活動の特徴的な方法論の一つが、地域組織活動である。組織活動の変化や発展は 時系列で活動に参加することで理解が深まるため、期間を開けて2回以上の参加とした。組織活動 では、保健師活動の基本的な理念の一つである、住民参加とコミュニティエンパワメントを学習で きる機会であり、実習の必須項目として重要である。

#### 3 保健師のコアを学ばせるための理想的な実習のあり方

前述の研究結果から「必ず体験している」のは地区組織活動が19.3%、関係機関との連携が23.1%と非常に低率であった。

日本公衆衛生学会が2007年に作成した「保健師教育のためのコアカリキュラム」に示された保健師実践能力の構造では、基盤として「A保健師としての基本的能力」、次に「B個人・家族支援能力」があり、「C地域支援能力」、そして「D地域健康開発・変革・改善力」の4層で形成されている。今回、4単位のカリキュラムを作成し、「B個人・家族支援能力」に関しては、一人で実践できるレベルでの体験を組み入れることができた。しかしながら、地区組織活動・グループ支援・関係機関との連携といった「C地域支援能力」については、学生が主体的に計画し体験できるレベルには到達できず、見学の域を出なかった。また、地域住民との協働、コミュニティエンパワーメント、施策化など「D地域健康開発・変革・改善力」については、保健師自身による地区活動が十分になされている上で、学生が保健師の活動を見て事後のカンファレンスで学ばせることが限界であった。

物理的な問題として、健康教育を1人で一連の過程を実施すること、夜間・休日など地域の要請に応じた実習、保健師の介入による地域全体の変化を評価することは困難であった。そのためには、保健師を志望する高いモチベーションを持つ学生のみの実習とし、実習受入れ人数を限定し、少なくとも1年単位で地域実習を行う必要性があると考えられた。

4単位の地域看護学実習では、「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」で示された到達度に達することは困難であり、現場が卒業時に求める到達度にも達していない。そこで、資料3に示すように、理想的な実習のあり方を検討した。理想的な実習では、保健師を高度専門職業人と位置づけ、理論に基づいた実践を志向し、自立して状況の判断と行動ができる人材育成を実践能力とともに考えた。そのためには、2年の教育期間が必要であり、保健師教育を大学院で行うことが望ましいといえる。

#### 4 今後の課題

今回の検討経過で、現行の統合カリキュラムによる実習等が、看護師基礎教育の科目に読み替えられるなど、実践力のある保健師養成には程遠い実態が明らかになり、研究班員全体の危機感が高まった。

調査においても、多くの実習施設が、保健師免許の質の担保のためにどのような実習が必要か、また実習目標をどのように設定するかについて、教育機関と十分に共有していないことが明らかになった。このような実態を踏まえ、本研究では看護師教育の上乗せとする前提条件を遵守し、他の科目と読み替えることなく指定規則に示されている4単位を最低実施すべき実習として、学生に体験させる実習を行うこと、保健師の実践力の質の担保につながる指導体制の整備が必要であることを確認した。さらに、今後の課題として、学校や産業の場における実習は専門性を考慮して、別途計画する必要があると考えた。

また、実習を充実したものにするためには、教育機関の努力や実習プログラムの期間と内容だけでなく、現場の実習指導者の役割も重要であった。多忙な日常業務と実習指導をどのように両立させるか、指導者の位置づけを明確にすることも重要である。さらに、指導者の保健師活動に対する考え方が学生の学びに直結することから、指導者自身の実践および教育的な力量形成、実習に対する意識改革が必要である。実習指導者のための教育として、公衆衛生看護学/地域看護学の実習指

導者研修会を実施することも検討課題となった。実習体制整備のために、大学と実習施設が協働することが何よりも求められ、相互の交流を活性化することが学生の実習にも有益となるだろう。

#### V

#### 結 論

平成21年度に改正された保健師助産師看護師学校養成所指定規則によるカリキュラムに対応した保健師教育における4単位の臨地実習のあり方を検討した。

対人関係能力が高く、保健師として地区活動の必要性の理解と基本的な活動ができ、社会で働く 職業人としての自覚と保健師としてのアイデンティティを持ち、将来の地域保健福祉活動の推進者 として発展性を備えた人材を育成することを目的に、公衆衛生看護基礎実習(1 単位)と地域保健 活動実習(3 単位)を設定した。

実習の必須体験として、①自治体を単位とする地域診断(地域アセスメント)、②母子、成人、高齢者等の3事例以上の家庭訪問で1例は継続訪問を実施、③健康教育を地域アセスメントに基づく計画立案から実践、評価までの一連の過程として1回以上実施、④母子、成人、高齢者等の異なる3事例以上の健康相談、⑤地区組織活動に期間をおいて2回以上の参加を設定した。

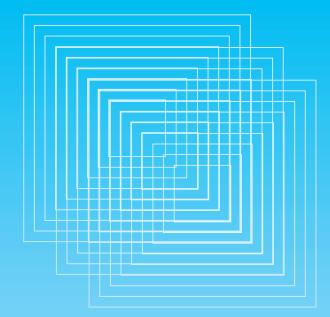
実習体制の整備のためには、実習施設の指導者の意識改革と教育的対応力の育成、教育期間と実 習施設の役割分担の明確化と協働が必要である。保健所や市町村では、公衆衛生看護が地域で展開 できる人材を求めており、保健師養成と現任教育は一連のものとして捉えなければならない。実習 施設と教育機関が両輪となって、充実した地域看護学実習の実現に向けた体制を整えていく必要が ある。

#### 謝辞

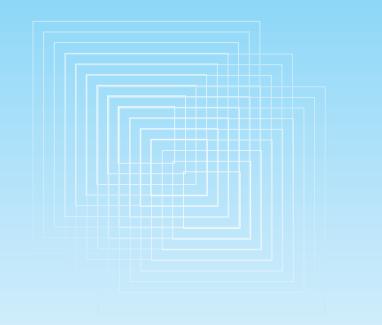
今回の調査研究の実施に当たり、お忙しい中インタビューにご協力いただきました教育機関、実 習施設の皆様に深謝いたします。

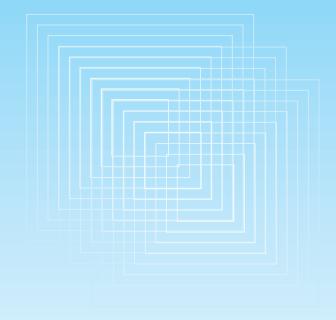
なお、本研究は研究班代表者森岡幸子を中心に全国保健師長会および全国保健師教育機関協議会から研究分担者を選出して共同研究として行ったものです。

(文責 森岡幸子 多田敏子)



# 資 料







## 資料 I インタビューガイド

#### 実習施設用

研究協力者に該当するも	のに〇印をつけてく	ください:
-------------	-----------	-------

1. 県 2. 市町村 3. 中核市 4. 指定都市

実習施設名 ( ) 職員数 ( )

#### 1. インフォームドコンセント

研究目的および概要について対象者に説明し、インフォームドコンセントを行う。個 人が特定されるような形で公表することはないことを説明

#### 2. インタビューシナリオ

- 1) 挨拶
- 2) インタビューの目的と内容
- 3)研究成果の活用について
- 4) 時間の説明
- 5) インタビュー内容の実際

より効果的な実習プログラムを作成するための資料づくりをしています。ご意見をお聞かせ下さい。

- 問 1. 新規採用時点で保健師にはどのような能力、力量、態度、価値観が必要であると思われますか。
- 問2. 上記のような能力や力量を備えるためには、どのような保健師教育、特に地域看護 学実習はどうあればよいと思いますか。(例えば、実習日数及び間隔、事後カンファ レンスの有無、実習指導教員の職位、実習指導教員が直接実習施設内で指導されて いる割合、役割分担など)
- 問3. 地域看護実習では、どのようなことを学んでほしいと思いますか。例えば、ヘルス プロモーションについて、あるいは住民のニーズに対する事業化、施策化の過程に ついてなど。



#### 実習施設用

- 問4. 現在、実習において家庭訪問をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習施設および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。(例えば、訪問経験数、単独訪問の有無、継続訪問の有無、ケースの対象分野、選定方法、本人への承諾の方法、学生に事前に渡すデータなど)
- 問5. 現在、実習において健康相談をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。
- 問6. 現在、実習において健康診査をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。
- 問7. 現在、実習において健康教育をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。(例えば、テーマ選定の方法、時間、予演会、対象への承諾の方法など)
- 問8. 現在、実習において地区組織活動をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。
- 問9. 現在、実習においてグループ支援をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。
- 問 10. 現在、実習において関係機関・関係職種との連携をどのように学ばせていますか。 今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備 (実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにす ると効果的な学習になると思いますか。
- 問 11. 現在、実習において地域診断をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、 実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になる と思いますか。(例えば、領域別か否かなど)
- 問 12. 最後に実習で学ばせたいこと、必要なことがありましたらご教示ください。 (例えば、実習指導者の人数、学歴、経験、職位、年齢、選定方法、研修の有無及 びその内容、実習支援体制など)



#### 教育機関用

#### 研究協力者に該当するものに〇印をつけてください:

1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 専門学校

実習施設:1. 県 2. 市町村 3. 中核市 4. 指定都市

#### 1. インフォームドコンセント

研究目的および概要について対象者に説明し、インフォームドコンセントを行う。個 人が特定されるような形で公表することはないことを説明

#### 2. インタビューシナリオ

- 1)挨拶
- 2) インタビューの目的と内容
- 3) 研究成果の活用について
- 4) 時間の説明
- 5) インタビュー内容の実際

より効果的な実習プログラムを作成するための資料づくりをしています。ご意見をお聞か せ下さい。

- 問 1. 新規採用時点で保健師にはどのような能力、力量、態度、価値観が必要であると思われますか。
- 問2. 上記のような能力や力量を備えるためには、どのような保健師教育、特に地域看護 学実習はどうあればよいと思いますか。(例えば、実習日数及び間隔、事後カンファ レンスの有無、実習指導教員の職位、実習指導教員が直接実習施設内で指導されて いる割合、役割分担など)
- 問3. 地域看護実習では、どのようなことを学んでほしいと思いますか。例えば、ヘルス プロモーションについて、あるいは住民のニーズに対する事業化、施策化の過程に ついてなど。



#### 教育機関用

- 問4. 現在、実習において家庭訪問をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習施設および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。(例えば、訪問経験数、単独訪問の有無、継続訪問の有無、ケースの対象分野、選定方法、本人への承諾の方法、学生に事前に渡すデータなど)
- 問5. 現在、実習において健康相談をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。
- 問 6. 現在、実習において健康診査をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。
- 問7. 現在、実習において健康教育をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。(例えば、テーマ選定の方法、時間、予演会、対象への承諾の方法など)
- 問8. 現在、実習において地区組織活動をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。
- 問9. 現在、実習においてグループ支援をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。
- 問 10. 現在、実習において関係機関・関係職種との連携をどのように学ばせていますか。 今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備 (実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにする と効果的な学習になると思いますか。
- 問 11. 現在、実習において地域診断をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、 実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になる と思いますか。(例えば、領域別か否かなど)
- 問 12. 効果的な実習を行う上で、必要な教育体制はどのような体制であるとお考えですか。 (例えば、カリキュラム上の配置、演習との関係、工夫していることなど)

\*可能であれば、学校の実習要項



# 資料Ⅱ インタビュー結果

#### 実習施設

都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

#### 問1. 新規採用時点での保健師に必要な能力、力量、態度、価値観。

能力・力量	態度	価値観
対人関係能力 ・ 地域住民、対象者、職場内でのコミュニケーション能力 ・ 随機種住民、対象者、職場内・できる能力 ・ 随機種を持ていること。 ・ 問題解決能力 ・ 問題人情報の自覚 ・ 問題人で物事を考えられる能力 ・ の後期や活動ができる能力 ・ の後期や活動ができるれる能力 ・ のも覚 ・ おな地区活動ができる能力 ・ 本本の必要性を理解できる能力 ・ 対象理解を担対した。 ・ 対象収集能力 ・ 情報ので基本のアマスメ解能力 ・ 情報ので基本のので基本のできる能力 ・ 対象収集にあるを明できると。 ・ ができる基礎知識ときるとので接続を展開できるとのできる。 ・ できる。 ・ にきる。	保健師の役割や活動内容を理解し、職業観を持てていること。 ・ 向学意欲 社会人としての自覚 ・ 目上の方への言葉づかい、 礼儀、服装、身だしなみなどのマナー ・ 仕事に責任を持つ態度 基本的な地区活動ができ、また その必要性を理解できる能力 ・ コミュニティに存在する健康 課題に関心を持とうとする態 度	保健師の役割や活動内容を理解し、職業観を持てていること。 ・ 保健師の役割の理解 ・ 保健師としての職業観を持っていること



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問2. 上記のような能力や力量を備えるためには、どのような保健師教育、特に地域看護学実習 はどうあればよいか。

#### 現状

#### 実習指導者・指導教員について

- 教員 1 人当たりの学生数が 多すぎるため、実習指導が 十分でない。
- ・ 実習期間だけ雇用されている教員は、学生のプロフィールや普段の状況を把握していないためにフォローのし方や指導方法に悩んでおり、学生に遠慮して的確な助言指導ができていない
- 実習指導者のレベルが明確でない。
- 大学教員、指導者の質とレベルが明確でない。
- 地域看護の経験がない者もいる。
- 実習指導者が、業務や、配置の関係上、指導に専念できない。

#### これからも発展させたいこと

# 実習指導者・指導教員の指導力の向上・増員

- 実習グループは 4~5 人が 適当。指導者一人当たり、 学生1~2人の担当が適当。
- ・ 実習指導教員のレベルの 明確化と質の向上【実習指 導者研修修了者が望まし い。保健師経験3年以上。】
- 教員は臨地の実習指導者と 同等以上の地域看護の経 験を有する者が適当。【経 験7年以上。大学教員であ れば講師以上。
- ・ 指導教員の役割の明確化 【現地での指導は難しいた め、実習に教員が同行し、 スタッフの説明内容と学生 の学内での学びの内容を つなげる。実習記録の指導 は大学の教員で行う。】

# 現状では難しいこと 実習指導者・指導教員について

- 実習期間だけ雇用されている臨時教員の役割の明確サンプタンスを表する。
  - 化と、学生とのコミュニケー ションの問題についての対 応
- 実習指導者のレベルを基準 化する。
- 大学教員、指導者の質とレベルを基準化する。
- 教員の地域看護の臨床経 験を望む
- 実習指導者が指導に専念 できるような、業務体制にする
- ・ 指導教員と実習指導者の 連携が十分でない。【学生 の学びの程度を共有し、そ の都度、指導方針を検討し ていくことが必要。】

#### 実習期間について

・ 現在の2週間の実習では短い。

#### 実習期間の延長・工夫

- 3週間~1か月程度は必要
- ・ 前期・後期制の実習にする 【事前実習 1 週間、学内演 習 2 週間などと実習期間を 分ける方が効果的ではない か。】
- ・ 保健所実習2~3週間程度 の期間後、管轄市町村で実 習することが必要

#### 実習期間について

- 受け入れ側としては 2 週間 の実習期間が妥当(現在の 業務の関係上)である
- 基礎看護実習や成人、小児、在宅看護論等各分野の 臨床実習終了後の4年次 が適切

#### カンファレンスについて

- ・ 指導教員・実習指導者の参加が毎日できないため、学生の意見交換会になっている
- 討議をすることに学生が慣れていない

#### カンファレンスの充実

- カンファレンスは毎日実施する
- ・ 実習指導者・指導教員もできる限り出席し、学生の学び を深めるようコメントする
- カンファレンスの運営の方 法も学んでいく必要がある
- お互いの意見をぶつけ合う 姿勢が必要。学内において



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問2. 上記のような能力や力量を備えるためには、どのような保健師教育、特に地域看護学実習 はどうあればよいか。

現状	これからも発展させたいこと	現状では難しいこと
	もグループ討議の体験量を 増やしてはどうか。	
実習内容について ・ 各ライフステージ、各領域に おける事業の見学・体験を してほしい	実習内容の充実 ・ 住民との関わる機会を持つ 【地域の特性の理解や、コミュニケーションを通しての学びを得る。】 ・ 講義や事前学習の学びと、実習の学びをつなげる ・ 家庭訪問の充実【継続訪問、回数を増やす、単独訪問の実施】	<ul><li>実習内容について</li><li>担当地区制の実習にする</li><li>事業見学が主になっているが、体験もしてほしい</li><li>健康教育の実施をする【現在はデモストで終了しているため】</li></ul>
教育形態について ・ 臨地実習における目標設定が低い	教育機関での教育内容や対応の充実 ・ 記録内容の充実【感想文レベルではなく、何を観察して何を学びとったかを明確にし、カンファレンスにつなげる。】・ 実習目標を明確にし、学生が目的意識を持って実習に臨むことができるような指導が必要。・ 教育機関と実習施設の連携の強化【指導者会議の充実と継続。】	教育形態について ・ 助産師教育課程のようにコースのような形態にする ・ 大学院での保健師教育を希望する【目的意識がはっきりしていること、看護師資格を有すること、実習時期を設定しやすいなどのメリットがある。 ・ 特別な対応の必要な学生には教育機関から指導者を配置する
学内実習について ・ 保健師の OB は、元上司であったため、意見交換しにくい。	学内実習の充実(9) ・ グループワークやディスカッションを行って、学生個々人が自分の思考パターンや苦手な部分を自覚できるようにする ・ 事前に事業に関しての基礎学習が必要【事業全体の位置づけ・ねらい、対象者の発達の過程や身体的特徴、検査値、一般的な指導内容など】 ・ ロールプレイをとりいれた学内での演習をする ・ 基本的な保健師の仕事の	学内実習について ・ 指導教員が毎日実習施設に来所して指導にあたる。



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問2. 上記のような能力や力量を備えるためには、どのような保健師教育、特に地域看護学実習 はどうあればよいか。

はとうめればよいか。		
現状	これからも発展させたいこと	現状では難しいこと
	理解についての講義の充	
	実【保健師とは個人や地域	
	を理解して支援を展開する	
	職業であること、地域看護と	
	訪問看護の違いなどを、学	
	内で十分に指導してから実	
	習に臨んでほしい】	
	・ 地区踏査・地区診断を十分	
	に行い、既存資料、統計資	
	料を分析し、資料を作成す	
	る	
	・ 教育機関が医療や社会保	
	障制度社会の変化を知るこ	
	とが必要	
	<ul><li>指導教官についてはカンフ</li></ul>	
	ァレンスやデモ実習の補足	
	に関わり、地域実習後の学	
	内での教育に繋いで欲しい	
	・ 臨時教員がもと OB である	
	場合は、配置の配慮をす	
	る。	
	・ 健康教育場面やカンファレ	
	ンスなどへの指導教員の積	
	極的な参加	



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

#### 問3. 今後の地域看護実習を充実させるための取り組みについて。

#### 現状の限界 これからも発展させたいこと 現状ではできないこと ・ 実習期間が短いため、十分 地域において、主体的に看護活 地域において、主体的に看護活 な実習内容にならない。 動を展開できる基本的能力を養 動を展開できる基本的能力を養 全ての学生が保健師志望 うこと うこと ではないため、モチベーシ アセスメント、計画、実施、 ・ 住民のニーズに対する事業 ョンが低い。 化、施策化の過程への取り 評価の基本的能力 対象者の理解の技術【個 組み 人、家族、地域住民を広い ヘルスプロモーションについての 視野でみること 学びを深めること 地区診断から健康課題を導 現在の実習期間では実際 き出し、保健事業に繋げる に学ぶことは難しいため、学 能力 内でしつかり学び、実習期 ・ 社会資源の活用の方法に 間に保健師が説明する ついて 保健師の専門性の理解につい て学びを深めること 保健師の行政・地域での役 割【国から下ろされる事業を ただこなすだけでなく、住民 ニーズを取り入れて創意工 夫をするということ】 長期的に住民・地域にかか わっていく姿勢 ・ 保健師活動の楽しさ、醍醐 保健師のコーディネート機 能・マネージメント機能 住民との連携の大切さ 保健事業の法的根拠について の理解を深めること 保健事業が法的根拠に基 づいて施行されているという ことを学内で学び、実習で 具体的に結び付ける。 地域住民の活力

・ 地域を支える地域住民の力

について知る



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問4. 現在の、実習においての家庭訪問の実施状況。今後の充実に向けての取り組み案と、現状 では難しいこと。

今後に向けて

現在の実施形態

## 事前準備

## 現状では難しいこと

## 事前学習

訪問前日までに対象事例 の情報を提供し、事前学習 させ、対象者のアセスメン ト、計画、訪問目的を確認

する

## 実施

## 事例数

- 1~2事例(17)
- 3 事例(1)
- 訪問可能な事例がない(1)
- 訪問回数
- 1回のみ(7)
- 1以上(10)
- 3回(1)
- 訪問可能な事例がない(1)
- 回答なし(1)

## 実施形態

- ・ 見学訪問のみ(15)
- 同行訪問後、単独訪問(4)
- 訪問可能な事例がない(1)

## 対象者の選定

- 事前に保健師が事例を選 定し、対象者からの同意を 得る(8)
- 事前に実習指導者が学生と 面談し、学生のニーズを把 握して選定する(3)
- 訪問は主に高齢者か新生 児が多い(4)
- 実習中期に、教員が事例を 抽出し実施(1)
- ・ 訪問当日、あるいは数日前 に選定する(1)
- さまざまな分野を訪問対象 にする(1)
- 3 事例(母子、高齢者、そ の他なんでも)を看護過程 を展開して実施。うち、1 事例は継続2回以上
- 新生児訪問(18)

≪学生側≫

- ロールプレイの実施
- 基本的な測定、面接技術の 習得
- 新生児との触れ合いを増や す
- 基礎知識の学習

## ≪大学側≫

・ 実習施設との事前の打ち合 わせをする

#### ≪実習施設側≫

訪問計画をたてるための情 報提供の機会を早めに設 定する

## 実習内容

- 実習期間の延長【3~4 週 間】
- 単独訪問の実施
- 継続訪問の実施【単に2回 行くのではなく、継続する意 味のあるケースを持たせ
- 様々なライフステージ、分野 のケースを体験させる
- 病院訪問の実施
- 4 年次での実習【すべての 病院実習が終了しているた め、基礎知識がある】
- 実習指導者の増員
- 関連事業や関係機関との 連携しているケースを選定 することで、関連づけて考え させる
- 家庭訪問に合わせた実習ス ケジュールの調整を行う
- 家庭訪問計画を立案し、単 独訪問ができる
- ・ 単独訪問の事例はライフス テージ別に3事例程度(母 子、成人、高齢者)

## 事前準備

#### ≪学生側≫

- カリキュラムの関係上、こ れ以上の演習や授業数を 増やすことが難しい。
- 様々なライフステージの 方々と触れ合う時間がな

## ≪大学側≫

教員配置の問題(臨時指導 者も含め、余裕がない。)

#### 《大学·施設側》

・ 打ち合わせが日の調整が 難しい。

#### ≪施設側≫

事前に訪問事例を提供し たいが、事前の事例の選定 が難しい。

#### 実習内容

- 現在の実習期間で、学生の 技術、知識が浅いままで は、単独訪問はできない。
- 実習指導者も少なく、学生 との関わりが十分に取れ ない、また実習期間が短い ため、単独訪問が学生にで きるかという評価も難し
- 家庭訪問のケースが年々 減少している。
- 家庭訪問はプライバシー の問題のため、保健師であ っても、受け入れが難し く、本当に必要なケースに 学生を同伴させることが、 難しい。

#### 訪問後

- 記録の内容が、浅く、実習 内容の学びを深める形式 になっていない。
- ・ 日々の記録の内容を学校



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問4. 現在の、実習においての家庭訪問の実施状況。今後の充実に向けての取り組み案と、現状では難しいこと。

現在の実施形態	今後に向けて	現状では難しいこと
<ul> <li>高齢者(4)</li> <li>精神(1)</li> <li>成人(1)</li> <li>訪問後</li> <li>訪問毎 全事例を学生中心にカンファレンスを実施</li> <li>記録による指導</li> <li>実習課題レポートで関連図を記述</li> <li>事例研究としてまとめ、卒業前に学内発表会にて臨地指導者を交えて共有している</li> <li>実習期間中に家庭訪問を計画できなかった時に、保健師が関わった事例を通して、学生と一緒に事例検討をしていくというやり方で、間接体験をする</li> </ul>	<ul> <li>その他の疾病を持つ事例 1 事例(結核、精神、難病など社会資源の活用</li> <li>関係機関との連携が特に必要な事例から選択</li> <li>継続訪問 1 事例</li> <li>1 事例は同行訪問で、1 事例以上は単独訪問</li> <li>訪問後</li> <li>記録の充実【感想文ではなく、アセスメント、評価、計画に繋がるような記録にする。】</li> <li>実習終了後に学内での学びを深める</li> <li>訪問後のカンファレンスの実施</li> </ul>	側で検討し、施設の記録物と合わせて検討してほしい。



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

	は難しいこと
事前学習・ 事前事後のロールプレイの・ 健康相談を	ポナル バのロ 坐にた
・ 学内の講義、自己学習【カ ウンセリング論、地域看護 論、発達段階、必要な指導 内容など】 実施 実施形態(複数回答あり) ・ オリエンテーション(1) ・ 見学後、実施(5)	学生の知識では、臨 な返答が必要な、個 康相談は難しい。 談(特定健診など) 委託になっている 多く、事例が少な 感想文になってい 、記録での学びの充 れるような内容に

明する



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問 6. 現在の、実習においての健康診査の実施状況。今後の充実に向けての取り組み案と、現状では難しいこと。

現状の実施形態
がハリスルルが

# 事前学習

- ・ 自己学習【法的根拠、発 達・発育についてなど】
- 事業担当者からオリエンテーションを実施

## 実施

実施形態(複数回答あり)

- 見学(14)
- 見学後、測定などを実施(5)
- ・ 機会がない(2)

#### 実施分野(複数回答あり)

- 乳幼児健診(14)
- ・ 成人の健診(3)
- 結核検診(2)
- 性感染症(1)

## 事後学習

- 実施後のカンファレンスへの参加で学びを深め、事後フォローについて学ぶ
- 学内報告会の実施

## 今後に向けて

- ・ 事前学習の充実【各ライフステージ、分野に必要な基礎知識とその理解の徹底、保健師の役割の理解など】
- ・ 記録の充実【事前学習がど の程度されているか明確に わかる記録。単なる感想文 ではなく、計画から評価まで を記載するなど】
- 見学のみではなく、問診や 計測の実施
- ・ 健診のみに参加するのでは なく、事前の計画から、当日 の準備、実施、事後カンファ レンス、評価までの一連の 過程を学ぶ。
- ・ 実習後の学内学習の実施 【学内報告会、ロールプレイ など】
- 教育施設側の実習目標の 明確化
- ・ 健診待ち時間を利用した、 母へのインタビューの実施 【妊娠中と育児中の気持ち の変化、育児の悩みを誰に 相談するか、健診を受けて みてどのような気持ちで帰る のか など】
- ・ 健康診査と保健事業の関連を学ぶことが必要

## 現状では難しいこと

- ・ 現在は健診を委託すること が多くなっているため、健診 の見学が難しい。
- ・ 実習学年の調整【4 年次が 妥当】。すべての病院実習 終了後に基本的な技術、知 識をつけてからでないと、参 加は難しい。
- ・ 記録が感想文になっている。健診の学びを記録で深められるような内容にすることが必要である。
- ・ 短い実習期間の中で、健診 が実施されない期間もある ため、実習期間の延長また は、期間の調整が必要であ る。



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問7. 現在、実習において健康教育をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように 充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中 の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思います か。(例えば、テーマ選定の方法、時間、予演会、対象への承諾の方法など)

現状の限界

# これからも発展させたいこと 事前実習の充実(6)

## 現状ではできないこと

## 事前学習

- 学内での事前準備と演習 (5)
  - ・実習前に準備(大学で指導)してもらい実施
  - ・あらかじめ担当教員と実習 プログラムの打ち合わせ を行い、どのようなテーマ で健康教育を実践しても らうか知らせ、事前におお よその計画ができている

## 実習内容

\*市町村・保健センター (母子手帳交付時の説明、 母親教室、育児教室、思 春期教室、4か月健診、 予防接種後、特定保健指 導(集団)、介護予防事 業、老人クラブ、高齢者 や健康づくりの自主ラ ループ活動、教育委員会 や地域包括支援センタ ー、学習意欲の高い女性 達のグループ)

健康教育の企画・実施・評価 \*保健所

> (社会福祉施設の感染症 研修、精神障害者の就労 支援B型(旧作業所)、 感染症にかかる予防策 について、民政委員会を 対象としたアルコ会を 対象としたアルと した、たばこ、薬物、性 感染症等に関する健康 教育)

- 実施形態
  - · 見学 (2)
  - 実施 (16)

- 単なるプレゼンテーション技術ではなく、看護の視点を持って、わかりやすく伝えることを学んできてほしい
- ・ 事前に学内での演習が重要である。また、学内演習時に実習指導者が出向くなど、より現場に近い状況にするためには実施方法の工夫が必要である(4)
- ・ 地区診断と健康教育のテーマが結びついておらず、 学生がテーマを設定し、事 前準備から実施まででき るように助言が必要

## 実習内容の充実(8)

- 実践を増やす(5)
  - ・保健師志望者には、見学で はなく実践を必須とした い
  - ・できるだけ学生が実践できるような事業を設定し、実習期間内に対象者の地域に出向かせて、住民がその後どうなったかを自分で評価させたい(5)

事後学習の充実(2)

- カンファレンスを十分に (学生は何を感じた?何を見た?)
- 実施後の評価も大切であり、アンケート等を工夫できたらいい

・ 保健師志望者のみに絞って実習を受入れ、期間中に自分でテーマを決め、準備から実践、事後観察まで1人で通して体験させたい



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問7. 現在、実習において健康教育をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように 充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中 の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思います か。(例えば、テーマ選定の方法、時間、予演会、対象への承諾の方法など)

現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと
*部分的に参加(2)		
*学生がパネルも作成し、主		
体で実施		
*対象がないときはデモン		
ストレーション		
・実施できていない (2)		
・ 対象者の選定		
*実習先が選定(8)		
・テーマの選定、時間対象		
者への承諾については		
指導保健師が実施(5)		
・実習期間中の健康相談や		
健康診査等の中で、対象		
者に合わせてテーマを		
決め実施		
・市町村のようには事業が		
ないので、思うようには		
計画することは難しい		
*事業を挙げて、学生側が		
選択による (6)		
・健康教育が可能な事業を		
あげ、学生に選んでもら		
い、テーマ等も考えて計		
画してもらう		
・事前準備と演習の実施		
(15)		
・実施前に施設を訪問し対		
象者とふれ合い、対象を		
知り、ニーズを把握し、		
テーマを設定 (2)		
<ul><li>・実習指導者や臨地の保健 師とデモンストレーシ</li></ul>		
' ' = '		
ョン後、対象集団に実施		
事後学習(2) ・ 学内報告会で紹介し共有		
, ,		
<ul><li>実施後、評価計画に基づき 評価を実施し、教員及び実</li></ul>		
評価を美麗し、教員及い美 習担当者とカンファレン		
スを行う		



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問8. 現在、実習において地区組織活動をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。

現状の限界

# これからも発展させたいこと 事前実習の充実(3)

## 現状ではできないこと

## 事前学習(5)

- イメージがわくよう事前 に情報提供(事前に対象者 を知り、対象者のニーズ把 握から内容を組み立てら れるように)を行う(3)
- ・ 地区組織の育成の経験の ある保健師を講師とし、実 践例を事前学習させてい る

## 実習内容

- 実習先での保健師からの 説明(13)
  - ・オリエンテーションで地区 組織活動設立の経緯、事業 紹介・組織紹介等、保健師 の役割を事前に説明
- 見学 (9)
  - ・事業担当保健師または地区 担当保健師から、地区組織 に対する支援内容や連携 方法について見学
  - (患者会・家族会・多胎児の会・療育の親の会や精神ボランティアの会、健康学級健康会議等住民主体の活動、助産師会のNPO法人が実施しているティーンズ保育、子育てボランティアの育成、社会福祉協議会)
  - ・事務所内(指導保健師の配 属場所)に席を置くこと で、日常業務の中で一部を 目にする
  - ・参加者の中から訪問対象 を選択した場合は、自宅 にいる対象者と集団活動 をしている対象の違いに ついて観察

- グループインタビューの 方法についての学習とロ ールプレイも必要
- ・ 地区アセスメントの学習 では、基礎データの分析に 終わらず、活用できる組織 や団体にも重点を置くよ うにし、地区踏査の重要性 を学んできてほしい

#### 実習内容の充実(8)

- 地域の健康課題を明らかにし、キーパーソンを見つけて地域を動かしていくプロセスを学ばせたい
- ・ まちづくり部門や食改善 推進事業など、他の部門や 職種と保健師がどのよう に連携しているか見せた
- ・ 実習項目に入れていない 大学があるため、保健師志 望者には必須としてほし い

- ・ 管内の断酒会、AA、思春期 を考える会などの地区組 織活動から個別支援との つながりをみることもで きるが、夜間や土日の開催 で学生が体験しにくい
- ・受け入れる側としては、多 くのことを見たり経験の てほしいと思うが、学生の 意思を尊重し、希望いとの 意思を尊重し、然しいとの が大学の考えのよい うので、保健師になりたい 学生ばかりではないため、 学生ばかに勧めることは きないというのも疑問を だいというのも にないというのも にないというのも にないというのも にないというのも にないというのも にないといる



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問8. 現在、実習において地区組織活動をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。

現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと
• 面接(6)		
・実習課題に関連する地区組		
織の代表者、療育の親の会		
や精神ボランティアの会		
で活動している人にイン		
タビュー		
• 実施(8)		
・既存の地区組織の活動に、		
スタッフの一員として参加		
・地区組織の会議 (要保護児		
童対策地域協議会、民生児		
童委員協議会、地域包括支		
援センター連絡会議、精神		
障害者の家族会や共同作		
業所などの関係組織) や研		
修会などの事業(健康づく		
りを目的とした自主活動		
グループ・育児サークル・		
高齢者サロン・介護予防を		
目的とした地域の活動) に		
参加		
・ 実施できていない (2)		
事後実習(1)		
・ 実習課題レポートとして、		
事例や地域保健活動と結		
び付けて学びを総括させ		
ている		



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問9. 現在、実習においてグループ支援をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。

現状の限界

## これからも発展させたいこと

## 現状ではできないこと

#### 事前学習(2)

- 地域診断の過程で、実習地域に存在する地区組織を 予め把握させている
- ・ 地区組織の育成の経験の ある保健師を講師とし、実 践例を事前学習させてい る

#### 実習内容

- 実習先での保健師からの 説明(14)
  - ・事業担当及び地区担当保健師から、会の目的や活動の経緯についてオリエンテーション(育児交流会、地域の健康づくりの会、特定保健指導(集団)、機能訓練事業や糖尿病患者家族会など)
  - ・参加者のスーパーバイズ、 活動の活性化を図るため の技術支援、活動成果の評 価方法に関するアドバイ スなど、それぞれの活動に 応じて保健師が果たして いる役割を指導
- 面接(2)
  - ・実習課題に関連する地区組織の代表者へのインタビューや、グループインタビューを実施
- 見学(8)
  - ・療育教室、子育て教室、町 主催のお遊び教室の見学 から、グループの支援を理 解させる
  - ・高次機能障害の会や広汎性 発達障害の親の会、離乳食 教室での母親同士の交流 や、保健推進員会議のグル

- 事前学習の充実(4)
- グループ支援の意義や期 待できる効果などを事前 に学内で学習してきてほ しい(2)
- インタビューの事前準備 が必要であり、グループの 特性や活動内容をよく知 っておくこと、聴く力、感 じとる力、コミュニケーション力が必要

#### 実習内容の充実(6)

- 支援のポイントとして、グループの成熟度や構成・性質などにより支援の仕方や度合いが異なってくることを学んでほしい
- ・ 訪問とグループ支援のつながりがわかる実習が大切(個のニーズの把握【参加している方の思い等】、個から集団に結びつける等を経験し、保健師の役割、機能を理解してもらう)
- ・ 巡回時、講師が学生の経験 を学内での学びと統合さ せ理解を深めるような指 導をしてほしい

事後学習の充実(4)

- 体験させられないので、事前学習や大学の講師が入った事後カンファレンス等、オリエンテーションの内容を実習後に学内で深めてほしい。
- 「場」に参加した時に感じた印象は強いようなので、 それを言語化する手伝いが事後に必要

- ・ 実習期間が延長すれば、支 援計画、グループ化から活 動開始までのプロセスを 経験させたい(2)
- ・ 担当保健師等と事前の打ち合わせを十分しておくともに、保健師とペアの形であれば、学ぶこともでき効果的な実習になるのでは



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問9. 現在、実習においてグループ支援をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。

現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと
ープ討議があれば見学	・ 一部の学生しか経験でき	
・ 参加 (5)	ないので、実習終了後、各	
・地区組織の会議や研修	地域で体験したものを情	
会、「引きこもりの親の	報交換することが重要	
会」と「高次脳機能障が		
いの家族の会		
・ 実施できていない (2)		
事後実習(3)		
・ 大学の講師の巡回をお願		
いし、タイムリーに体験後		
の事後カンファレンスで		
ディスカッション行う		
・グループ支援の活動終了		
時にその場で、学生が感じ		
たこと感想や意見を聞く		
<ul><li>実習課題レポートとして、</li></ul>		
事例や地域保健活動と結		
び付けて学びを総括させ		
ている。保健師の役割が書		
かれているかどうかとい		
う視点で見て良い点は褒		
め、足りない場合には助言		
している		



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問 10. 現在、実習において関係機関・関係職種との連携をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。

これからも発展させたいこと

## 現状の限界

## 事前事後学習の充実(5)

## 現状ではできないこと

## 事前学習(1)

・ 地域診断の過程で、実習地域に存在する関係機関を 予め把握させている

#### 実習内容

- 実習先での説明(11)
  - 地区担当保健師または事業担当保健師が、個別事例を通じて関係機関の種類や連携の目的と方法などを説明
  - ・個人情報の管理や守秘義 務、情報共有の範囲など についても助言している
  - ・病院からのケース連絡、 結核コホート検討会で、 DOTS ナースとの連携、保 健所の保健師、医師、職 場との連携について
- 見学 (9)
  - ・関係機関連絡(医療機関、 包括支援センター、ケア マネ、児童相談所、福祉 施設、民生委員・児童委 員、相談専門機関、警察 など)、関係組織との連絡 会議や打ち合わせ、乳幼 児健診のカンファレンス NPO法人、子育てプラザ、 老人福祉センター等、可 能な範囲で見学
  - 一場面のみしか見ること が出来ていない
- 参加(6)
  - ・感染症発生時、他職種と 調査していることや対策 会議、個別支援の中で関 係機関との連携会議、ネ ットワーク化の場

- ・ 事前学習として、その会の 成り立ち、経過、制度や社 会資源を事前、事後に学習 しておくことが必要(2)
- ・ 事前に提供した訪問ケースの情報に基づき対象理解を十分行って実習に望むことが必要(2)

#### 実習内容の充実(9)

- ・ 単発でその場面を見せる だけではなく、訪問や地区 組織活動のプログラムと 関連性を持たせて見学で きるようにしたい
- ・ 学生自身から疑問や支援 方針を引き出して、どのような機関にどのような目 的で連絡し、どのような連 携をめざすのかを考えさ せる実習にしたい
- 学校としてどのように学 んでもらっており、実習で どのように伝えたいのか を事前に実習担当者に伝 えて下さる機会があれば よい
- 病院実習の時から、病院と 地域を意識し、退院後の生 活をみるなど『継続』して 関わることで連携も見え てくる

- ・ 関係機関との実際の連携 の場まで経験することは 難しい
- ・ 実習期間が延長すれば、地 域ケア会議、事例検討会、 協議会等や連携の場面の 見学も考えられる



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問 10. 現在、実習において関係機関・関係職種との連携をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。

現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと
	これがりも光板させたいこと	近仏 じょじさないこと
・学生に記録等の役割をと		
ってもらい、地域・職域		
連携会議や危機管理の場		
面での学びを考えてもらう		
・ 受け持ち事例を通して学		
\$ (5)		
・継続事例に関係する職種		
の役割、その職種から保		
健師へ期待する事柄など		
を気づくことができるよ		
うに、必要時、インタビ		
ューガイドを作成させ、		
インタビューを計画		
・個別ケースをとおして、		
地域でどのようなしくみ		
があったら問題解決につ		
ながるかを考えさせ、地		
域ヘルスケアシステムを		
理解させる(個別ケース		
のぶつ切りにならないよ		
うにイメージを膨らませ		
ていく。個→展開)		
事後実習(1)		
・ 実習課題レポート〔継続事		
例を中心に関連図を作成		
する。(組織、職種、役割		
など)〕として、事例や地		
域保健活動と結び付けて		
学びを総括させている		



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問 11. 現在、実習において地域診断をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。 (例えば、領域別か否かなど)

#### 現状の限界

## これからも発展させたいこと

#### 現状ではできないこと

## 事前学習(12)

- ・ 学内で学習する社会学等 (地域の組織、コミュニティ)と連携してとらえさせる
- ・ 保健所エリア全体について、その概略を実習する学生グループ全体で協力して情報収集、アセスメントする
- ・ 事前に統計や事業に関す る資料を提供し、学内で実 習グループごとに役割分 担して地区分析・診断を行 う

## 実習内容

- ・ 保健所実習前の学内演習 として分析、健康問題を抽 出。実習を通し、修正し、 最終でまとめ、報告(18)
  - ・実習施設から事前に提供する既存資料と学生自身が 集めたデータをもとに、学 内で地区診断を行い、実習 前半の日程で地区診断結 果を発表させ、教員と実習 担当保健師が助言する。そ こから導き出された健康 課題について、実習中どの ように学びたいか発表させ、見学内容や訪問事例の 選択などに可能な範囲で 反映させる
  - ・地域診断はコミュニティ・アズ・パートナーモデルを一部改変して学ばせている。実習地で報告会を実施(市町村、保健所、教員を交えて)

- 事前実習の充実(6)
  ・ 地区診断とは、ただ単に地 区特性を把握するだけで なく、データや資料を客観 的に読み込んで、複数のら 素を関連付け、そこか策と 財連を見つけいうこと 活かすものだということを きちんと学んできな感じ しい。(たぶんこんな感じ の街だろうという程度の 主観的把握で終わってい る学生もいる。)
- ・ 先に地区を回って学生なりの地区のまとめをしてから、統計と照らし合わせる方が、先入観なく地区診断が行えるようにも思う

## 実習内容の充実(11)

- ・ 同じ学生が時間帯を変え て地区を回られると住民 の生活がよく見えると思
- ・ 膨大なカテゴリーについて複数の学生で分担作業するのではなく、重点的なテーマを決めて、1人1人の学生が最初から最後まで通してやってみた方がよい(そのためには、保健師志望者などに学生数を絞り込んでほしい)
- ・ 実習の中間カンファレンスで地域診断の中間報告を聞き、担当保健師等からのアドバイスの機会があれば充実したものになっていくと考える(2)

- ・ 実習に来る前に「地域」の 見方を学ぶために、離島や 小規模町村に観光やホー ムステイするなどの経験 ができたらいいと思う
- ・ 地区担当保健師が 1 人ず つ付いて、市町村区単位の 分析だけでなく、担当地区 という小さいエリアの分 析もさせて地区組織活動 に結びつける体験をさせ たい
- 今の実習期間(2週間)では難しい、期間が長くなれば、もう少し充実した指導ができると考える



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問 11. 現在、実習において地域診断をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。 (例えば、領域別か否かなど)

現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと
・地区踏査にプラケンの名は、学生連機関のでは、 学生連機関のでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、	・ 実習グレープしてというでも、は「名かったとスメるる」と、は「かしたとスメるのでも、は「かっていいでも、は「かっていいが、は「ながった」には、ないのでは、ないのでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問 12. 最後に実習で学ばせたいこと、必要なことがありましたらご教示ください。 (例えば、実習指導者の人数、学歴、経験、職位、年齢、選定方法、研修の有無及びその 内容、実習支援体制など)

内容、実習支援体制など)				
これからも発展させたい事	現状ではできないこと			
1. カリキュラムに関して	<ul> <li>カリキュラムに関して</li> <li>現状では時間が不十分(5)</li> <li>・保健師の教育は、現状の大学4年では難しいと思う。4年次での選択性にするのか、1年上乗せにするのか、大学院での資格取得にするのか、保健師が就業している現場で議論をおこしていく必要がある</li> <li>・保健師になりたい学生にはもっと実践レベルの実習してほしいが、3年生での地域実習では限界がある</li> </ul>			
<ul> <li>2. 実習体制に関して(10)</li> <li>病院実習で、退院患者が地域でどのような支援うけているのか退院患者の継続実習をしておれば、臨地実習がより理解が深められる</li> <li>学生一人ひとりがテーマをもって実習に臨み、そのテーマで4週間以上継続して実習を行う</li> <li>看護師基礎教育及び、主なる疾患別の病院での実習の終了後の実習が望ましい(2)</li> <li>各教育機関が実習期間をずらす</li> </ul>	2. 実習体制に関して(10) ・ 質の高い保健師を養成する観点から、実習現場でも受け入れ態勢を整えたいので、保健師を希望する学生の選定をお願いしたい(5)			
<ul><li>3. 事前学習の必要性(2)</li><li>・ 学内でできることはなるべく学内で学習し、実習では多くのことを体験して欲しい</li><li>・ 身体の仕組みなど基本的な知識を習得して実習に臨んで欲しい</li></ul>	3. 事前学習の必要性			
<ul><li>4. 環境、工夫に関して</li><li>学生配置としては、グループの効果を考えると4人ぐらいが最適</li><li>指導者1人に学生2人がちょうどよい(グループは3から4人のグループ構成がよい)</li></ul>	4. 環境、工夫に関して ・ 保健師志望者には、学生1人に保健師1人 が付くような指導体制で、ひとつの地区を 継続的に見る			
5. 指導体制 ・ 実習機関と教育機関の調整の必要性 ・事前に実習目的を確認し、実習受け入れ 担当者間での意思統一を図り、実習計画 を策定する(大学の方針と、現場が重視 しているものがかなり違っているのでは	5. 指導体制 ・ 実習機関と教育機関の調整の必要性 ・保健所と市町村の連携等も講義だけでは なく、体験できればと思うが、どのよう な工夫ができるのか大学や市町村と一 緒に考えたい			

ないか) (5)



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設 計 20施設

問 12. 最後に実習で学ばせたいこと、必要なことがありましたらご教示ください。 (例えば、実習指導者の人数、学歴、経験、職位、年齢、選定方法、研修の有無及びその 内容、実習支援体制など)

## これからも発展させたい事

## 現状ではできないこと

- ・実習はその施設でしか見聞き体験できない ことを学ぶ場なので、カンファレンスで教員 が講義するより、現場の保健師の意見を聞 く場にした方がよいのではないか
- ・学生の個人情報だとして、実習レポート や記録物の記名を削除したり、実習後に 回収する大学があるが、これでは受入施 設として学生の理解度や到達度などを 把握できない
- ・保健所と市町村の連携等も講義だけでは なく、体験できればと思うが、どのよう な工夫ができるのか大学や市町村と一 緒に考えたい
- ・ 実習指導者の研修について
  - ・保健師の実習指導者研修を体系化してほ しい(具体的には、指導者の役割、学生 への関わり方、実習計画の立案、地域診 断の手法、コーチング等)(2)
  - ・実習打ち合わせ会議が、研修の場になればいい(2)
  - ・採用後の現任教育との連動を考えると、 施設側も専任の指導者を置いて、指導の 質を高めることが望ましい(現状、業務 をとおしての支援では、実習効果があが らない)
- 実習指導者の力量と実習施設
  - ・実習指導教員の人数確保(習指導者は企画の担当保健師と事業課の担当保健師 で複数体制の方がいい)(5)
  - ・管理職を中心にしている保健師よりは地域での実務を中心に活動している保健師の方が業務やケースとのやり取りをより 具体的に学生に伝えられる
  - ・実習指導者は、職位はとわないが、保健 師経験が長く、地域の事業等全体が把握 できている人がいい
  - ・中堅期後期(大卒で7年目以上、主任・ 主務の方、行政職3級相当)と新任期(4 年目)の指導者の2人指導者で指導しや すかった(中堅期後期の指導者の学生に

- ・ 実習指導者の研修について
  - ・市町村の保健師は研修を受ける機会がないので、大学で学ぶ場の提供をして欲しい
- ・ 保健師のスキルアップの為の教育はどこが責任をもつのか明確でない現状がある。 今後の保健師教育のあり方として大学院 でどんなスペシャリストになるのか少々 疑問である
- 実習指導者の力量と実習施設
  - ・実習施設側も、実習専任保健師がいることが望ましい



都道府県保健所 5施設、市町村保健センター 11施設、中核市 1施設、政令指定都市 3施設計 20施設

問 12. 最後に実習で学ばせたいこと、必要なことがありましたらご教示ください。 (例えば、実習指導者の人数、学歴、経験、職位、年齢、選定方法、研修の有無及びその 内容、実習支援体制など)

内容、実習支援体制など)				
これからも発展させたい事	現状ではできないこと			
対する声かけ、配慮を新任期の指導者が 学べた) ・受入施設側も、見学やオリエンテーションの駒を埋めるだけではなく、学生が毎 日自分の目標を持って実習に臨めるよう 配慮する必要がある ・ 教員に求められるもの ・一人で同期間に何箇所も受け持つことがないように、専任の実習指導教員をおいて、可能な限り実習の現場に入ってほしい(実習現場に任せきりにならないこと)(4) ・保健師経験のある教員に担当してほしい・学生の特性をよく理解している教員に実習を担当してほしい(2) ・在宅看護と、地域看護の違いを教員が十分理解してほしい ・実習内容及び学生の資質に合わせた指導計画を立て、到達目標に結びつけるような指導助言を行って欲しい・学内での事前学習、実習中及び実習後の指導が一貫して適切に行われること	<ul> <li>教員に求められるもの</li> </ul>			
<ul><li>学生に求められるもの</li><li>保健師への関心を持つ</li><li>地域看護学実習に対する目的が明確であること。一つ一つの事業について事前学習をし、目的をもって臨む</li><li>学生のやる気と自覚</li></ul>	・ 学生に求められるもの			



## 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

## 問1. 新規採用時点での保健師に必要な能力、力量、態度、価値観。

能力・力量	態度	価値観
基本的な地区活動ができ、また	保健師の役割や活動内容を理	保健師の役割や活動内容を理
基本的な地区活動ができる能力 ・ 地区活動ができる能力 ・ 地区性を理解体のできる能力 ・ 地区住民が一定を理解のの区ができる能力 ・ 地区ののできるができるがのできた。 ・ 地域ののでは、 して、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでのでは、 ないでのでは、 ないでのができないが、 ないでのができた。 ・ では、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 といいでは、 といいは、 といいは		
<ul><li>ーション能力</li><li>他職種・他機関との連携できるコミュニケーション・マネジメント能力</li><li>自分を振り返ることができる能力</li></ul>		



看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問2. 上記のような能力や力量を備えるためには、どのような保健師教育、特に地域看護学実習はどうあればよいか。

はどうあればよいか。				
現状	これからも発展させたいこと	現状では難しいこと		
	実習指導教員の指導力の向上・増員 ・ 教員の上・増員 ・ 教達の合価を確しませい。とこれで実す機関化を習んで実すので実す機関化を習り、を習りを変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を変別を	現状では難しいこと  実習指導者・指導教員について ・ 一人の指導者の継続的な 指導。【事業は担当者の指 導で良いが、実習指導者が 毎日学生の学びを確認】 ・ 教員を一施設当たり一人 以上配置できるよう専任 教員の確保		
	<ul> <li>事前学習、地区診断には最低2週間必要</li> <li>事業の説明だけでなく、具体的にその事業に至るまでの背景と地域の健康課題との関連を学習する。</li> <li>・学内での既存資料を用いた演習と地区踏査(実習)とを組み合わせた学習。</li> <li>看護師教育の各分野と保健師教育の各分野の関連づけができる授業内容が必要(地域と病院の連携やマネジメント機能について)・実習後、報告会の開催</li> </ul>			



看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問2. 上記のような能力や力量を備えるためには、どのような保健師教育、特に地域看護学実習 はどうあればよいか。

はとうめれはよいか。		
現状	これからも発展させたいこと	現状では難しいこと
<ul> <li>実習内容について</li> <li>・ 各事業の見学実習が主になっている</li> <li>・ 実習時期に事業が行われていないものがある。</li> <li>・ 家庭訪問は継続事例を持つことができない。</li> <li>・ 訪問回数が少ない。</li> </ul>	実習内容の充実  ・ 実習前の学内での事前学習について実習初日にオリエンテーションで報告し、実習中の各種事業の参加を通して地域診断の修正、加筆、報告を行う。 ・ 各領域の様々な事業見学をすることで、ヘルスケアニーズを把握する。	実習内容のについて ・ 地区活動を系統的に学ぶ実習 【家庭訪問などの個別支援とともに、住民に対する集団画、評価、活動の保健師の仕事の一連の流れを理解する。】 ・ 健康教育の実施【アセスメント、計画、実施、評価はアセスメント、計画、実施、評価はのプロセスを体験し、実際に向けての予演会は最低2回必要。また準備にあたって、事前学習、事前演習の実施】・ 家庭訪問、健康相談などの個別支援の充実【家庭訪問や健康相談などで個人・家族をじっくりとらえ、直接支援の増加の人の方との方との方での演習時間の増加。】 ・ 個別支援能力を強化するために、継続事例を受け持つ。
<ul><li>カンファレンスについて</li><li>カンファレンスを毎日実施できていない</li><li>カンファレンスを効果的に運営できていない</li></ul>	<ul><li>カンファレンスの充実</li><li>毎日カンファレンスを行い、 学内で得た学びと実習で得た学びを結びつける。</li><li>教員や指導者のカンファレンスへの参加、アドバイス</li></ul>	
実習期間について ・ 現在の実習期間では短く、 十分な学びが得られない	実習期間の延長・工夫 ・ 市町村実習期間の延長(5週間~10週間) ・ 前期・後期制にする。【前半は地区診断、後半健康問題、健康教育に取り組むなど】 ・ 保健所の実習期間の延長(2週間以上)	実習期間について
保健師教育を大学院で行う ・ 実習期間が短いため、十分な実習内容にならない。 ・ 全ての学生が保健師志望ではないため、モチベーションが低い。		保健師教育を大学院で行う ・ 保健師教育を、高度専門職 業人教育と位置付ける



看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問3.今後の地域看護実習を充実させるための取り組みについて。			
現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと	
・ 見学中心の実習になっている	地域において、主体的に看護活動を展開できる基本的能力 ・ 保健師の行う方を学する人とに、 と と で を で で で で で で で で で で で で で で で で	地域を表す。 ・ は、	



訪問事例新生児

## 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問4. 現在の、実習においての家庭訪問の実施状況。今後の充実に向けての取り組み案と、現状			
では難しいこと。			
現在の実施形態	今後に向けて	現状では難しいこと	
事前学 **・ **・ **・ **・ **・ **・ **・ **・ **・ **・	事前 実習 ・ お問妻 ・ お問妻 ・ で まで、	<ul> <li>実習内容</li> <li>・ 1~2事例で1事例に2回目がある</li> <li>・ 継続訪問する</li> <li>・ 継続訪問と指導者同行、2回目は指導者同行、2回目は単独)</li> <li>・ 家庭動分子・実践事例の見学・実践事例の受け、で、ない事の受け、で、ない事のでは、本事のでは、本事のでは、本事のでは、本事のの見学ができる</li> <li>・ ときる</li> <li>・ 実習期間の延長</li> <li>・ 保健師教育を大学院での教育にする</li> </ul>	

実施後、学生・指導者・教

員による事例検討の実施



看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問4. 現在の、実習においての家庭訪問の実施状況。今後の充実に向けての取り組み案と、現状では難しいこと。

現在の実施形態	今後に向けて	現状では難しいこと
<ul><li>高齢者</li></ul>	<ul><li>大学教員は、理論と実践の</li></ul>	
<ul><li>母子</li></ul>	統合をする	
• 精神	・ 実習指導者からの保健師	
· 成人	の役割・機能、保健師の支	
訪問後	援技術などについて確認	
<ul><li>カンファレンスの実施</li></ul>		
・ 実習指導者・指導教員から		
の助言と指導		
・ 記録の整理		
・ 選択制のアドバンス実習		
や卒業研究での継続訪問		
の実施		



## 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問5. 現在の、実習においての健康相談の実施状況。今後の充実に向けての取り組み案と、現状では難しいこと。

<ul> <li>事前学習・事前によくある事例をロールプレイする・事前に指導者または担当者から事業の意義・目的・運営方法の情報収集しておく</li> <li>実施 実習形態・見学が主で、学生が実施できるものは実施している。【母子健康手帳の交付面接、老人クラブの健康相談など】(11)・学生主体で実施【実習指導者または教員が必ず構で付き添う】(1) 実習分野・実理中に行われている様々な分野の事例を依頼事後学習・見学後、学内演習を行う。指導者及び教員が対応してロールプレイ・健康相談後の実習指導者による補足説明・カンファレンスの実施</li> <li>学内での、面接技術演習、・ 現在は見学が主になっているが、学生が何度か実施できるような体制作りが必要・十分な授業時間の確保指導、力、ファレンスの実施と、事前の学内での演習・準備は現実的に難しいため、講義で行っているがより、事前の学内での演習・準備は現実的に難しいため、講義で行っている</li> <li>実習施設側から、事前に健康教育についての資料の提示を対する。 実習施設側から、事前に健康教育についての資料の提示を対する。 実習を表しているの資料の提示を対する。 まずまでは、事業を対するというでは、事業を対するというでは、事業を対するというでは、事業を対するというでは、事業を対するというでは、事業を対するというでは、事業を対するというでは、事業を対するというでは、事業を対するというでは、事業を対するというできるような体制作りが必要を表しているが、学生が何度の実施を表しているが、学生が何度の実施をできるような体制作りが必要を表しているが、学生が可能を表しているが、学生が可能を表している。 現在は見学が主になっているが、学生が何度の表しまする。 現在は見学が主になっているが、学生が何度の表しまする。 現在は見学が主になっているが、学生が何度の表しまする。 現在は見学が主になっているが、学生が可能を表しまする。 まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまが、まずまでは、まずま</li></ul>



看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問6 現在の、実習においての健康診査の実施状況。今後の充実に向けての取り組み案と、現状

問6. 現在の、実習においての健康診査の実施状況。今後の発実に向けての取り組み案と、現状			
では難しいこと。			
現状の実施形態	今後に向けて	現状では難しいこと	
事前学習 ・ 健診についての意義や保健師の役割や活動の視点、健師の役割や活動の視点、健康との関連性について ・ 事問題について ・ 事問題について 実施 実施 ・ 誘導や計測を実施し、問診や保健指導は見学(10) ・ 受診者とともに健診現場をまかり、受診者の立場で参加している(2) 実習分野 ・ 実を力の健診を依頼 事後学習 ・ 健診アレンスにはであるたけがあるであるではない。 ・ 学生のミニカンファレンスで、学びをもとに保健師	・健康診査の中で、身体計 測、血圧測で、一般はの一般になる。 関、血質で、で、ないで、で、ないで、で、ので、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、	<ul> <li>学生が実習施設で実践できる機会を設ける</li> <li>事前の学内での演習・準備は現実的に難しいため、講義で行っている</li> <li>実習期間が短く、健診を実施していない期間に実習が当たる場合がある</li> <li>さまざまな健診を外部委託しているため、事業自体が少ない</li> </ul>	
の役割を考える	・ 自分の保健指導を振り返		

ることが必要



## 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問7. 現在、実習において健康教育をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように 充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の 学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。 (例えば、テーマ選定の方法、時間、予演会、対象への承諾の方法など)

現状の限界

## これからも発展させたいこと

## 現状ではできないこと

## 事前学習

#### 学内での講義

- 学内での事前準備と演習 (面接技術演習、健康教育 演習)、それに関する講義 を通して、一連の健康教育 を企画・指導案作成・発表 を体験、評価を行う
- ・ 自治会と協力して開催しているため、事前に役員と教員が、地域の生活ぶり、健康問題を聞いておく
- ・ 保健センターから地区資料を提供してもらい、学生にこの地域での健康教育のテーマの妥当性を考えさせる

## 実習内容

#### 実施形態

- ・ 学生主体の健康教育を実 施している(4)
- 実習施設の指導を受けながら、予演会、リハーサルを通じて本番に臨んでいる(4)
- 担当保健師が行う健康教育の一部を担う形で、10-15分を学生が担当する(2)
- 見学のみ(2)

## 事後学習

- ・ カンファレンス、学生間、 学生実習指導者と教員で 評価の実施(3)
- 実施後は、その場で、ある いはカンファレンスやアンケートで、参加者から評価
- 学生は自己評価と他者評価を実施

事前に地域のアセスメントを行い、そのうえで学生が健康教育の企画から一連の過程を行えることが望ましい

・ 授業の中で指導案を立て、 演習として短時間の健康 教育を実施、学生間で評価 して指導案をより良いも のにしていく

#### 実習内容

事前実習

- ・ 保健師が実際に行っている1事例は見学し、その後はすべての学生がグループで実践するという経験をする必要がある
- ・ 学生に主体性を持たせるため、演習への取り組みを実習ペアごとの取り組みとさせ、企画書の時点から、なぜその健康教育が地域の中で必要か地域の特性と関連付けて考えさせたい
- テーマの選定や内容を決めていく過程に保健師が関わってくれると効果的な学習になると思う
- 健康教育の企画・実施・評価

## 事後学習の充実

- ・ 実践が終わってから指導 者からの助言、大学教員の 指導は必要
- ・ 指導者からは、健康教育の 実施状況について、学生と 評価しあう。保健師として の判断、支援の方向性など について指導してもらう

・ 現在の実習日数では、準備を十分行うことができず、 断念しているが、今後、1 か月以上の実習期間が実 現すれば是非実践させたい



#### 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問7. 現在、実習において健康教育をどのように実施されていますか。今後に向けてどのように 充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の 学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。 (例えば、テーマ選定の方法、時間、予演会、対象への承諾の方法など)

現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと
	・ 大学教員は、理論と実践の 統合をする。学生の実践内 容から、保健師の役割・機 能、保健師の支援技術など	
	について確認する	

問8、現在、実習において地区組織活動をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように 充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の 学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。

現状の限界 これからも発展させたいこと

## 事前学習

- 講義
- 地区組織活動の種類とメ ンバーについて事前学習

## 実習内容

- 実習先での保健師からの 説明 (4)
- 面接(6) (推進員・民生委員、自治会 等)
- 見学、参加(6) (民生委員の活動、セルフへ ルプグループの集会に出 席)
- 体験したいができない場 合もある(1)

## 事後実習

- ・カンファレンスにおい て、保健師を交えて疑問 点を明らかにするなど、 保健師の役割を明確に する (1)
- 面接での学びはレポー ト、調査記録を作成する (2)

## 事前実習の充実(4)

- 学内では、面接技術演習、 地区組織活動論に関する 講義が必要
- 講義の中で、活動されてい る方や保健師さんに来て いただいて学ばせておく

#### 実習内容の充実

場面の参加だけでなく、保 健師の意図や経過、保健師 の役割を明確に説明して ほしい(2)

## 事後学習の充実(2)

- 事前、事後での学習の確認 のためのカンファレンス 等が必要である
- 実践が終わってから指導 者からの助言、大学教員の 指導が必要。大学教員は、 理論と実践の統合をする。 学生の実践内容から、地区 組織活動の意義、保健師の 役割、コミュニティエンパ ワーメントと組織的なへ ルスプロモーション活動 についてなどについて確 認する

## 現状ではできないこと

- 地区組織活動について学 ばせたいが、活動の有無や 時間の関係でできない場 合もある。
- 学生は、自分たちで地区組 織の代表者と連絡をとり、 面接・見学の日程を調整 し、指導者へ連絡しなが ら、一緒に活動に参加し、 継続した関わりを持ちな がら、自分たちでインタビ ューできる程度のレベル であることが望ましい
- 修士課程であれば継続的 に地区組織活動に参加し、 介入評価につながる活動 展開が実習中にもできる



している(1)

看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問9. 現在、実習においてグループ支援をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、 実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか

	えですが。また、そのための事情の教育などに関してどのようにで	
現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと
事前 学習 ・ 講演 (2) ・ 事前 講演 (2) ・ 事前 講事 いましま プロ (2) ・ 事前 なにも 容 で (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	事前事後学習の充実(2) ・ 事前・事後の学習の確認のための学習の確認のためでで、活動されているが必要の中で、活動されてている方をだいませておくまでの充実(2) ・ が表に、はないとのでで、活動されておくまでの充実(2) ・ が表に、ないただがででで、表しておりでで、表しておりでで、表して、ないのでで、活動に、ないのである。 ・ 精神保健実習するというである。・ 精神ので、強化したいところである。	・ グループ支援は一人で実施できる程度のレベルを望むのは難しい



## 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問 10. 現在、実習において関係機関・関係職種との連携をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。

#### 現状の限界

## これからも発展させたいこと

事前事後学習の充実(3)

## 現状ではできないこと

#### 事前学習

・ 連携をしている関係機 関・関係職種の業務内容や 役割を確認しておく

#### 実習内容

- 実習先での説明(8)(各種事業の際に説明して もらっている)
- 受け持ち事例を通して学ぶ(3)
  - ・訪問事例を通して、どのような人と連携しているかを学ぶ
- ・ 見学(5) (関連機関連絡会議、子育 て支援センター、地域包括 支援センターケアマネージ ャ連絡協議会、小学校の防 炎教室等)
- 面接(3) (対象ケースが利用している機関、ケースに関わっている関係職種のもとへ伺い話を聞く)
- 学内学習(1)

## 事後実習(4)

・ 見学、および保健師からの 説明、事例のフォローを通 して関係機関、関係職種と の関係を考えさせる

- ・ 連携の方法や内容は、事業 や活動内容によって違っ てくるので固定できない が、1つ1つの事業・活動 での「連携」について(形 に示せるもの・・・相手・内 容・方法など)図式化させ、 それらの積み重ねによっ て、事後(実習中も含め) に学習を深めてはどうか
- ・ ケア会議や家庭訪問事例 や事業を通じて、関係機関 との連携の場面を捉えて 意識的に学生と関わって いき、カンファレンス等で その意味づけを確認して いくことが必要
- 体験できなくても、保健師 が連携していることを学 べるよう、講義では例をあ げて理解を深めておきた い

## 実習内容の充実(1)

・ 家庭訪問を単独で実施した場合、あるいは、健康相談・健康診査場面で関わった事例について、必要な関係機関連携についての判断をし、指導保健師と相談し、指導保健師の指導のもと実施させたい

体験できる部分が少なく、 保健師の説明によるところが多くなる。



## 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問 11. 現在、実習において地域診断をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。 (例えば、領域別か否かなど)

## 現状の限界

## これからも発展させたいこと

事前実習の充実(3)

## 現状ではできないこと

## 事前学習(4)

- 学内の地区活動論演習で 地区診断及び地区活動計 画作成を学ぶ
- ・ 保健師から地区診断の方法について説明を聞く。ニーズの掘り起こしから事業の計画につなげる過程を演習で全員の学生が学ぶ

## 実習内容

- ・ 保健所実習前の学内演習 として分析、健康問題を抽 出。実習を通し、修正し、 最終でまとめ、報告(12)
- ・ 実習中の地区診断はプロ セスを学ぶもので、一定の 到達度はきめていない

## 事後実習

- 実習終了後、地区診断、地 区活動の一連の学びを実 習報告書として実習指導 者に送付
- 実習終了後、学内での振り返りでグループ間での報告を行う(4)

- 学内では、地域アセスメント演習、地域アセスメントに関する講義が重要
- ・ 学生に事前に渡す事例の 情報としては、基本的な情報(地域アセスメントのための実習施設の保健事業計画、保健師の活動計画など)を渡し、その他必要な情報は何か、どこにあるのか、自分たちで調べる。データを分析し、読み取る能力を育成することが大切である

## 実習内容の充実(4)

- 地区での活動と市として の施策化のつながりの理 解を深めたい
- 統計データだけでなく、日常活動から得られる質的なデータを地域診断に活用することを学ばせたい
- ・ 学生が分析した課題を住 民に提示するような機会 があれば、□住民の方とと もに活動する□こと、様々 な立場や視点に気づくこ と、協働すること等、効果 的な学びができると思う
- ・ 実践で指導者からは、地域 診断について日常業務の 中で保健師としての判断、 保健師として支援の方向 性などについて指導して もらう。大学教員は、理論 と実践の統合をする
- ・ 地域の健康データから、健康課題を見出す

・ 地域診断が一人で実施できる(地域理解のためのアセスメント)程度のレベルであることが望ましい



看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問 11. 現在、実習において地域診断をどのように学ばせていますか。今後に向けてどのように充実させようとお考えですか。また、そのための事前準備(実習場および学内)、実習中の学ばせ方、事後の教育などに関してどのようにすると効果的な学習になると思いますか。 (例えば、領域別か否かなど)

現状の限界	これからも発展させたいこと	現状ではできないこと
500000	<ul><li>事後学習の充実(3)</li><li>理論が実習での地区活動 体験ではどう結びついた のか、自分の言葉で語れる</li></ul>	STATE OF THE
	ようにしたい ・ 地区診断結果を実習後の 授業等で評価する機会が あるとさらに学びは深ま	



#### 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問12. 最後に実習で学ばせたいこと、必要なことがありましたらご教示ください。 (例えば、実習指導者の人数、学歴、経験、職位、年齢、選定方法、研修の有無及びその 内容、実習支援体制など)

## 必要であり、これからも発展させたいこと

- 1. カリキュラムに関して
- 現状維持(市町村レベルは、ゼネラルな対 応ができるレベルなので、4年間の教育で よいと思う
- 現状では時間が不十分
  - ・講義と演習と実習を関連させた授業展開 が必要。現状では、演習も実習も時間的 には不十分
  - ・実習時間数の確保。少なくとも1か月の 実習は必要
- ・ 地域看護援助論において、演習をチュート リアルで実践的に行う
- 積み上げの教育課程(積み上げの教育課 程、または修士課程)
- 2. 実習体制に関して
- ある部分(個別→集団→地域アセス)、(健 康相談→家庭訪問→健康教育→事業計画) を学び、すぐ実践し、振り返って、また実 践する<講義・演習→実習→講義・演習→ 実習→講義・演習の繰り返し>
- ・ 保健所実習を市町村実習のあとにしては どうか(現在は逆で、保健所実習は座学が 多く、学生にとって保健師活動がつかみに くい現状がある。カンファレンスでの関わ りも重要である
- ・ 最後は統合する実習があっても良い
- 3. 学内実習の必要性
- 実習だけでは十分な学びにならないので、 常に学内演習で、実習の前後に教員が指導 することが必要
- ・ 学内実習中においても演習を意図的に行 い、実習と学内演習をリンクさせ、学生が 理論と実践を結びつけて理解できるよう にしている
- 実習期間は4週間であるが、最終週の3日 を帰校日とし、その中で他実習施設の学生 とそれぞれの事業体験を分かち合う「体験 シェアリング」、学生が実習を行った施設 ならではの事業を紹介する「イチオシ保健 事業」、実習期間中に遭遇した現象から保

## 必要であるが、現状ではできないこと

- 1. カリキュラムに関して
- 現状では時間が不十分(4)
  - ・4 年生のカリキュラムの中で、保健師教 育をするのは無理である



## 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問 12. 最後に実習で学ばせたいこと、必要なことがありましたらご教示ください。 (例えば、実習指導者の人数、学歴、経験、職位、年齢、選定方法、研修の有無及びその 内容、実習支援体制など)

# 内容、実習支援体制など) 必要であり、これからも発展させたいこと 必要であるが、現状ではできないこと 健師の専門性を抽出しそれらにコメントをし合う「保健師の専門性」等を行い、一定の学習効果を上げている 4. 環境、工夫に関して・学内でのインターネットの活用・実習施設

- ・学生の居場所の確保(保健師の動きが見 えるところで)
- ・実習生の顔写真と自己 PR をプリントし 実習前に提出している
- ・教育機能をもった実習施設の指導体制を 整備
- 実習グループ
  - グループダイナミックスが活性化するために、学生にリーダー、サブリーダーの 役割を持たせる
  - ・3名よりは4名のグループの方が、グループダイナミクスが働く
- 5. 指導体制
- ・ 実習機関と教育機関の調整の必要性(6)
  - ・実習前〜実習後、打合せや連絡などによって、実習の概要や指導をお願いしたいことなど、説明し実習や学生の理解をしてもらうようなるべくコミュニケーションを密にする
  - ・実習開始前及び終了後、各実習施設より 指導者を招いての打ち合わせ会と反省 会を行っている
  - ・現場と本当に協働できるように関係づく り、現場の看護の質をよりよくするため に、関わりを持ち続けること
  - ・学びの共有として、実習中におけるミニカンファレンス、中間カンファレンス、 最終カンファレンスを設ける
- ・ 実習指導者の力量と実習施設(7)
  - ・実習保健所の指導者に臨地教授等の辞令 を交付している
  - ・指導者の職位は問わないが、地域全体が 捉えられている人がいい
  - ・指導者が教育課程と大学のカリキュラム

5. 指導体制

- ・ 実習指導者の力量と実習施設(7)
  - ・保健師には大学院教育が必要



## 看護系大学 11校、保健師養成校 2校 計 13施設

問 12. 最後に実習で学ばせたいこと、必要なことがありましたらご教示ください。 (例えば、実習指導者の人数、学歴、経験、職位、年齢、選定方法、研修の有無及びその 内容、実習支援体制など)

## 必要であり、これからも発展させたいこと

## 必要であるが、現状ではできないこと

を理解していること、

- ・学生のレベルを理解し、教育的にかかわ れる力量があること
- ・指導者が日常的に、演習や講義などで大 学の教育に参加していること
- ・住民から評価される活動をしている施設
- 教員に求められるもの(7)
  - ・教員が複数の実習施設を 3~4 ヵ所担当 するため毎日指導に行くのは困難。1 週 間に3回程度は指導に行く
  - ・教員は6~7人の学生を実習と演習の担当制にし、面接を重ねレポート指導も丁寧に行う
  - ・准教授と助教が実習指導にあたり、教授はスーパーバイズ
  - ・大学側では地域看護教員が組織的に取り 組み、学生の実習全体が一定の水準とし て到達できるような管理体制が必要で ある
  - ・保健師の経験があり、実践感覚を持った 教員であること(2)
  - 研究や現場へのコンサルテーションなどを通して、実践をしている教員
  - ・地域看護領域の専門の教員の複数配置 (最低でも3人)
  - ・地域の健康課題を判断したり家庭訪問も 教員が行い、知育住民から信頼を得てい る必要がある

- 教員に求められるもの(7)
  - ・看護系大学教員の質を担保するための研修を看護系大学教育の協議会などで行うことができないか



## 4単位での実習計画案

## 養成したい保健師像

養成したい保健師像は、対人関係能力が高く、保健師としての地区活動の必要性の理解と基本的な活動ができ、社会人としての自覚をもち、将来の地域保健福祉活動の推進者としての発展性を備えた人材である。

## 前提

看護師教育課程を終了し、看護師免許を取得している。看護師教育課程では、個人を対象とする 健康増進や再発予防についての保健指導の学習をしている。

また、実習開始前には、地域診断に関する実習管内の保健統計資料を図書館やホームページなどで事前に調べ、実習施設からの資料と合わせて学内にて情報整理、分析、健康課題抽出などを行うこと。

## I. 実習目的

地域で生活している個人・家族の生活背景、家族関係、社会的立場を含めて人々を理解し、支援するために必要な基本的知識・技術を習得する。また、集団(産業、学校分野を含む)や地域を対象として行われる公衆衛生看護活動に対する理解を深め、自ら実践できる能力を養う。

## Ⅱ. 実習目標

## A. 公衆衛生看護学実習 1 《公衆衛生看護基礎実習 1 単位》

- 1. 保健所・保健センターの役割と機能(組織・予算を含む)を理解することができる。
- 2. 地域診断に必要な情報を収集し、地域の状況を捉えることができる。
- 3. 家庭訪問の目的ならびに方法論を理解する。

## B. 公衆衛生看護学実習 2 《地域保健活動実習 3 単位》

- 1. 保健師が行う地域看護活動の実際を学ぶとともに地域の健康課題を明らかにし、実践することができる。
- 2. 地域のあるべき姿(ビジョン)を明確にするとともに、効果的な保健事業を企画・立案、実施、 評価する過程、および施策化に必要な根拠とプロセスを理解し、自らも企画立案できる能力 を養う。
- 3. 継続的に家庭訪問を行い、単独訪問ができる能力を身につける。
- 4. 地域の人々が自己決定をするために必要な情報提供や支援に対して理解を深めるとともに、人々の尊厳と権利、プライバシーを守ることができる。
- 5. 地域の健康課題や住民のニーズから健康教育の課題を見いだし、その課題に基づいて健康教育の企画・立案・評価ができる。



- 6. 健康政策や地域の健康課題をもとに実施されている各種保健事業の実際を理解し、地域保健 活動の理解を深める。
- 7. 地域における関係機関および関係職種の活動を把握し、さまざまな場面を通して必要な情報の共有や共通の活動目的を見出すことにより、ネットワークが構築される過程を理解する。
- 8. グループでなければ解決できないグループダイナミクスを理解し、当事者グループの活動、ならびに地区組織活動に対する理解を深める。
- 9. 健康危機管理の実際を理解する。

## Ⅲ. 実習内容

## (1) 実習の項目および内容

1) 公衆衛生看護実習 1

1/ 公水倒土有暖天日 1			
項目	ねらい	実習内容	実習方法
1 実習オリエンテーション	保健所・保健センタ 一の役割と機能(組 織・予算を含む)を 理解する	保健所・保健センターの概要を学ぶ (1)都道府県や市レベル:基本計画、基本方針、機構図 (2)実習施設レベル:基本方針や年度目標、組織図、職員体制、所掌事務、施設、運営推進協議会等の関係団体、地域の関係機関・関係団体との関係性、予算のしくみ及び既存事業の予算案例	①ホームページ等を利用した学生自身による資料入手 ②実習施設担当者によるオリエンテーション ③資料提供
2 地域診断	地域診断に必要な情報を収集し、地域の状況を捉えることができる。	(1)実際には、大学のでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	①地域住民の質的データを入手する 方法について検討する ②家庭訪問、健康診査、健康教育な どの保健活動の場における視点を 明確にし、数額にの ののではない。 ③調査(インタビュー、質問紙法、 観察集した質的データについて分析 する ⑤地域診断発表 ・実習施設におりで発表する。 ・実習施設にたついて発表する。 ・実の辞価について発表する。 ・そのの残したでいて説明を受ける。 ・その残さいてディスカッションする。



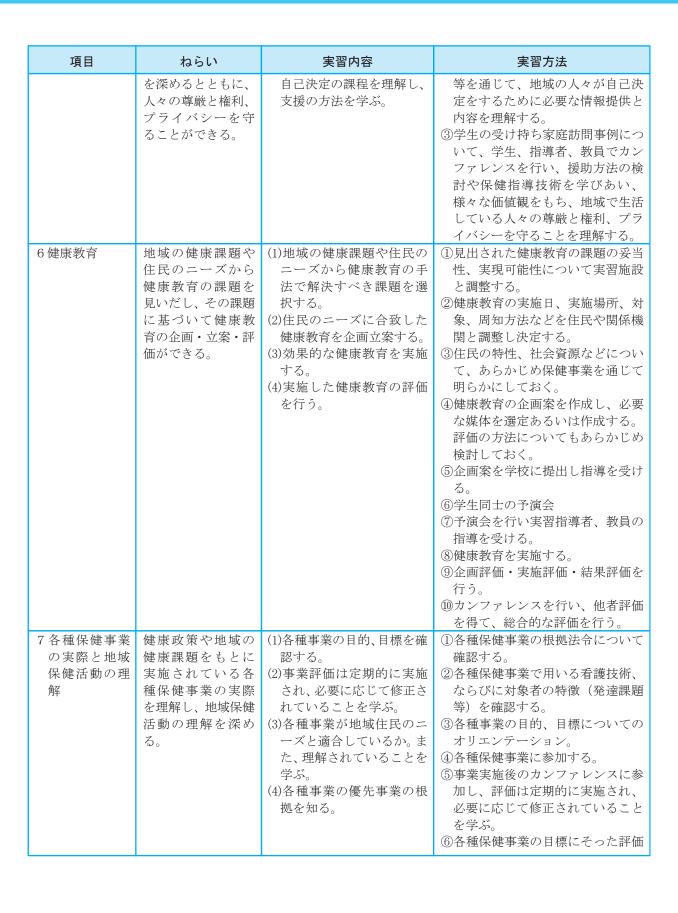
項目	ねらい	実習内容	実習方法
<b>項 目</b> 3. 家庭訪問	ねらい 家庭訪問の目的なら びに方法論を理解す る。	実習内容  (4)見出した健康課題について実際に行われている地域看護活動を知り、残された課題を検討する。  (1)家庭訪問する対象者の把握方法、優先順位の決め方について理解する。  (2)対象者との日程調整、居住地や交通手段の確認、訪問の準備など家選訴問の準備などの準備などが要に応じて指導に必要な資料を作成・準備する。 (3)カルテの取り扱いなど個人情報の保護について学ぶ。	実習方法  ①家庭訪問計画は、これまでの援助経過をよく把握し、目的を明確にしまする。計画内容は所定の書式に記載し、訪問の前日までに指導者の助言・指導を受ける。 ②援助に必要な看護技術、シミュレーション技術を高めるために繰り返しロールプレイを行う。 ③必要物品・指導用資料を指導者の助言を得ながら進める。 ④事例を選定する過程で、対象者の把握の仕方、優先順位の決め方について学ぶ ⑤訪問記録は、所定の書式に簡潔について学ぶ ⑤訪問記録は、所定の書式に簡潔に分かりやすくまとめ、翌日までに提出し指導者の助言・指導を受ける。 ⑥訪問で知り得た情報が外に公にいように留意する。(メモの廃
			(メモの廃棄、訪問記録の持ち出しなど) 《留意事項》 ・相手に不快を与えない態度、服装で行う。

# 2) 公衆衛生看護学実習 2

項目	ねらい	実習内容	実習方法
3 — 1 ) PDCA サ イクル	地域のあるべき姿 (ビジョン)を明確 にし、効果的な保健 事業を企画・立る過 実施、評価するもも を理解し、能力を養 さる能力を養 う。	(1)地区の健康課題から、地域 のあるべき姿を描く。 (2)あるべき姿から保健事業 としての目的を掲げる。 (3)目的を達成するための目標を掲げる。 (4)目標を達成するための具体的な保健事業を立案する。 (5)立案した保健事業を実施する。 (6)実施した保健事業について企画評価、実施評価、結果評価を行う。	①(1)(2)(3)(4)の過程について保健事業立案シートを記入する。 ②実習施設が行っている保健事業について(1)~(5)の過程を理解した上で、各保健事業を体験する。 ③実習で行った保健事業について、評価を行う。 ④(1)~(3)について、学内演習で学んだ地域の健康課題・活動計画を発表し、実習指導者と協議する過程を通じて目的・目標を決定する。 ⑤立案した保健事業のうち、実施可能性について、実習施設側と協議し、実施できる事業について実習する。(健康教育、家庭訪問等)
3-2)施策化の 理解	事業化に必要な予 算と根拠について	(1)現在行なっている事業の 予算、執行管理を学び、施	①予算編成の具体的仕組みを知る。 ②予算編成の具体的流れを知る。
2.L/JT	理解し、地域診断を	策化された事業について	③地域診断、実習を踏まえて新たな
	通じて把握した健	具体的に知る。	施策化を提案する。
	康課題や地域住民	(2)施策化のために統計や地	④保健事業や日常の保健福祉活動を
	の健康問題解決の	域診断や根拠を明確にす	通して、改善が必要な事業や新た
	ための一連の過程	ることの必要性を知る。	な課題解決のために提案した実践



項目	ねらい	実習内容	実習方法
	を学ぶ。	(3)実習終了後の学内演習に おいて、新たな施策化が提 案できる。	事業を学ぶ。 ⑤立案の際に必要な関係機関との協議・交渉、予算獲得の経過について実習施設から説明を受ける。 ⑥事業内容が、問題解決に必要な事業が具体的でわかりやすく関係者に理解できる内容となっていることを知る。 ⑦目的、背景(根拠)、事業予測成果(効果)、費用対効果が説明書に作成されていることを知る。事業化された予算執行管理について実習施設側から説明を受ける。
4家庭訪問	継続的な家庭訪問を行い、単独訪問ができる能力を身につける。	(1)対象者の解決すべき健康 課題、生活、家族関係、 課題、生活、家族関係、 課題、生活、記述の 選別、これまで情報を 過し、室間では 過し、室に 選問で を立て ので ので ので のが を変に のが をで のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが	①家庭訪問の実際 ②見学練問の実際 ②見学練問の事別の事別の事別の事別の事別の事別の事別の事別の事別の事別の事別の事別の事別の
5 住民の自己決 定への支援	地域の人々が自己 決定をするために 必要な情報提供や 支援に対して理解	<ul><li>(1)グループを通して、住民の 自己決定の課程を理解し、 支援の方法を学ぶ。</li><li>(2)個別事例を通して、住民の</li></ul>	①健康教育、自助グループ等の活動 を通じて、住民が自己決定をして いくプロセスを学ぶ。 ②家庭訪問、健康相談、事例検討会



項目	ねらい	実習内容	実習方法
8 関係機関との 連携	地域における関係 機関および関係職 種の活動を把握し、 さまざまな場情を 通しなまなな情報 の共有や共通の活	(1)関係機関のネットワーク 会議を見学し、ネットワー クが構築される過程を理 解する。 (2)家庭訪問事例などについ て、関係機関・関係職種へ	方法について、オリエンテーション、事業参加、およびカンファレンスなどに参加することにより学ぶ。 ⑦実習現場で学ぶ中で、保健師の果たしている役割を知る。 ①関係職種、関係機関の役割について理解する。 ②オリエンテーションにおいて、関係機関、関係職種との連携を学び、地域ケアシステム構築過程等の実際について理解する。
	動目的を見出すことにより、ネットワークが構築される 過程を理解する。	の連絡・情報交換を行う。	③医療・福祉・教育・地区組織などのネットワーク会議を見学することで、保健師の役割や関係機関の連携、ネットワークについて理解する。 ④日々の保健師活動の中で、関係機関・関係職種への連絡・情報交換を実施している場面を見学し、必要性について理解する。 ⑤必要時、指導者の助言を得ながら関係者に連絡する。
9組織化活動	グループでなけれてなからいできなからいできなからいできなからいできなからいできなからいできながらいできなが、当事、のではいがありますがあります。	<ul> <li>(1)地域組織や当事者グループの発達の過程を知る。</li> <li>(2)発達過程に応じた保健師の役割について理解する。</li> <li>(3)地域組織や当事者グループを支援する。</li> <li>(4)地域組織や当事者グループによる健康課題を解決する意義について理解する。</li> </ul>	①オリエンテーションにおいて、既存の地域と、ででは、ででは、ででは、でのというでは、できますが、はいるでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、で



項目	ねらい	実習内容	実習方法
10 健康危機管理の実際の理解	自然災害や人為災害などに民など住民へ被の災害を理解して、被の災害動ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	(1)実習場所における、過去の 災害などを通し、保健活動 の実際を学ぶ。 (2)予防保健活動および地域 防災コミュニティへの取 り組みを知る。	①学内演習として、クロスロード研修(災害時の保健活動の模擬体験)の実施。 ②オリエンテーション(保健所等)において、過去の健康危機の体験談と保健活動の実際について理解する。 ③オリエンテーションにおいて、健康危機管理ならびに防災計画などの実際を知る。 ④受け持ち地区内における防災コミュニティ、災害時要援護者支援計画について地域住民へのインタビューなどを通し実態を把握する。

# Ⅳ. 実習プログラム案

# 1 公衆衛生看護学実習 1

	曜日	午前	ねらい・備考	午後	ねらい・備考
	月	オリエンテーション		オリエンテーション	
1	火	家庭訪問計画指導・地区踏査	目標2・3	家庭訪問計画指導・地区踏査	目標2・3
週	水	学内演習		学内演習	
目	木	保健事業の施策化に関するオ	目標 1	保健事業の施策化に関するオ	目標 1
		リエンテーション		リエンテーション	
	金	地域診断発表・家庭訪問記録	目標2・3	地域診断発表·家庭訪問記録指	目標2・3
		指導		導	



# 2 公衆衛生看護学実習 2

	曜日	午前	ねらい・備考	午後	ねらい・備考
	月	地区組織・グループ活動見学	目標1・8	家庭訪問事例にかかる関係	目標 3 ・ 4
				機関連絡	
2	火	地域の健康課題・活動計画発	目標 1	地区組織・グループ活動メン	目標 5 ・ 7 ・
週		表、健康教育計画指導		バー訪問	8
目	水	学内演習			
	木	健康教育予演会	目標 5	健康相談見学·家庭訪問計画 指導	目標3・6
	金	中間カンファレンス		家庭訪問② (単独訪問)・記録	目標3
	月	家庭訪問記録指導	目標3・4	家庭訪問事例にかかる社会 資源見学	目標3・7
3 週	火	健康教育予演会	目標 5	地区踏査・地域住民へのイン タビュー等	目標 5
目	水	学内演習			
	木	事例検討会	目標 7	健康相談実施	目標4・6
	金	健康教育準備	目標 5	健康教育実施	目標 5
	月	健診実習	目標4・6	健康危機管理に関するオリ エンテーション・ 地域住民へのインタビュー	目標 9
4 週	火	地区組織・グループ活動支援	目標8	ネットワーク会議の見学イ ンタビュー等	目標7・8
目	水	学内演習			
	木	保健事業についての評価1)	目標 2 ・ 5	家庭訪問①(継続訪問)・記 録	目標3・4
	金	家庭訪問記録指導	目標3・4	最終カンファレンス	

- 1) 「保健事業についての評価」は実習した健康教育等が地域の健康課題の解決に向けて効果があったかなど、 地域診断に基づく各種保健事業における評価を行う。
- ※ 毎日カンファレンスを行い、学びの共有、保健師の役割についての確認、実習準備状況の確認や必要な学習 の進み具合について、指導者とディスカッションする。
- ※ 必要に応じて空いた時間には地域の健康課題に関する調査(訪問やインタビュー等)を行う他、健診等各種 保健事業を見学・実習する。
- ※ 事例検討会は継続訪問事例について行うことが望ましい。
- ※ 学内演習では、家庭訪問計画立案、健康教育企画、媒体作成、質的データの分析等を文献等の活用のもと行うこととする。



# <実習全般>

- (1) 教員の役割
  - ① 実習施設に毎日出向き、学生の学習状況の把握、評価を行う
  - ② 学生個々人の到達度を見極め、随時必要に応じた実習内容の調整を図る
  - ③ 学生個々人の実習の評価を行う

## (2) 実習指導者の役割

- ① 事前に学校の実習目的、実習目標、到達度などを確認し、効果的な実習内容や対象者の選 定を行えるよう準備する
- ② 施設の代表者は学生の受け入れ準備及び体制づくりを行う ・施設職員への周知、協力依頼、学生控え室など居場所の確保
- ③ カンファレンスの設定

# <実習項目別>

- 1 実習オリエンテーション
  - (1) 教員の役割
    - ① 実習地域の設定
    - ② 情報入手方法に関する指導
    - ③ 基本的な保健師の仕事の理解についての講義
      - ・法的根拠、ヘルスプロモーション
    - ④ 実習計画作成にかかる指導
  - (2) 実習指導者の役割
    - ① 実習施設のオリエンテーション
      - ・基本方針や年度目標、組織図、職員体制、所掌事務、施設
      - ・運営推進協議会などの関係団体、地域の関係機関・関係団体との関係性
      - ・予算のしくみ及び既存事業の予算の例示
    - ② 資料提供
    - ③ 実習計画作成にかかる調整、助言

#### 2 地域診断

- (1) 教員の役割
  - ① 保健衛生統計資料の入手方法、分析方法に関する指導
  - ② 地域の健康課題へのアセスメントに関する指導
- (2) 実習指導者の役割
  - ① 地域住民の質的データを入手する方法について助言し、場の設定を行う
  - ② 地域の健康課題を解決するために行われている対策とその評価について説明する
  - ③ 学生が事前に行った地域診断、見出された健康課題についての発表に対してディスカッションを行い、残された課題や解決方法の糸口を見出す



#### 3-1) PDCA サイクル

# (1) 教員の役割

- ① 地域の健康課題から、地域のあるべき姿を描き、保健事業を立案する過程に関する講義や 演習
- ② 事業評価に関する講義や演習

#### (2) 実習指導者の役割

① 立案された保健事業のうち実施可能性について助言し、場の提供を行う

# 3-2) 施策化の理解

- (1) 教員の役割
  - ① 予算編成の仕組みについて講義
  - ② 実習を踏まえた新たな施策化の提案に関する指導

# (2) 実習指導者の役割

- ① 改善が必要な事業や新たな課題解決のために提案した実践事業例について PDCA サイクルを踏まえて説明する
  - ·目的、背景(根拠)、事業予測成果(効果)、費用対効果、予算執行管理
- ② 立案の際に必要な関係機関との協議、交渉、予算獲得の経過について説明する

## 4 家庭訪問

## (1) 教員の役割

- ① 援助に必要な看護技術、コミュニケーション技術に関する演習・デモンストレーション、ロールプレイ
- ② 必要物品の準備、指導用資料の作成に関する指導
- ③ 家庭訪問対象者への受入承諾書の発行
- ④ 訪問計画書に対する指導
- ⑤ 訪問記録に関する指導
- ⑥ 事後カンファレンスにおける指導

#### (2) 実習指導者の役割

- ① 家庭訪問事例の選定
  - ・対象者の把握方法、優先順位の決め方に関する指導
  - ・事例に関する社会資源や過去の支援経過等、訪問計画立案に必要な情報提供
- ② 家庭訪問対象者への受入承諾を取る
- ③ 訪問計画書に対する助言
- ④ 学生を同伴し、保健師が行う家庭訪問の実際を見学させる
- ⑤ 必要に応じて学生の訪問に同伴する
- ⑥ カルテの取り扱いなど個人情報保護に関する指導
- (7) 家庭訪問の結果報告を受け、訪問記録への助言を行う
- ⑧ 学生の行った家庭訪問場面についての評価、指導
- ⑨ 事後カンファレンスにおける助言、指導



- (1) 教員の役割
  - ① グループ支援に関する講義、演習
  - ② 事例検討方法に関する講義、演習
  - ③ 事後カンファレンスにおける助言、指導
- (2) 実習指導者の役割
  - ① 健康教育、自助グループ等の活動場面への学生の参加にかかる調整
  - ② 必要に応じてメンバーへのインタビュー場面の設定
  - ③ 事後カンファレンスにおける助言、指導

#### 6 健康教育

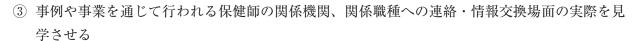
- (1) 教員の役割
  - ① 健康教育方法論に関する講義、演習
  - ② 健康教育企画案に関する指導
  - ③ 必要な媒体の選定、作成に関する指導
  - ④ 事後カンファレンスにおける助言、指導
- (2) 実習指導者の役割
  - ① 学生が見出した健康教育の課題の妥当性、実現可能性について調整する
  - ② 健康教育の実施にかかる調整
    - ・実施日、実施場所、対象、周知方法など
  - ③ 健康教育企画案に関する助言
  - ④ 予演会における指導
  - ⑤ 事後カンファレンスにおける助言、指導

## 7 各種保健事業の実際と地域保健活動の理解

- (1) 教員の役割
  - ① 各種保健事業で用いる看護技術、対象者の特徴に関する講義、演習
    - ・血圧測定、計測、乳幼児の発達チェック、主な相談事項等発達課題の学習
    - ・各種検査値の読み取りや結果の説明方法に関する学習
- (2) 実習指導者の役割
  - ① 各種保健事業の、目的、目標、評価に関するオリエンテーション
  - ② 各種保健事業の学生の参加にかかる調整
  - ③ 事業実施後のカンファレンス場面の設定

#### 8 関係機関との連携

- (1) 教員の役割
  - ① 関係職種、関係機関の役割に関する講義、見学
- (2) 実習指導者の役割
  - ① 関係職種、関係機関との連携、地域ケアシステムに関するオリエンテーション・地域ケアシステム構築過程及び過程に応じた保健師の役割
  - ② 医療・福祉・教育・地区組織などのネットワーク会議への学生の見学にかかる調整



④ 必要時、学生が行う関係者への連絡場面における助言、指導

#### 9 地区組織活動

- (1) 教員の役割
  - ① 地区組織や当事者グループの発達の経過についての講義、演習
  - ② 事後カンファレンスにおける助言、指導

## (2) 実習指導者の役割

- ① 既存の地区組織や当事者グループなどの概要と保健師の役割に関するオリエンテーション ・設立の過程、組織の発達
- ② 地区組織や当事者グループの活動場面の学生の見学にかかる調整 ・必要に応じてキーパーソン、メンバーへのインタビューの機会を設ける
- ③ 事後カンファレンスにおける助言、指導

#### 10 健康危機管理の実際の理解

- (1) 教員の役割
  - ① 災害時、感染症など健康危機管理に関する講義、演習・シミュレーション、クロスロード研修
- (2) 実習指導者の役割
  - ① 過去の健康危機の体験談、保健活動の実際に関するオリエンテーション
  - ② 健康危機管理ならびに防災計画などのマニュアルの提示
  - ③ 防災コミュニティ、災害時要援護者支援計画などについて学生の地域住民へのインタビューに かかる調整

# 資料IV

# 理想的な実習計画案

# 実習の前提

## 実習の前提

## 1. 養成したい保健師像

保健師が公衆衛生看護の現場で対応する健康課題は、健やかな妊娠、出産、子育ての支援から、 生活習慣病への対応、高齢者・障がい者の健康と生活への支援、メンタルヘルスなど多様であり、 地域で生活する人々のライフステージに応じた健康増進と疾病予防を

目的としている。さらに、近年は、ひきこもり、虐待、家庭内暴力、ホームレス、外国人の健康問題、災害や感染症などの健康危機管理等、複雑困難な健康課題が増加しているため、より一層高度な専門性が求められている。

また、保健師の活動は、様々な人口集団と個人・家族の健康な生活を保障するため、常に地域社会・集団・組織を視野に入れている。したがって、保健師が展開する専門技術は、対人支援のみならず、保健福祉事業の企画から実施・評価、組織化やシステム構築、調整、施策化など多岐にわたり、管理的な側面を持っている。

これらの職務を遂行できる保健師は、高度専門職業人として位置づけることができ、ここで示す 実習プログラムは、高度専門職業人としての保健師養成を目的とする。高度専門職業人とは、理論 に基づいた実践を志向し、自立して状況の判断と行動ができる人材である。

# 2. 前提

看護師教育課程では、地域看護に関しては2~3単位の講義と1単位(1週間程度)の実習を終了している。その内容は、個人を対象とする健康増進や予防について、保健指導に関する講義を受講している。地域のアセスメントは、地区視診レベルで理解しており、在宅看護では家族看護や家庭訪問について学んでいる。

地域看護の実習として、家庭訪問や健康教育、健康相談などを見学して体験している。

# I. 実習目的

#### 1. 実習目的

実習は、実践者としての養成に必須の教育課程であり、公衆衛生看護の理念に基づいた理論と実践を体験的に学ぶ。公衆衛生看護の理念とは、社会的公正の実現を人々の健康と生活に着目し、誰もが健康で文化的な生活を送ることを保障することである。そのための、保健師としての考え方と職業人としてのアイデンティティを持って、公衆衛生看護の専門的技術を、実践をとおして習得する。

## 2. 教育課程と実習の位置づけ

高度専門職業人としての保健師養成は、大学院修士課程の看護実践コースで行う。看護実践コースとは、修士論文の義務付がないコースであり、実践者養成に主眼を置いた教育課程である。看護実践コースにおいて、40単位の保健師教育専門課程を設置する。実践に関連する科目としては、



40 単位中に、10 単位の公衆衛生看護学実習と6 単位の公衆衛生看護学課題研究が含まれる。

実習は段階を追って4つの実習を設定している (詳細は後述)。カリキュラム全体の中での実習の位置づけは、専門的実践能力の育成および社会に貢献できる職業人としての基盤形成である。

また、公衆衛生看護学課題研究は、実習での体験をもとに、研究的な取り組みを行う。課題研究の進め方は、ひとつは、ある健康課題に焦点を当て、地域の実態を研究手法を用いて明らかにし、ニーズアセスメントから事業の提案までを行うこと、もうひとつは、着目した事業に参加して計画的意図的な事業評価を行うこと、などが想定される。これらの教育課程は、施策化能力の育成に必須の過程である。

## 3. 実習でのコアとなる能力の到達度

コア能力	対人3	支援 事例の	家庭	訪問		人支i 団(健		(育)		或活動 セスメ		去		或活動 哉支拮	助方法 爰	ţ	施第		画∙評	価	研究	笔		
到達レベル	1	2	З	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
課題研究																								
公看実習Ⅳ																								
公看実習Ⅲ																								
公看実習Ⅱ																								
公看実習 I																								
看護師課程																								

- 1:知識としてわかる、2:体験してわかる、3:指導下でできる、4:ひとりでできる
- ■目標達成、■学習課題とするが、到達目標までのレベルを期待しない、□実習課題としない

## 4.2年間の教育の流れとその中での実習

		学内授業	実習·研究科目	実習のねらい
	前期1	公衆衛生看護学原論 保健医療福祉行政論 健康生活支援技術論 疫学		
1年	前期2	地域健康アセスメント論 保健事業計画・評価論 地域健康組織活動論 健康危機管理論 保健統計学演習	公衆衛生看護学 実習 1	・保健所管内の地域特性や保健所の機能や業務を理解する。 ・市町村で行われている保健活動の概略や地区活動をイメージする。 ・地区活動の対象となる地域で生活している人々を知り保健指導のあり方を学ぶ。 ・地域診断に必要な情報を収集する。
	後期1	社会的要支援者への看護 論 学校保健看護論 産業看護論	公衆衛生看護学 実習2 公衆衛生看護学	・地域診断を深め、実習体験もあわせながら解決を必要とする健康問題の分析を行う。 ・健康問題解決のための地区活動の方法論、技術を理解し、実践する。
	後期2	公衆衛生看護学研究方法 論 公衆衛生看護管理論	実習3	・公衆衛生看護を展開する産業保健活動、学校 保健活動の健康問題に対する支援活動実際を 学び、地区活動での連携を理解する。
2 年	前期1	地域環境論	公衆衛生看護学 実習4 (公衆衛生看護 課題研究)	・保健所における専門的、技術的、広域的機能を生かした地域ケアシステムづくり・コーディネーターの役割を理解する。 ・市町村における住民との協働活動や連携調整会議から地域ケアシステムづくり・コーディネーターの役割を理解する。
	前期2	健康政策論		
	後期1		₩	
	後期2			

# Ⅱ. 実習目標

## A. 公衆衛生看護学実習 I (公衆衛生看護基礎実習) 2 単位

- 1. 地域保健における健康管理体系を理解することができる。
- 2. 地域の概要をアセスメントし、保健師の視点で地域をとらえることができる。
- 3. 公衆衛生看護活動における支援関係の構築について説明できる。
- 4. 地域の保健福祉機関および関連機関を理解し、保健所および保健センターの機能を説明できる。
- 5. 公衆衛生看護の理念と目的を、活動の実際を通して述べることができる。

## B. 公衆衛生看護学実習 II (地域保健活動実習) 4 単位

- 1. 地域のアセスメントから、事業の企画立案、実施、評価までの一連の過程を指導のもとで実施できる。
- 2. 地域で生活する個人・家族に対して支援を計画し、訪問や相談などの方法を用いて実施できる。
- 3. 同じ課題を持つ集団への支援を実施できる。
- 4. 地域の組織と協働して活動し、ヘルスプロモーション活動のあり方を説明できる。
- 5. 健康危機管理のための予防から危機対応までの過程を、実践の場で理解する。
- 6. 主体的に学習し、判断力、行動力を培う。

## C. 公衆衛生看護学実習Ⅲ (産業・学校保健実習) 2単位

- 1. 事業場ならびに学校における健康管理体制と管理活動の実際について説明できる。
- 2. 事業場ならびに学校における対象者の健康課題を把握し、その対策について説明できる。
- 3. 事業場ならびに学校における看護職の活動の実際と役割・機能について説明できる。

## D. 公衆衛生看護学実習 IV (地域システム管理実習) 2 単位

- 1. コーディネーターとしての保健師の立場から、関係機関との連携や調整のあり方を説明できる。
- 2. 自主組織の構築、ネットワークづくりについて説明できる。
- 3. 保健福祉計画の策定、地域のニーズの施策化の過程について説明できる。
- 4. 公衆衛生看護の人材育成、情報管理、業務管理について説明できる。

#### E. 公衆衛生看護特定課題研究6単位

- 1. 地域の実態に関心を持ち、保健師として課題探索を行うことができる。
- 2. 取り上げた課題に対し、論理的科学的方法を用いて、結果を明らかにすることができる。
- 3. 結果を学会や論文として公表することができる。
- 4. 職業人として自己研鑽と課題探求の姿勢を養う。
- \* 方法

公衆衛生看護学実習 II で重点アセスメントを行った課題について、さらに詳細にデータを示し、実践の改善や今後の方向性について提言を行う。



# Ⅲ. 実習内容

# 1. 実習内容と方法

# 1) 公衆衛生看護学実習 I

項目	ねらい	実習内容	実習方法
公衆衛生看	1. 地域保健におけ	1)保健所および市町村に	①実習施設の組織・機構・役割について指導者から
護基礎実習	る健康管理体系	おける地域保健活動と	説明を受け、保健所および市町村の役割と連携に
	を理解することが	事業体系に関するオリ	ついて理解する。
	できる	エンテーション	②各種事業の目的と根拠法令等について理解する。
		2)地域保健活動における	③各職種と保健師の役割の違いや連携について指導
		保健師の役割に関する オリエンテーション	者から説明を受ける。
		3)各種事業の見学	④母子・成人・高齢者など分野ごとの事業体系を理解 する。
		3/竹悝事未り允子	
	2.地域の概要をアセ	1)地域アセスメント	①実習保健所や市町村管内の刊行物や公開データ
	スメントし、保健師	·保健·医療·福祉	など既存資料を収集し、地域の概況を把握する。
	の視点で地域をと	·人口·文化·教育	②社会資源に関する情報を収集し、活用のされ方や
	らえることができる	·自然·生活環境	課題についてアセスメントする。
		•交通•労働•情報	③地区踏査により住民の生活実態に触れ、気候風土
		•行政•社会資源	や文化、住民活動、生活環境等を把握する。
		2)地区踏査	④地区担当保健師または指導者とともに保健福祉機
		3)関係機関への訪問	関やまちづくり関係機関等を訪問し、地域の実情について聞き取る。
			⑤事業見学の機会を活用して住民に直接インタビュ
			ーし、住民活動の歴史や経過、健康に関する意識 などを把握する。
			⑥既存データと住民の生活実態を結びつけて分析
			し、地域の健康課題を見出す。
			⑦学生カンファレンスの場で、地域アセスメントの結果
			と重点的にアセスメントを継続したい事項を述べ、
			指導者の助言を受ける。
	3.公衆衛生看護活	1)公衆衛生看護活動の年	①実習施設における公衆衛生看護活動の年間計画
	動における支援	間計画に関するオリエ	について説明を受け理解する。
	関係の構築につ	ンテーション	②支援対象者をどのように把握し、どのような手法で
	いて説明できる	2)支援対象者の把握方法 や支援の手法に関する	支援しているか説明を受け理解する。 ③個人情報の管理や運用、組織内の共有方法につ
		オリエンテーション	の個人情報の管理や連用、組織的の共有力伝にう いて説明を受け遵守する。
		3)情報管理に関するオリ	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
		エンテーション	
		4)家庭訪問の見学	①分野の異なる事例(2事例)の訪問に同行する。
		・対象者の把握方法	②訪問前に事例の把握方法や訪問目的、ケース概要
		•訪問目的	に関する説明を受け、計画を立案する。(疾病の理
		•保健指導内容	解、発達段階などの事前学習も行う)
		・訪問後の活動	③保健師に同行して家庭訪問の実際と保健指導の内
			容を学ぶ。
			④家庭訪問終了後に、次回の支援計画がどのように
			なっているか、記録作成や関係機関との連絡調整
		いはま数本の日半	をどのように行っているか見学する。
		5)健康教育の見学・実施までの経緯	①実施経緯や調整内容について説明を受け、事業の 位置づけを理解する。
		・対象と目的	位直づけを理解する。   ②対象、テーマ、目的、場の設定方法、当日の流れ等
		<ul><li>・場の設定</li></ul>	について説明を受け事前学習を行う。(対象の属性
		<ul><li>・指導の実際</li></ul>	に関する基礎知識、テーマに関する基礎知識など)
		4H 14 - N 4N41	③事業の実際場面を見学し、保健師の指導方法を学
			ぶとともに、対象者の反応も観察して健康教育の意
			義を理解する。



項目	ねらい	実習内容	実習方法
		6)健康相談の見学 ・対象と目的 ・場の設定 ・相談の実際	①健康相談の種類、事業開始の経緯や目的、対象者の把握や周知方法などについて説明を受け、事業の位置づけを理解する。 ②相談者の属性(母子・成人・高齢者等)について、過去の相談記録やアセスメントデータにより、健康課題を事前学習する。 ③相談者の立場になって、場の設定や配慮している点について観察する。 ④相談場面を見学し、相談者のニーズや助言指導の内容を理解する。 ⑤相談のきっかけや満足度などについて、相談者に直接インタビューする。
		7)健康診査の見学 ・法的根拠と目的 ・年間計画 ・対象者の把握 ・周知方法 ・健診の流れ ・健診スタッフ ・健診の環境、準備 ・配布資料 ・予診、保健指導 ・未受診者対策 ・事後フォロー	①健康診査の種類と目的、根拠法令、対象者の特性 (月齢ごとの成長発達など)、観察点や主な指導内容 について事前学習する。 ②健康診査の年間計画、対象者の把握方法、周知方法、受診率、健診内容、従事スタッフについて説明を受け、流れにそって見学する。 ③スクリーニングと支援の両方の側面から、各職種が果たしている役割や機能を観察し理解する。 ④予診は見学後に市民から直接必要事項を聞き取る体験をする。 ⑤保健指導の場面を見学し、主な相談指導内容を理解する。 ⑥受診者の待ち時間を利用し、利用のしやすさや満足度などをインタビューする。 ⑦スタッフカンファレンスに参加し、継続支援者の情報共有やフォローの方法について理解する。 ⑧未受診者のフォローや要支援者への継続支援方法について説明を受け理解する。
		8)地区組織活動の見学 ・活動の種類 ・支援経過 ・実際の活動	①地域住民が主体となって活動する組織の種類と目的、発生経緯や支援内容などについて説明を受ける。 ②見学する活動の構成員について事前学習する。 ③保健師の果たす役割と活動の実際について見学する。 ④地区組織活動と他の事業との関連を理解する。
	4.地域の保健福祉 機関および関連 機関を理解し、保 健所および保健 センターの機能を 説明できる	1)地区踏査 2)関係機関への訪問 3)連絡調整会議の見学	①地区担当保健師または指導者とともに保健福祉機関や関係機関・事業所を訪問し、相互の役割と連携方法について話を聞く。 ②個別ケースの連携調整や事業の企画運営にかかわる連携の場面を見学し、保健所および保健センターの役割を理解する。 ③対象者ごとに関係する主な職種・機関とその役割について整理し理解する。
	5. 公衆衛生看護の 理念と目的を、活動の実際を通して 述べることができる	<ul><li>1)学生カンファレンス</li><li>2)実習記録</li></ul>	①指導者からのオリエンテーションや見学により理解した公衆衛生看護の理念と目的について、学生カンファレンスで述べる。 ②手法ごとの公衆衛生看護の実際とその連動性について、実習記録にまとめる。



# 2) 公衆衛生看護学実習Ⅱ

項目	ねらい	実習内容	実習方法
地域保健活動実習	<b>ねらい</b> 1.地域のアセスメントから、事業の企画立案、実施、評価までの一連の過程を指導のもとに実施できる。	実習内容  1)重点アセスメント 2)重点地区踏査 3)地域診断により健康課題を明らかにする 4)健康課題に対する住民の意識、住民活動の実態を知る 5)既存の行政計画や地域の主要課題について把握し、自らの地域診断と比較検討する 6)健康課題に優先順位をつける 7)健康課題の解決に向けて支援計画を立案する。 ・対象と手法の選択・実践計画 ・評価方法と指標	①継続的な重点アセスメントと地区踏査を行い、健康課題についてカンファレンスで発表し、指導者の助言を受ける。 ②保健医療計画、保健福祉計画、健康づくり計画、まちづくり計画、首長公約などの情報を収集し、管内の主要課題を把握する。 ③過去のデータや他都市との比較、先行事例をモデルにして、健康課題の将来予測を立てる。 ④社会資源の活用のされ方や利便性、代替資源や選択肢について検証する。 ⑤既存資料の考察や事業への参加率等により、健康課題に関する住民の認識レベルを把握する。 ⑥健康課題の緊急性、重大性、対象の範囲、社会的影響等を分析し、優先度を評価する。 ⑦既存事業との整合性を考慮しながら、健康課題の解決に有効な支援方法を検討する。 ⑧企画する事業の目的と費用対効果、あるいは実施しなかった場合の社会的影響を明らかにする。 ⑨支援の手法・実施時期・場所・内容・従事者・経費等について計画し、指導者の助言を受ける。 ⑩新たな事業が行政主導か住民主体か明確にし、協働できる人材の調整を行う。 ⑪評価方法と時期、評価指標について計画し、指導者の助言を受ける。
	2.地域で生活する個 人・家族に対して 支援を計画し、訪 問 決をを 施できる	1)家庭訪問の実施 ・対象者の把握 ・優先順世の決定 ・訪問予約 ・交悪物品の単備 ・ロー問事をのでは ・がは、のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	働できる人材の調整を行う。 ⑪評価方法と時期、評価指標について計画し、指導
		2)健康相談・健康診査に おける個別相談の実践 ・場の設定 ・ニーズの把握	<ul><li>⑩計画に基づき継続訪問を行う。</li><li>①健康相談・健康診査の場の設定から体験する。</li><li>②対象ごとの主な相談事項と保健指導について事前 学習する。</li><li>③指導者の助言を受けながら、予診で対象者のニー</li></ul>



項目	ねらい	実習内容	実習方法
		<ul><li>・保健指導</li><li>・事後フォロー</li></ul>	ズを把握する。 ④指導者の助言を受けながら保健指導を実践する。 ⑤相談終了時には継続支援の必要性を判断して対象者との調整を行う。(健康相談の継続か他の手法か) ⑥家庭訪問など他の手法も考慮し、支援計画を立案する。 ⑦指導者に報告し助言を受ける。 ⑧継続支援を実践する。
	3.同じ健康課題を持つ集団への支援を実践できる	1)小集団指導 ・意義、効果 ・グループ化 ・指導計画と目標 ・評価 2)地区組織活動の活用 3)社会資源の活用	①健康課題と対象によって、個別支援以外のアプローチの有効性について学ぶ。 ②実習施設のグループ支援の実態を把握し、支援経過を理解する。 (育児サークル、生活習慣病対策、介護予防事業、患者会、家族会など) ③新たに把握した対象者のグループ化を計画し、目的や指導方法、評価等について指導者の助言を受ける。 ④計画にそって実践し、達成度を評価する。 ⑤グループ化から育成支援、自主組織化まで到達した集団があれば、その活動状況と保健師の支援経過を理解する。 ⑥同じ健康課題の解決に向けて、すでに活動している地区組織や社会資源があれば、その活用方法や橋渡しの支援を行う。
		2)健康教育の実施 ・対象とテーマの選定 ・日時、場の設定 ・周知方法の決定 ・媒体の選定、作成 ・指導案の作成 ・リハーサル ・会場設営、準備 ・実施 ・評価	①過去の健康教育の実績を知る。 ②アセスメントによる健康課題をと目的に応じて、対象とテーマを選定する。 ③指導者の助言を受けながら、日時と会場を決定する。 ④対象者への周知媒体を作成する。(ポスター・チラシ) ⑤住民への周知にあたっては、関係組織や団体に了解を得るなど、必要な手順について指導を受けながら実施する。 ⑥実施後の効果判定方法について検討し、必要に応じてアンケートを作成する。 ⑦教育媒体、指導案、アンケート内容について、指導者から助言を受ける。 ⑧リハーサルを実施し、教員・指導者から指導を受ける。 ⑨当日、会場設営・準備を経て、指導案のとおり実施する。 ⑩アンケート、対象者の反応、言動などにより、実施内容に関する自己評価を行う。 ⑪カンファレンスにより実施内容を振り返り、指導者等から助言指導を受ける。
	4.地域の組織と協働 して活動し、ヘル スプロモーション 活動のあり方を説 明できる	1)地区組織との協働2)地域会議への参加	①健康課題に関する住民との情報共有、解決に向けた動機付け、実践への支援、住民主体の健康づくり活動について、自身の考え方を整理する。 ②地域のキーパーソンとなる人や集団、組織を選定して働きかけ、地域に根付いた活動について理解する。(老人クラブ・町内会・保健推進員・母子推進員・



項目	ねらい	実習内容	実習方法
			民生児童委員・自主活動グループ等) ③実際に地区組織活動や地域会議に参加し、住民と のコミュニケーションを図る。
	5.健康危機管理の ための予防から危 機対応までの過 程を、実践の場で 理解する	1)感染症、DV、虐待などの支援体系に関するオリエンテーション     2)対象者の把握から支援までの体制に関するオリエンテーション     3)関係組織との連携場面の見学     4)シミュレーション・集団感染・災害対策     ・災害対策	①保健医療計画、地域保健計画等に健康危機管理がどのように位置づけられているかアセスメントする。 ②実習施設の危機管理体制、根拠法令と事業体系について説明を受け理解する。 ③過去のデータを分析し、地域の実情を把握する。 ④発生予防に関する住民への啓発方法とその周知度を把握する。 ⑤相談・通報窓口、初動体制、支援方法について説明を受け、資料の閲覧や可能な場面は見学する。 ⑥訪問、調査、情報管理、対象者の権利擁護、個人情報の保護など、保健師を含むスタッフの動きを見学する。 ⑦関係機関との連絡、役割分担、連係調整の場面の見学または説明を受ける。 ⑧集団感染発生時または災害発生時の対策について自らシミュレーションし、保健師として果たす役割を明確にする。
	6.主体的に学習し、 判断力、行動力を 培う	1)専門職としての責任感 2)担当地域に責任を持つ 3)自己研鑽と情報網 4)職業モデル	①実習項目について必ず事前学習し、予備知識を十分備えて見学・実践する。 ②実習施設の担当地区に責任をもち、担当地域の情報に関心を持ち続ける。 ③ 専門性を維持するための研修や情報網を確保する。 ④先輩保健師や他職種とのコミュニケーションを持ち、判断力や行動力を学ぶ ⑤専門職業人としてのモデルを見出す。

# 3)公衆衛生看護学実習Ⅲ

項目	ねらい	実習内容	実習方法
産業・学校	1.事業場ならびに学	1)事業場における健康管	①業種、従業員数、性別年代ごとの有病率、休職者
保健実習	校における健康	理体制に関するオリエ	数、健康診断結果など、企業内の健康状態につい
	管理体制と管理	ンテーション	てアセスメントする。
	活動の実際につ	2)健康管理活動の見学	②同年代の一般市民と比較して、企業特有の健康課
	いて説明できる。		題がないか評価する。
			③健康課題による企業損失について説明を受け理解
			する。
			④健康管理対策、経費、企業方針等について説明を
			受け理解する。
			⑤具体的な健康管理活動を見学する。
		1)学校における健康管理	①学校保健法と健康管理体系について指導者から説
		体制に関するオリエン	明を受け理解する。
		テーション	②実習校の健康管理方法と生徒の実態について説明
		2)学校における健康管理	を受ける。
		活動の見学	③保健室における活動について説明を受け理解し、
			看護技術などを一部実践する。
			④啓発物の閲覧、健康管理活動の実際場面を見学す
			る。
			⑤医師会や地域保健部門との連携について説明を受
			ける。(健診体制の確保・思春期教育・喫煙防止・薬



項目	ねらい	実習内容	実習方法
- 現日	ねらい	美省内谷	
			物被害など)
	2.事業場ならびに学	1)事業場における健康課	①従業員の健康状態と就業環境について情報収集
	校における対象	題と環境管理に関する	し、健康課題を把握する。
	者の健康課題を	スメント	②従業員特有の健康課題と地域住民に共通する健康
	把握し、その対策	2)健康相談・健康診断の	課題を把握する。
	について説明で	見学	③相談や健診の場面を見学し、事業場における支援
	きる	3)地域保健との連携の実	の実際と事後フォローについて理解する。
		態について把握する。	④健康課題の解決に向けて、事業場として取り組んで
		4)健康課題への対策に関	いることと、地域と連携して取り組んでいることを把
		する考察	握する。
			⑤健康課題の解決に向けて対策が不十分な点とその
			理由について調べる。
		1)学校における健康課題	①児童生徒の健康状態と課題について情報収集し、
		のアセスメント	地域全体の実情と照らし合わせる。
		2)学校内の環境管理の実	②学校内の健康課題、地域全体における同年代の健
		態把握	康課題について把握する。
		3)健康相談・健康診断の	③学校内の環境管理や健康管理に関する事業の見
		見学またはオリエンテ	学、または健康診断記録を閲覧する。
		ーション	④看護や処置の実際場面を見学し、一部体験する。
		4)看護の実際を見学また	⑤健康課題の解決に向けて、地域および学校独自で
		は一部体験	取り組んでいることを把握する。
		5)健康課題への対策に関	⑥健康課題の解決に向けて、取り組みが不十分な点
		する考察	とその必要性について調べる。
	3. 事業場ならびに学	1)事業場における看護職	①従業員および家族に対する個別支援のほか、組織
	校における看護職	の役割に関するオリエ	としての健康管理目標について説明を受ける。
	の活動の実際と役	ンテーション	②従業員の健康課題と企業利益の関係、健康管理に
	割・機能について	2)地域・職域連携への参	よるコストパフォーマンスについて看護職がどのよう
	説明できる	画	に提言しているか把握する。
			③地域との連携会議、関係組織との連携場面を見学
			する。
		1)学校における看護職の	①児童生徒への直接支援と保護者及び教員に対する
		役割に関するオリエン	啓発、指導など、看護職が果たす役割について説
		テーション	明を受け理解する。
		2)学校保健委員会の活動	②学校保健委員会の活動について説明を受け理解
		の理解	する。可能であれば見学する。

# 4) 公衆衛生看護学実習Ⅳ

項目	ねらい	実習内容	実習方法
地域システム	1.自主組織の構築、	1)社会資源の開発	①住民サービスの向上と円滑な運営のために、不足
管理実習	ネットワークづくり	2)自主活動支援	している社会資源を明らかにする。
	について説明で	3)共通の課題をもつ組織	②社会資源になり得る活動(関係組織・民間・住民等)
	きる	のネットワークづくり	への支援と活用方法について考察する。
			③住民の自主活動を支援し、他の住民への波及効果
			を促進する過程を明らかにする。
		④健康課題に応じた、住民・行政・関	
		ットワークの実態を把握し、円滑に機能す	
			課題や対策について考察する。
			⑤関係機関の連携によって円滑な支援ができた事例
			をフィードバックし、相互の役割意識を強化する。
			⑥共通の健康課題をもつ組織の活動支援からネットワ
			ークづくりまでの過程について説明を受け、可能な
			場合は見学する。



項目	ねらい	実習内容	実習方法
	2.コーディネーター としての保健師の 立場から、関係機 関との連携や調 整のあり方を説明 できる	1)関係機関の役割・機能 の整理 2)チームアプローチの必 要性の理解 3)コーディネーターとして の役割	①保健所、市町村、事業場、学校等における実習を通じて、関係機関の役割を熟知する。 ②健康課題に応じて、各機関が機能するための連携方法について明確にする。 ③個人や集団、地域をチームで支援するためのコーディネーター役として自覚する。 ④保健師がコーディネーター役となる会議に参加する。(ケース会議、個別処遇検討会議、要保護児童対策地域協議会、地域ケア会議、医療連携会議、地域・職域連携推進協議会、精神保健福祉連絡協議会等)
	3.保健福祉計画の 策定、地域のニー ズの施策化の過程について説明 できる	1)保健福祉計画の作成過程の理解 2)地域のニーズの施策化の理解	①保健所の機能と広域的な施策について理解し、行政計画の策定にかかる一連の過程について指導者から説明を受け理解する。 ②市長村の機能と住民に密着した施策について理解し、行政計画の策定にかかる一連の過程について指導者から説明を受け理解する。 ③ 実習施設の計画と事業体系の関連について理解し、新たな施策の策定に至った過程ついて学ぶ。 ④計画の評価指標に基づいて事業の実績を分析し、単年・経年の評価を行う。 ⑤類似する事業、見直しが必要な事業、終了してもよい事業、民間移譲が可能な事業を評価し提言する。 ⑥新たに施策化したい事項を抽出し、対象、目的、手法、予算、継続性、公平性、評価方法などを考慮して企画し、提言する。
	4.公衆衛生看護の 人材育成、情報 管理、業務管理 について説明で きる	1)人材育成の必要性の理解 2)情報管理、業務管理の 理解	①専門職業人として社会貢献できる基盤づくり、地域保健福祉活動の質の担保のため、人材育成が必要であることを理解する。 ②実習施設における人材育成方針、手法について学ぶ。 ③他都市の実践例、文献等で、専門職の人材育成方法と課題について学ぶ。 ④自らが受けた指導も含め、人材育成の課題や利点について考察する。 ⑤実習施設における看護管理、情報管理、組織としての業務管理について理解する。 ⑥組織内における保健師の配置、管理者の職種、業務内容等による人材育成の違いについて考察する。



# 2. 実習における臨地指導者と教員の役割

# 1) 公衆衛生看護学実習 I

時期	教 員	実 習 指 導 者
実習前	<ul> <li>大学のカリキュラム進行状況と各実習の位置づけ、目的、目標の説明</li> <li>公衆衛生看護学実習1の目標の共有化</li> <li>実習指導者と実習期間中の事業予定と学生参加の有無を確認し、参加事業についてねらいの共有化</li> <li>実習計画作成と教員の巡回指導日の決定教員と指導者の役割分担の確認教員の来所日の予定</li> <li>実習施設の概要や事前学習の内容について学生に説明する。</li> </ul>	<ul> <li>・ 実習期間中の事業予定表の準備</li> <li>・ 実習計画書作成</li> <li>・ 実習のねらいを共有し、学生指導につなげる。</li> <li>・ 地域アセスメント資料の準備</li> <li>・ 家庭訪問事例の選定</li> </ul>
実習中	・ 実習指導者と相談しながら学生の学習指導にあたる。参加事業、カンファレンス時の学習到達状況を確認し、理解が深められるようにする。	<ul> <li>地域アセスメントについては、保健師が行っている地区活動からのアセスメントの内容もいれ、説明する。</li> <li>学生の日々の学びをねらいにあわせて確認し、場合によっては、実習計画内容の調整を行う。</li> <li>その日の疑問が解決できるようカンファレンスを細やかに企画する。</li> <li>実習中、学生の学習上の問題が発生した場合には、教員と相談し配慮する。</li> </ul>
実習後	<ul><li>実習終了後、実習中の課題や学びを整理させ、公衆衛生看護実習IIにつなげる。</li><li>・実習指導者と学生の課題を共有する。</li></ul>	次期実習に向けた学生の課題を教員と共有し、指導に反映する。

# 2) 公衆衛生看護学実習Ⅱ

	2) 公水间工有限于关目 11				
時期	教 員	実 習 指 導 者			
実習前	<ul><li>実習指導者と実習2のねらいを共有</li><li>学生の実習1の課題や実習2に向けた学習 準備状況の確認</li><li>重点アセスメントができるよう、実習1との関連で実習計画案を考えさせ、主体的学習とする。</li></ul>	<ul><li>教員と実習2のねらいを共有</li><li>学生に実習期間中の事業予定を提示する。それらを基に、学生は、深めたい健康問題が探れるような実習計画案を学生が作成するので、アドバイスする。</li></ul>			
実習中	<ul> <li>実習指導者と相談しながら学生の学習指導にあたる。参加事業、カンファレンス時の学習到達状況を確認し、理解が深められるようにする。</li> <li>学生の健康教育・健康相談の場などをとおして学生の学習発展の度合いを確認し、形成評価に役立てる。また、学生の成長を伝える機会とする。</li> <li>学生が主体的学習ができるように、取り組む姿勢を確認する。</li> </ul>	<ul> <li>地域アセスメントについては、地域の資料をやみくもに当たるのではなく、目的をもって情報を収集するよう助言する。</li> <li>単独訪問が入るので、計画立案評価を行えるようにカンファレンスを入れる。</li> <li>健康教育のリハーサル等時間的配慮をし、自信をもって臨めるようにする。</li> <li>地区組織の代表者等と連絡を取るときは、アセスメントで得た課題と連携させながら聞き取りができるよう確認し、学生が主体的に取り組むように連絡を取らせる。</li> <li>実習中、学生の学習上の問題が発生した場合には、教員と相談し配慮する。</li> </ul>			
実習後	<ul><li>実習終了後、実習中の課題や学びを整理させ、公衆衛生看護実習IVにつなげる。</li><li>・実習指導者と学生の課題を共有する。</li></ul>	次期実習に向けた学生の課題を教員と共有し、指導に反映する。			



# 3)公衆衛生看護学実習Ⅲ

時期	教 員	実 習 指 導 者
実習前	<ul> <li>実習指導者と実習3のねらいを共有</li> <li>実習施設の概要について説明し、学生の実習3に向けた学習準備状況の確認</li> <li>実習期間中学生が参加できる実習内容について実習指導者に確認し、内容の狙いを確認する。と共有し、重点アセスメントができるよう、実習1との関連で実習計画案を考えさせ、主体的学習とする。</li> </ul>	・ 教員と実習3のねらいを共有 教員に実習期間中の事業予定を提示し、学生の参加 できる実習内容を確認し、実習計画書を作成する。
実習中	<ul> <li>実習指導者と相談しながら学生の学習指導にあたる。実習日誌、カンファレンスにて学生の疑問点、学びを確認する。</li> <li>学生は、説明や見学が主になるので、ともすると主体的な学習でなくなりがちなので、健康課題について担当地域と関連させて評価させる。</li> </ul>	<ul> <li>学校保健、産業保健の活動特徴、健康課題が理解できるように説明する。</li> <li>地域と連携している活動があれば、その活動の成り立つきっかけとなった保健師の働きから説明する。</li> <li>実習日誌、カンファレンスにて学生の学びを確認する。</li> <li>実習中、学生の学習上の問題が発生した場合には、教員と相談し配慮する。</li> </ul>
実習後	・ 実習終了後、実習中の課題や学びを整理させ、公衆衛生看護実習IVにつなげる。	学生の実習の学びを確認する。
	・・実習指導者に学生の学びを報告する。	

# 4) 公衆衛生看護学実習Ⅳ

-1.11=	n4.40 4/ D			
時期	教 員	実習指導者		
実習前	<ul><li>実習指導者と実習4のねらいを共有</li><li>学生の実習2の課題や実習4向けた学習準備状況の確認</li><li>実習2との関連で実習計画案を考えさせ、主体的学習とする。</li></ul>	<ul><li>教員と実習4のねらいを共有</li><li>学生に実習期間中の地域システム管理実習としての事業予定を提示する。それらを基に、実習計画案を学生が作成するので、アドバイスする。</li></ul>		
実習中	<ul> <li>実習指導者と相談しながら学生の学習指導にあたる。参加事業、カンファレンス時の学習到達状況を確認し、理解が深められるようにする。</li> <li>学生の担当地域の健康問題と関連させながら地域システムのあり方を考えさせる。</li> <li>地域システム管理実習をとおして、担当地域の健康問題に対して、事業評価をし、政策提言していくための理解ができているかカンファレンスで確認する。</li> <li>実践部分は少ない実習なので、参加するだけの実習にならないように、ねらいの確認を十分にする。</li> <li>学生が主体的学習ができるように、取り組む姿勢を確認する。</li> </ul>	<ul> <li>保健師の担当地域の健康課題と自主組織の構築やネットワーク作りなどねらいを具体的事例に基づき説明する。</li> <li>会議の参加は、会議の目的趣旨を説明し、参加させる。</li> <li>地区組織の代表者等と連絡を取るときは、担当地域の健康課題と関連させながら聞き取りをさせる。</li> <li>保健福祉計画に関連する事業評価の会議などには積極的に参加させる。</li> <li>カンファレンスにて、学生の担当地域の健康課題の分析状況、それに関連した実践活動・評価の過程の進度状況を確認し、アドバイスする。</li> <li>政策提言ができるための健康管理体制の理解が十分できているか確認する。</li> <li>実習中、学生の学習上の問題が発生した場合には、教員と相談し配慮する。</li> </ul>		
実習後	・ 実習終了後、実習中の課題や学びを整理させ、公衆衛生看護課題研究につなげる。 ・・実習指導者と学生の学びを共有し、実習の構成、実習指導のあり方について検討する。	学生の学びや実習指導のあり方についてを教員と共有し、指導に反映する。		



# 3. 実習プログラム例

# 1) 公衆衛生看護学実習 I

\*実習期間は2週間2単位とする。(保健所3日間、市町村6日間とし、帰校日は週1回とする) \*中間及び総合カンファレンスは保健所、市町村双方の指導者が出席する。

曜日	午前	ねらい・備考	午後	ねらい・備考
月	・保健所・市町村(保健センター)の法的位置づけ、機構、 役割等について説明 ・保健所と市町村の連携について説明	目標 1,4 目標 5	・地域保健活動における保健 師の役割の説明 ・保健所管内地域アセスメント	目標 1~3
火	・保健所の事業体系(企画、感 染症、難病、精神等)及び公 衆衛生看護について説明 (支援方法や事例管理、情 報管理等)	目標 1~3	・管内の地区踏査 ・社会資源(関係機関)を訪問	目標 2,4
水	・事業見学の説明 見学の視点整理、保健師の 役割等	目標1	<ul><li>事業見学、参加者インタビュー・カンファレンスの参加</li><li>中間カンファレンス</li></ul>	目標 1~5
木	<ul><li>・市町村の組織及び地域保健 活動の概要説明</li><li>・市町村地域アセスメント</li></ul>	目標 1,2	<ul><li>・市町村地域アセスメント</li><li>・市町村地域地区踏査</li><li>・関係機関訪問</li></ul>	目標 1,4
金	<del></del>		<del></del>	
月	・健康相談の説明 (相談の目的や事業の位置づけ、見学の視点整理)	目標 1,3	<ul><li>・健康相談見学</li><li>・カンファレンスの参加</li><li>(事後フォロー等)</li></ul>	目標 1,3
火	・健康診査の説明 (健康診査の目的や位置づけ、見学の視点整理)	目標 1,3	<ul><li>・健康診査見学</li><li>・カンファレンスの参加</li><li>(事後フォロー等)</li></ul>	目標 1,3
水	・家庭訪問の説明 (家庭訪問の目的、位置づけ、 見学の視点整理、 事例管理、情報管理等)	目標 1	・家庭訪問(見学①) ・見学の振り返り ・家庭訪問(2 回目)の説明	目標 1
木	・家庭訪問の準備 (支援計画を考える)	目標 1,3	・家庭訪問(見学②) ・関係機関連絡、見学の振り返り	目標 1,3,4
金	<ul><li>・地区組織活動の説明</li><li>・地区組織活動の見学</li></ul>	目標 1,3	・総合カンファレンス 公看実習Ⅱの重点アセスメント 整理	1~5

# 2) 公衆衛生看護学実習Ⅱ

※1日/週を帰校日とし、5週で4単位(市町村3週、保健所2週)とする。

※ 中間カンファレンスと総合カンファレンスは、市町村・保健所双方の指導者が出席する。

曜日	午前	ねらい・備考	午後	ねらい・備考
月	市長村事業計画の説明	目標 1~5	重点アセスメントのカン	目標1
	担当地区踏査	目標 6	ファレンス	
ılı	健康課題の整理・優先順位	目標 1	個別支援事例の選定	目標 2
火	スケジュール調整		訪問予約と訪問計画	
	健康診査(予診実践)	目標 2	健康教育の計画立案	目標 3
水	カンファレンス参加		地区組織活動との調整	目標 3,4
			(組織の代表者との調整)	

曜日	午前	ねらい・備考	午後	ねらい・備考
	家庭訪問(同行訪問)	目標 1	健康教育準備(チラシ・教材等	目標 3,6
木	カンファレンス、次回計画		の作成)	
_	関係機関との連携	目標 4		
金	棉校日		帰校日	- I
	健康危機管理体制の説明	目標 5	既存事業の情報収集・整理	目標 1
月	(児童虐待・高齢者虐待・DV・ 災害対策等)		家庭訪問(ロールプレイ)	目標 2,6
	地区組織活動との連携	目標 1,3,4	ケース会議の見学参加	目標 2,4
火	(健康教育の周知・住民との対		社会資源の見学・調査	目標 1,2
	話•意識調査等)		保健指導(ロールプレイ)	目標 6
水	小集団指導の説明	目標 3	健康相談(予診・指導実践)	目標 2
	自主活動の見学・調査 健康診査(保健指導実践)		グループ化の対象選定 家庭訪問(継続・単独)	<u>目標 3</u> 目標 2
木	事後フォロー	日保 4	報告・カンファレンス	日保 4
	ず (ダンス ロ		評価•訪問記録	
金	<del></del>		帰校日	
	健康教育(リハーサル)	目標 3,6	地域アセスメントの修正	目標 1,6
月	訪問予約·計画立案		個別ケースの情報整理	目標 2
火	健康教育(実践)	目標 2,3	対象者アンケート集計	目標 1,2,3
			健康教育の評価	
	事業化・施策化の検討	目標 1,6	家庭訪問(継続・単独)	目標 2,6
水	計画立案・評価指標の作成		報告・カンファレンス	
	1. 佐国松道(中間)ナルル	 目標 3	評価・訪問記録 中間カンファレンス	 目標 1~6
木	小集団指導(実践)または 社会資源の活用	日標 3 目標 4	中間ルンファレンス   (ヘルスプロモーション理念と	日保1~0
	(個別支援からの発展)	口信生	地域保健活動)	
金	棉校日		- 棉校日	
	保健医療計画の説明	目標 1~5	健康危機管理体制の説明	目標 5
月	広域連携・関係組織の説明		(感染症・食品衛生・環境衛生	
			を含む)	
	訪問事例の選定・情報収集	目標 2	健康教育の計画立案	目標 1,2,4
火	(結核・精神・難病から)		地区組織等の連絡調整	
	社会資源の情報収集	- Lar -	Mark of the first field of the	
-l-	健康危機管理(見学)	目標 5	管内医療体制・市町村との連携が記れておった。	目標 1,4,6
水	(通報・初動調査・サーベイランス等)		携状況をアセスメント	
	健康教育準備	目標 3,6	   家庭訪問(見学)	 目標 2
木		н ил о,о	カンファレンス	- W -
金	<del>帰校日</del>		<del>帰校日</del>	
月	集団感染・災害対策シミュレー ションの資料作成	目標 5,6	地域会議(見学参加) (保健所機能、広域連携)	目標 4,5
.1.	予防に関する健康教育または	 目標 3,5	健康教育の評価・記録	目標 3,6
火	小集団指導(実践)		The state of the s	
水	健康相談(見学)	目標 2	地区組織活動(見学)	目標 3,4
小	(HIV•肝炎•難病)		(患者会・家族会等)	
	実習記録まとめ	目標 1~6	総合カンファレンス	目標 1~6
木			(公衆衛生看護としての保健	
	다 사내트		師の役割、組織連携)	
金			帰校日	



# 3) 公衆衛生看護学実習Ⅲ

# 学校保健実習内容

曜日	午前	ねらい・備考	午後	ねらい・備考
月	学校保健管理体系の説明	目標 1	保健室活動の見学 健康状態と課題についての情報収 集 校内巡視 学校内の環境状況の把握	目標 1,2,3
火	朝の健康観察(低学年) 休み時間の児童生徒の健康観察 給食指導(低学年)	目標 1,2	保健室活動の見学・処置の体験 健康状態と課題についての情報収 集 学校保健委員会の活動について 職員の健康管理について 学校保健における看護職の役割	目標 1,2,3
水	朝の健康観察(低学年) 休み時間の児童生徒の健康観察 給食指導(低学年)	目標 1,2	保健室活動の見学・処置の体験 健康状態と課題についての情報収 集 校内巡視 カンファレンス	目標 1,2,3
木	朝の健康観察(中学年) 休み時間の児童生徒の健康観察 給食指導(中学年)	目標 1,2	養護教諭の授業又は保健体育の授業見学 保健室活動の見学・処置の体験 健康状態と課題についてのまとめ 校内巡視	目標 1,2,3
金	朝の健康観察(高学年) 休み時間の児童生徒の健康観察 給食指導(高学年)	目標 1,2	カンファレンス	

# 産業保健実習内容

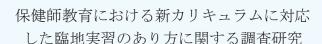
曜日	午前	ねらい・備考	午後	ねらい・備考	
月	産業保健管理体系の説明 産業保健におけるヘルスプロ モーション	目標1	健康管理室活動の説明・見学 事業所職員の健康状態と課題について 職場内の環境状況の把握	目標 1,2,3	
火	職場内巡視 職場内環境の把握 カンファレンス	目標 1,2	健康管理室活動の見学 職場内衛生委員会活動について 事業所職員の健康状態と課題の把 握	目標 1,2,3	
水	メンタルヘルス活動について 事業所における看護職の役割	目標 1,2	健康相談の見学 事業所職員の健康状態と課題の把握 職域と地域の連携についてカンファレンス	目標 1,2,3	
木	検診後の保健指導の見学 (栄養指導・生活指導・運動指 導など)	目標 1,2	健康管理室活動の見学 事業所職員の健康状態と課題の把 握	目標 1,2,3	
金	健康状態と課題についてのまとめ	目標 1,2	カンファレンス		



# 4) 公衆衛生看護学実習Ⅳ

- ※1日/週を帰校日とし、3週で2単位とする。
- ※ 学生が課題を設定して実習に臨む。例「介護予防を中心とする健康課題について」
- ※ 総合カンファレンスは、市町村・保健所双方の指導者が出席する。

曜日	午前	ねらい・備考	午後	ねらい・備考
月	学内学習(実習準備)	目標 1~4	学内学習(実習準備)	目標 1~4
火	学内学習(実習準備)	目標 1~4	学内学習(実習準備)	目標 1~4
水	実習オリエンテーション		関係機関調整	目標2
	実習計画発表		情報管理について説明	目標4
木	地域包括支援センター	目標 2,3	介護予防事業	目標 2,3
金	介護予防事業担当者(事務担	目標 2,3	介護予防事業参加者へのイン	目標 2,3
<u> </u>	当者)との意見交換		タビュー	
月	住民組織の見学とインタビュー	目標 1	介護保険認定審査会議	目標 2
火	学内学習	目標 1~4	介護保険計画について討論	目標 3
			(保健師、事務担当者)	
水	保健所管内医療計画について	目標 3	学内学習	目標 1~4
	討論(所長、担当者)			
木	人材育成計画について説明	目標 4	中間カンファレンス	
金	介護予防の資料探索	目標 2,3	介護予防事業企画と評価につ	目標 2,3
317			いての説明	
月	関係機関インタビュー	目標 2,3	事例家庭訪問	目標 2,3
火	業務管理について説明	目標 4	関連事業見学	目標1
水	学内学習(データまとめ)	目標 1~4	学内学習(データまとめ)	目標 1~4
木	学内学習(データまとめ)	目標 1~4	学内学習(データまとめ)	目標 1~4
金	「介護予防施策の評価と提言」	目標 3,4	総合カンファレンス	目標 1~4
जर	カンファレンス			



代表者: 森岡幸子(大阪府)

**分担者**: 松井通子(千葉県立野田看護専門学校)鎌田久美子(福岡県)佐藤美佐子(北海道)岡島さおり(札幌市)松本珠実(大阪市)藤山明美(神戸市)岡本里美(豊中市)野口久美子(福岡県)多田敏子(徳島大学)佐伯和子(北海道大学)藤丸知子(長崎県立大学)横山美江(大阪市立大学)大場エミ(横浜市)

**要旨**:臨地実習カリキュラムを把握するため、実習施設指導者、養成機関教員にヒアリング調査を行い、現場で活用できる臨地実習計画モデルを作成した。地域看護学臨地実習計画モデルは、現行の指定規則に基づき、看護師国家試験に必要な臨地実習を終了後に実習を行う看護師教育課程の積み上げとして行うことや、実習学生が必修項目を体験できるよう、実習施設及び教員の指導体制が整っていること等を前提条件として作成し、実習計画を遂行するにあたっての条件について考察した。

#### A. 目的

保健師教育における臨地実習計画がどのように 展開されているのか、その内容を把握し、4単位 での臨地実習計画の具体化や、施設側と学校側の 役割分担、実習における到達度などを分析して臨 地実習のあり方を考察することを目的とした。

#### B. 方法

# I 実習に関する意見の調査

#### 1 調査内容

現在どのように実習を進めているか、どのような能力を備えた保健師を求めるか、効果的な実習を行うための教育体制等について調査した。

2 調査対象およびデータ収集方法

調査対象:実習施設として、都道府県保健所 5 施設、市町村保健センター11施設、中核市1施設、 政令指定都市 3 か所、計 20 施設を対象とした。 教育機関は看護系大学 11 校、1 年課程 1 校、計 12 校を対象とした。

データ収集方法:インタビューガイドに基づき 実習施設指導者、養成機関教員にヒアリング調査 を行った。

## 3 データ収集時期

- 調査は、平成 21 年 8 月から 10 月に行った。 4 - データ分析方法

データ収集担当者が、記述内容に変更をきたさないように集約した。その内容に考察を加えながら、臨地実習計画として具体化した。

#### Ⅱ 臨地実習計画の作成

#### 1 方法

インタビュー結果を基に、新卒保健師に必要とされる能力を基準に実習計画立案の方向性を検討した。現行指定規則に基づいた4単位の地域看護学実習計画案を作成した。また研究班立ち上げ後(平成21年7月)に指定規則の改正が行われたこともあり、現行指定規則に基づいた4単位の他に充実を図った単位の異なる複数案を作成した。

計画案作成に当たって計画に盛り込む項目として共有したのは、①実習計画展開の前提となる条件、②実習目的・目標、③実習方法、④実習指導者と教員の役割、⑤実習項目、⑤計画遂行における課題である。

#### C. 結果

## Iインタビュー結果の概要

実習施設側の回答に共通していた点は、大学に おける保健師教育が増える一方で実習内容が後退 し、現場が求める能力が備わっていないことであ った。継続訪問や単独訪問等で培われる個別支援 能力や、地域に責任を持ち地域を看護する公衆衛生看護の視点など、保健師のコアとなる部分の実習が不足している。また複数の教育機関から異なる学年の学生を受入れ、臨地実習の目的や到達度について教育機関と十分に共有できていない状況であった。

教育機関側の回答に共通していた点は、現状の 実習展開では、学生数に見合った実習場所の確保 が困難ということであった。また、実習時に学生 がライセンスを有していないことによる実習内容 の限界や到達度の基準に対する提言がみられた。

両調査から、臨地実習で育成したい保健師像を、 高度専門職業人として実践できる保健師とした。

# Ⅱ 実習計画の立案

教科目名は、「公衆衛生看護学実習」(以下実習) とした。

#### 1 前提条件

#### (1) 教育機関に関して

①公衆衛生看護学領域の理念や援助に関する技術 を教授していること

②授業科目は講義、演習、学内実習等、実践能力習得につながる多彩な方法で展開していること ③実習要綱を作成し、実習目的・目標・項目について具体的に提示できること

④教員は、公衆衛生看護について精通し、指導できること (職位は問わない)

⑤教員は各保健所および市町村に原則として毎日 出向いて学生を指導すること

#### (2) 学生に関して

①看護師国家試験に必要な各領域の臨地実習で全 ての科目に合格していること

②公衆衛生看護学実習前に履修する関連科目に全 て合格していること

③公衆衛生看護学実習関連の事前学習内容が学内 の評価基準に達していること

④公衆衛生看護学実習への目的が明確であること ⑤将来も含め保健師になりたいという強い希望が あり、自覚を持っていること

⑥事前学習内容の準備をしておく

# (3) 実習施設の条件

①学生の実習を受け入れる組織が明確に定められ ていること

②公衆衛生看護活動が積極的に行われ、業務に関する指針や諸記録等が整備されていること

③保健師の実習指導者が定められ、公衆衛生看護 活動に関する経験を有していること

#### 2 実習目的

地域で生活している個人・家族の生活背景、家 族関係、社会的立場を含めて人々を理解し、支援 するために必要な基本的知識・技術を習得する。



また、集団(産業、学校分野を含む)や地域を対 象として行われる公衆衛生看護活動に対する理解 を深め、 自ら実践できる能力を養う。

実習目標

公衆衛生看護学実習 1《公衆衛生看護基礎実 1 単位》

- (1)保健所・保健センターの役割と機能(組織・ 予算を含む)を理解することができる。
- (2) 地域診断に必要な情報を収集し、地域の状 況を捉えることができる。
- (3)家庭訪問の目的ならびに方法論を理解する。 B. 公衆衛生看護学実習 2 《地域保健活動実習
- (1) 保健師が行う地域看護活動の実際を学ぶと ともに地域の健康課題を明らかにし、実践するこ とができる。
- (2) 地域のあるべき姿(ビジョン) を明確にす るとともに、効果的な保健事業を企画・立案、実 施、評価する過程、および施策化に必要な根拠と プロセスを理解し、自らも企画立案できる能力を 養う。
- (3) 継続的に家庭訪問を行い、単独訪問ができ る能力を身につける。
- (4) 地域の人々が自己決定をするために必要な 情報提供や支援に対して理解を深めるとともに、 人々の尊厳と権利、プライバシーを守ることがで きる。
- (5) 地域の健康課題や住民のニーズから健康教 育の課題を見いだし、その課題に基づいて健康教 育の企画・立案・評価ができる。
- (6) 健康政策や地域の健康課題をもとに実施さ れている各種保健事業の実際を理解し、地域保健 活動の理解を深める。
- (7) 地域における関係機関および関係職種の活 動を把握し、さまざまな場面を通して必要な情報 の共有や共通の活動目的を見出すことにより、ネ ットワークが構築される過程を理解する。
- (8) グループでなければ解決できないグループ ダイナミクスを理解し、当事者グループの活動、 ならびに地区組織活動に対する理解を深める。
- (9) 健康危機管理の実際を理解する。
- 実習場所および期間

保健所・市町村で実習期間を合計4週間以上と する。受け入れ施設や地域の実情により保健所で 1週間以上、市町村で2週間以上とする。

- 実習での必修体験項目
- (1) 地域診断(地域アセスメント)

実習の自治体を単位とし、地区踏査、統計デー タ(既存資料)と住民の声を用いておこなう。

(2) 家庭訪問

母子、成人、高齢者等の異なる特性を有する3 事例以上を対象に行い、そのうち1事例は継続単 独訪問を3回以上行う。

(3) 健康教育

地域アセスメントに基づく計画立案から実践、 評価までの一連の過程として1回以上実施する。

(4) 健康相談

母子、成人、高齢者等の異なる特性を有する3 事例以上を対象に行う。

(5) 地区組織活動

地域の組織活動に期間をおいて2回以上参加す る。

- 教員と実習指導者の役割
- (1) 教員の役割
- ①実習施設に毎日出向き、学生の学習状況の把握、 評価を行う

- ②学生個々人の到達度を見極め、随時必要に応じ た実習内容の調整を図る
- ③学生個々人の実習の評価を行う
  - (2) 実習指導者の役割
- ①事前に学校の実習目的、実習目標、到達度など を確認し、効果的な実習内容や対象者の選定を行 えるよう準備する
- ②施設の代表者は学生の受け入れ準備及び体制づ くりを行う(施設職員への周知、協力依頼、学生 控え室など居場所の確保)
- ③カンファレンスの設定
- 実習項目

表1のように保健所および市町村保健センター における実習項目をあげた。

# 表 1 実習項目例

## 保健所での実習

内容

オリエンテーション:保健所管内の概要、事 業 (保健医療計画等)

家庭訪問事例の選択・計画・準備・訪問

地域踏査・地域診断(住民へのインタビュー)

健診事業等参加

精神保健福祉相談及び支援体制

健康危機管理体制の説明(感染予防・防護服 の着用等)

地区組織・グループ活動(精神・難病家族会 等)

多問題家庭訪問事例検討

事業の施策化(企画、 実施・評価)の説明

健康相談等事業参加

保健所実習まとめカンファレンス

# 市町村保健センターでの実習

オリエンテーション:地域の概況、保健事業 の施策化に関する内容・事業・健康危機管理

地域診断(地域踏査・地域住民へのインタビ ュー・既存資料の分析・社会資源のマッピン

健康教育の計画立案・実施

健康相談の計画立案・実施

地区組織・グループ活動支援 地域支援事業(地域包括支援センター訪問)

家庭訪問事例の選択・計画・準備・訪問

家庭訪問事例にかかる関係機関連絡・社会 資源見学訪問

健康づくり協議会会議に参加

介護保険・障害者自立支援事業

まちづくり等他部門との連携

保健事業についての評価

住民へインタビュー結果のまとめ及び発表

市町村実習まとめカンファレンス

## 実習全体をとおして

実習の学び発表および意見交換

#### 考察

実習計画遂行における課題として、看護師教育 の上乗せとする前提条件を遵守し、他の科目と読 み替えることなく指定規則に示されている4単位 を最低実施すべき実習として、学生に体験させる 実習を行うこと、保健師の実践力の質の担保につ ながる指導体制の整備が必要であることを確認し た。さらに、今後の課題として、学校や産業の場 における実習は別途計画する必要があると考えた。 保健師教育における新カリキュラムに対応 した臨地実習のあり方に関する調査研究

代表者: 森岡幸子

(大阪府健康医療部保健医療室地域保健感 染症課 参事)

#### 目的

保健師教育における臨地実習計画がどのよ うに展開されているのか、その内容を把握し、 4単位での臨地実習計画の具体化や、施設 側と学校側の役割分担、実習における到達 度などを分析して臨地実習のあり方を考察す

# 方法一実習に関する意見の調査

#### 調査内容

現在どのように実習を進めているか、どのような能力を備えた保健 師を求めるか、効果的な実習を行うための教育体制等について調査した。

2 調査対象およびデータ収集方法

調査対象・実習施設として、都道府県保健所5施設、市町村保健センター11施設、中核市1施設、政令指定都市3か所、計20施設教育機関は看護系大学11校、1年課程1校、計12校を対象とした。 データ収集方法:インタビューガイドに基づき実習施設指導者、養成機関教員にヒアリング調査を行った。

3 データ収集時期

調査は、平成21年8月から10月に行った。

4 データ分析方法

データ収集担当者が、記述内容に変更をきたさないように集約した。その内容に考察を加えながら、臨地実習計画として具体化した。

## 方法一<u>臨地実習計画の作成</u>

インタビュー結果を基に、新卒保健師に必要とされる能 力を基準に実習計画立案の方向性を検討した。

現行指定規則に基づいた4単位の地域看護学実 習計画案を作成するとともに、研究班立ち上げ後 (平成21年7月)に指定規則の改正が行われたこ ともあり、内容の充実を図った単位の異なる複数案 を作成した。

実習計画作成にあたって以下の事項を共有した

- ①実習計画展開の前提となる条件
- ②実習目的・目標
- ③実習方法、④実習指導者と教員の役割
- ⑤実習項目、⑥計画遂行における課題である。

結果一インタビュー結果の概要

実習施設側の回答に共通していた点は

大学における保健師教育が増える一方で実習内容が後退し、現場が 求める能力が備わっていない

継続訪問や単独訪問等で培われる個別支援能力や、地域に責任を持ち地域を看護する公衆衛生看護の視点など、保健師のコアとなる部分の実習が不足

複数の教育機関から異なる学年の学生を受入れ、臨地実習の目的や 到達度について教育機関と十分に共有できていない 教育機関側の回答に共通していた点は

学生数に見合った実習場所の確保が困難

実習時に学生がライセンスを有していないことによる実習内容の限界



育成したい保健師像は、高度専門職業人として実践できる保健師

# 実習計画の立案一前提条件

教科目名は、「公衆衛生看護学実習」(以下実習)とした。

(1) 教育機関に関して ①公衆衛生看護学領域の理念や援助に関する技術を教授していること ②教員は各保健所および市町村を分担し、原則として毎日出向いて学生を指導すること

ること ③教員は公衆衛生看護に精通し、指導できること

○郊東はな水闸エー度に特通し、指導できること (2)学生に関して ①看護師国家試験に必要な各領域の臨地実習で全ての科目に合格していること ②公衆衛生看護学実習前に履修する関連科目に全て合格していること ③将来も含め保健師になりたいという強い希望があり、自覚を持っていること

(3)実習施設の条件

①学生の実習を受け入れる組織が明確に定められていること ②公衆衛生看護活動が積極的に行われ、業務に関する指針や諸記録等が整備

③保健師の実習指導者が定められ、公衆衛生看護活動に関する経験を有してい

#### 実習目的

地域で生活している個人・家族の生活背景、 家族関係、社会的立場を含めて人々を理解し、 支援するために必要な基本的知識・技術を習 得する。また、集団(産業、学校分野を含む) や地域を対象として行われる公衆衛生看護活 動に対する理解を深め、自ら実践できる能力 を養う。

# 実習目標

- (1)保健師が行う地域看護活動の実際を学ぶとともに地域の健康課題を明らかにし、実践することができる。
- かにし、実践することができる。 (2) 地域のあるべき姿(ビジョン)を明確にするとともに、効果的な保健事業を 企画・立案、実施、評価する過程、および施策化に必要な根拠とプロセス を理解し、自らも企画立案できる能力を養う。 (3) 継続的に家庭訪問を行い、単独訪問ができる能力を身につける。

- (4) 地域の人々が自己決定をするために必要な情報提供や支援に対して理 解を深めるとともに、人々の尊厳と権利、ブライバシーを守ることができる。 (5) 地域の健康課題や住民の二ズから健康教育の課題を見いだし、その課題に基づいて健康教育の企画・立案・評価ができる。
- (6)健康政策や地域の健康課題をもとに実施されている各種保健事業の実際を理解し、地域保健活動の理解を深める。
- 際を埋解し、地域保健活動の埋解を深める。 (7)地域における関係機関および関係職種の活動を把握し、さまざまな場面 を通して必要な情報の共有や共通の活動目的を見出すことにより、ネット ワークが構築される過程を理解する。 (8)グループの活動、ならびに地区組織活動に対する理解を深める。 (9)健康危機管理の実際を理解する。

実習での必修体験項目

- (1)地域診断(地域アセスメント)
  - 実習の自治体を単位とし、地区踏査、統計データ(既存資料)と住民 の声を用いておこなう。
- (2)家庭訪問
- 母子、成人、高齢者等の異なる特性を有する3事例以上を対象に行い、そのうち1事例は継続単独訪問を3回以上行う。 (3)健康教育 地域アセスメントに基づく計画立案から実践、評価までの一連の過程
- として1回以上実施する。 (4)健康相談
- 母子、成人、高齢者等の異なる特性を有する3事例以上を対象に行
  - 地域の組織活動に期間をおいて2回以上参加する。

11

# 保健所での実習

オリエンテーション:保健所管内の概要、事業(保健医療計画等) 家庭訪問事例の選択・計画・準備・訪問

地域踏査・地域診断(住民へのインタビュー)

健診事業参加

精神保健福祉相談及び支援体制

健康危機管理体制の説明(感染予防・防護服の着用等)

地区組織・グループ活動(精神・難病家族会等)

多問題家庭訪問事例検討

事業の施策化(企画、実施・評価)の説明

健康相談等事業参加

10

#### 市町村保健センターでの実習

- オリエンテーション: 地域の概況、保健事業の施策化に関する内容・事業・健康危機管理等
- 健康教育の計画立案・実施
- 健康相談の計画立案・実施
- 家庭訪問事例の選択・計画・準備・訪問・訪問事例にかかる関係機関連絡・社会資源見学訪問
- 健康づくり協議会会議に参加
- 介護保険・障害者自立支援事業まちづくり等他部門との連携
- 保健事業についての評価
- 住民ヘインタビュー結果のまとめ及び発表

今後の課題

実習は、看護師教育の上乗せとする前提条件 で展開する

他の科目と読み替えることなく指定規則に示 されている4単位を実施する

学生に体験させる実習を行う

保健師の実践力の質の担保につながる指導 体制の整備が必要である

4単位で行うならば、学校や産業の場におけ る実習は別途計画する必要がある

平成21年度「地域保健総合推進事業」事業

# 保健師教育における新カリキュラムに対応した 臨地実習のあり方に関する調査研究 報告書

発行日平成22年3月

編集・発行 研究代表者 森岡 幸子

(大阪府健康医療部保健医療室地域保健感染症課)

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目1番22号 TEL 06-6944-3288 FAX 06-4792-1722

※上記部署は、平成22年3月まで

